

1/10 SCALE ELECTRIC COMPETITION RADIO CONTROL OFF-ROAD 4WD RACING CAR

INSTRUCTION MANUAL

Super Dog Fighter '93 YOKOMO **WORKS** '93



(注) この写真はワークス '93
と細部が異なります。



TEAM YOKOMO
INTERNATIONAL R/C CAR RACING TEAM

スーパードッグファイター ワークス'93

ヨコモの独創性と先進性に富んだレーシングデザインから誕生した、1/10スケールオフロード4WDレーシングマシン・YZ-870Cスーパードッグファイターは、発表以来世界各地のビッグレースでの勝利はもちろん、第3回世界選手権レースでは1-2-3位、更に第4回世界選手権でも1-2位（発展型のワークス'91）独占！！

世界チャンピオンメーカーのヨコモが'93年の第5回世界選手権での3連破を狙って発売する'93年用ワークス仕様車がスーパードッグファイター・ワークス'93です。

スーパードッグファイター・ワークス'93キットは最先端オプション・パーツを標準装備として登場した、世界最強のオフロード4WDマシンです。

是非、あなたも取扱い組立説明書を良く読んで、正確に組み立て、その高性能を十分に発揮させて、お楽しみ下さい。

[組立・走行に必要なもの]

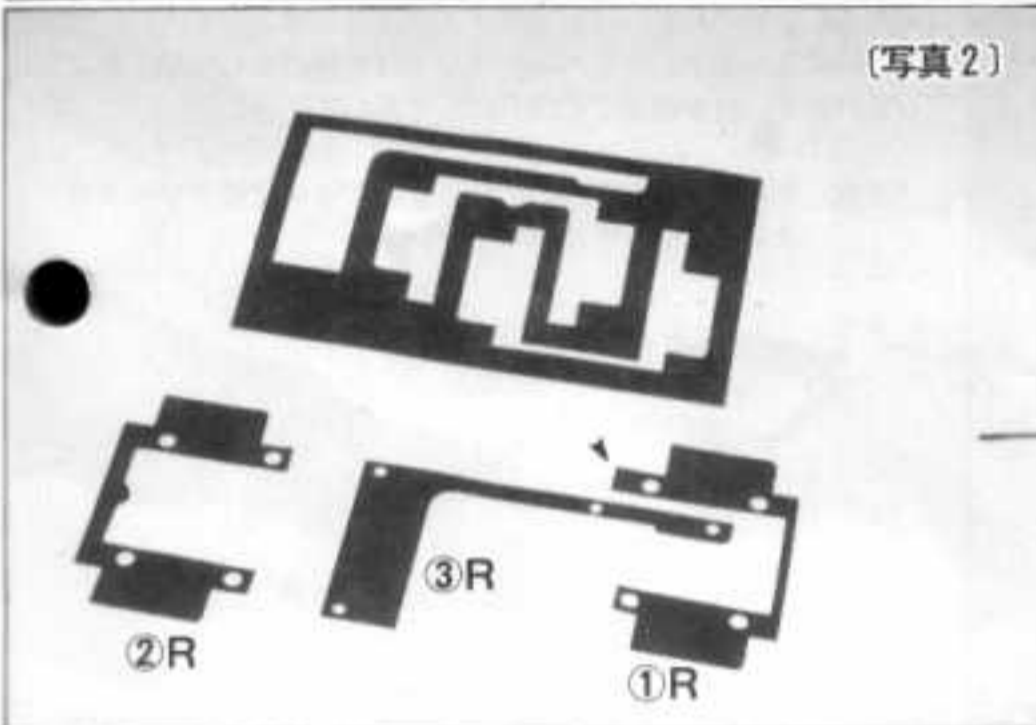
- ☆ 2チャンネル・プロポ（スピードコントローラーアンプ付）
- ☆ 05タイプ・モーター（例）ヨコモ ウイング4又はスーパーウイング4
- ☆ ニッカド・バッテリー 7.2V（6NサブCサイズ）
（例）ヨコモ 1800(7.2V)SCEセバレートバッテリー
ヨコモ 1700(7.2V)SCRセバレートバッテリー
- ☆ ニッカド・バッテリー用急速充電器
（例）ヨコモ クイックターボカスタム 7.2V～8.4V用
ヨコモ YZ-720E オートピークチャージャー

[必要な工具類]

- カッターナイフ ○丸型金ヤスリ（直径2～4mm位） ○平型金ヤスリ
- ラジオペンチ又はプライヤー ○+ドライバー（小） ○+ドライバー（緑色のアルミ皿ネジにピッタリ合うもの） ○ハンダゴテ（60W位）及び糸ハンダ少々
- 瞬間接着剤 ○セメダインコンタクト（ゴム系接着剤） ○つまようじ1本
- AS-6636 デフループ¥430 ○AS-6588 ブラックグリース¥430
- ドリル（手動又は電動式）及び金属用4.5mm、6mm ドリルの刃

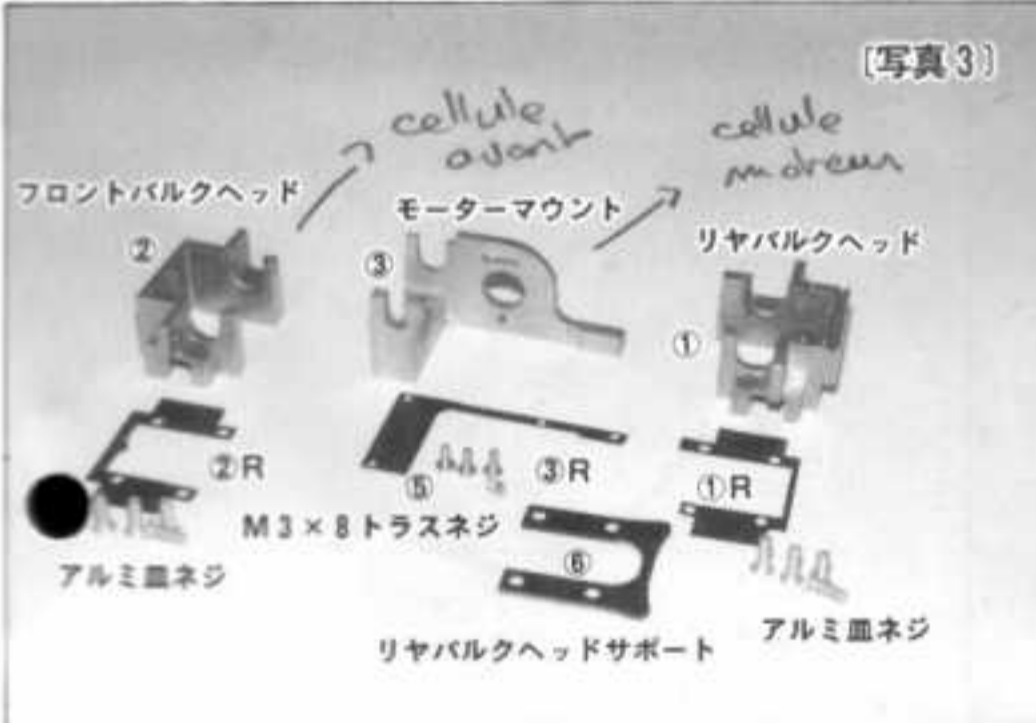


[写真1] まずキットの箱よりシャーシプレートを取り出し、加工する事から始めます。シャーシプレートの上面(皿穴加工をしていない面)バッテリーの入る穴の角を平型金ヤスリで削って下さい。削る量は適当でOKです。この作業を行っておくとバッテリーの座りが良くなる事他に、角でバッテリーに傷をつけてしまう事も防げるからです。



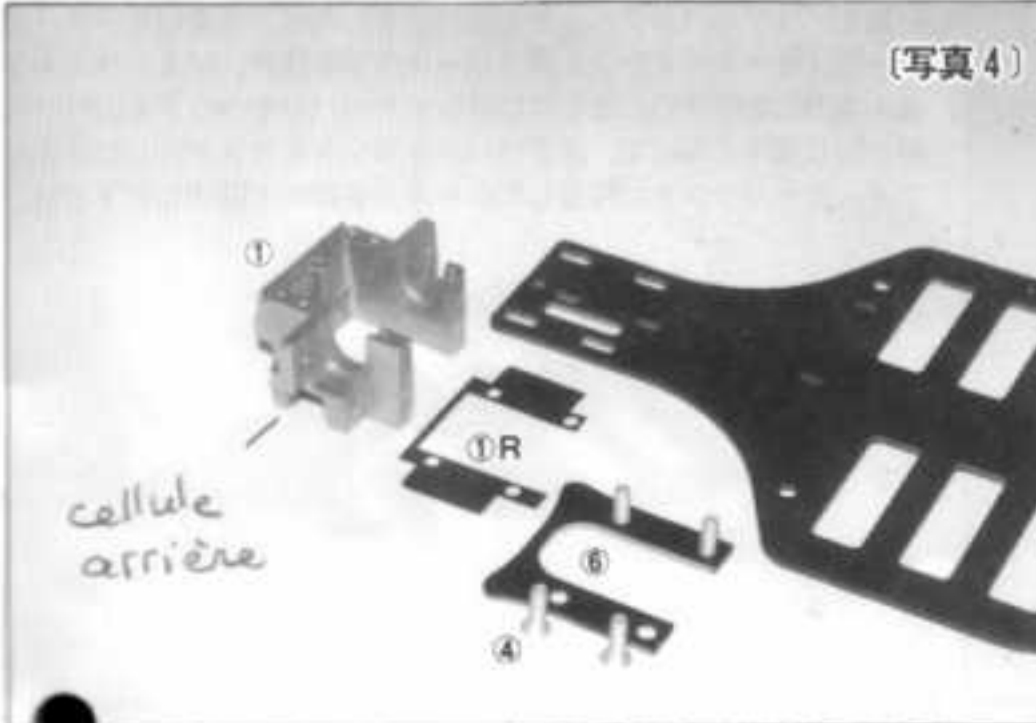
[写真2] バルクヘッド/モーターマウント等が入っている№1の袋を取り出し開封して下さい。ゴムのシートが1枚入っていますが、写真のようにシートから①R、②R、③Rを切り離して下さい。残りのゴムは使用しません。

→ Vires (protections qui servent a rien)



[写真3] それでは、今開けた№1の袋に入っているパーツに欠品が無い事を確認して下さい。

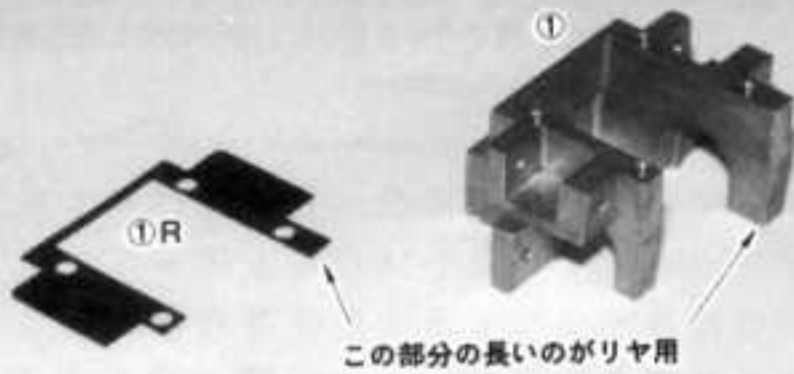
- | | | | | |
|---------|------------------------|--------------------|-------|----|
| №1の袋の内容 | ① | リヤバルクヘッド | | 1コ |
| | ①R | リヤバルクヘッド用ラバーマウント | | 1枚 |
| | ② | フロントバルクヘッド | | 1コ |
| | ②R | フロントバルクヘッド用ラバーマウント | | 1枚 |
| | ③ | モーターマウント | | 1コ |
| | ③R | モーターマウント用ラバーマウント | | 1枚 |
| ④ | バルクヘッド取付用8-32アルミ皿ネジ | | 8本 | |
| ⑤ | モーターマウント取付用M3X8mmトラスネジ | | 4本 | |
| ⑥ | リヤバルクヘッドサポート | | 1コ | |



[写真4] リヤバルクヘッドの取付に入ります。写真3の①、①R、⑥を用意します。

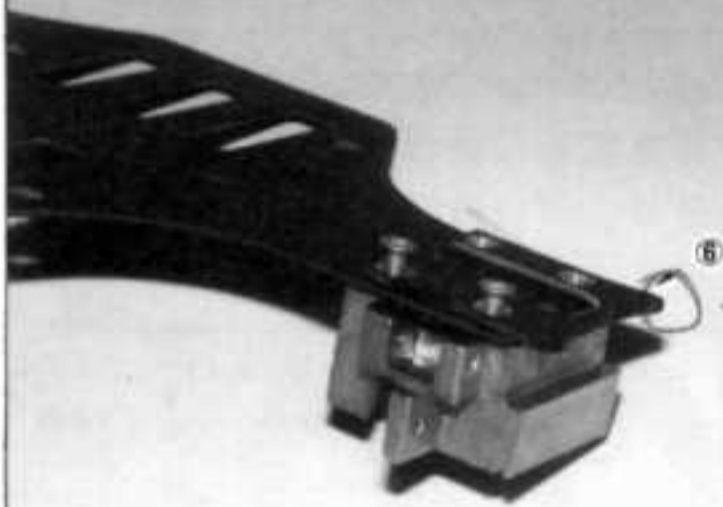
リヤバルクヘッド裏面にゴム系接着剤をぬる

[写真5]



[写真5] リヤ用の場合には左右があり、長さが異なっていますから、ラバーマウントをセメダインコンタクトで貼る時に、左右の長さが起こらないように気をつける事。

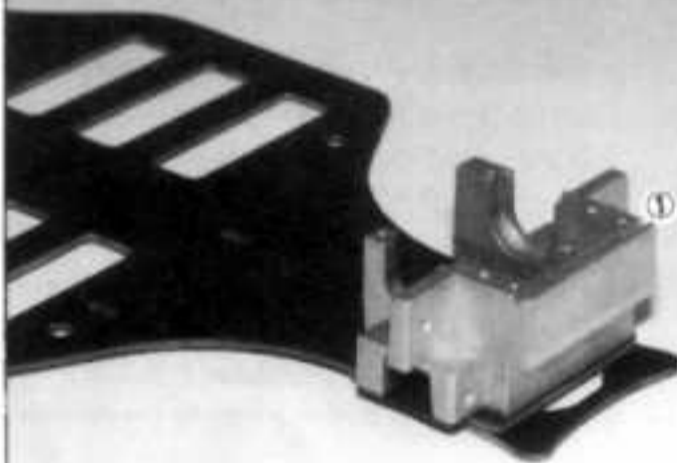
[写真6]



[写真6] リヤバルクヘッドサポートにアルミ皿ネジを入れ、写真のように締め込みます。リヤバルクヘッドは前後に少し移動するようになっています。とりあえず前の方にしておいて下さい。

(注意) アルミ皿ネジを入れる時少量のオイル又はグリースをネジ部に塗っておいて下さい。

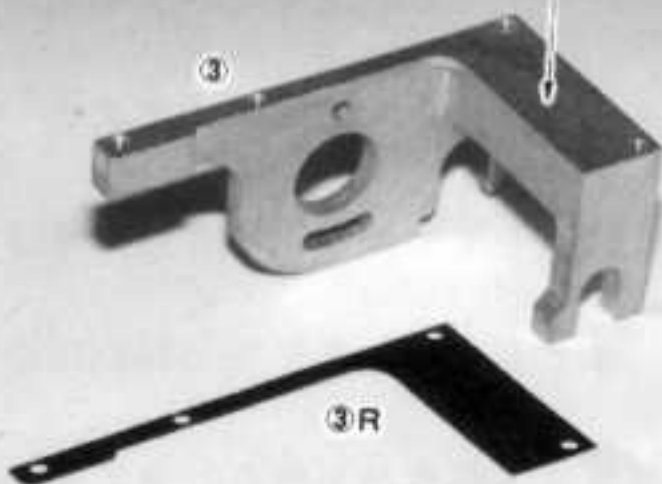
[写真7]



[写真7] このようになっていますか？

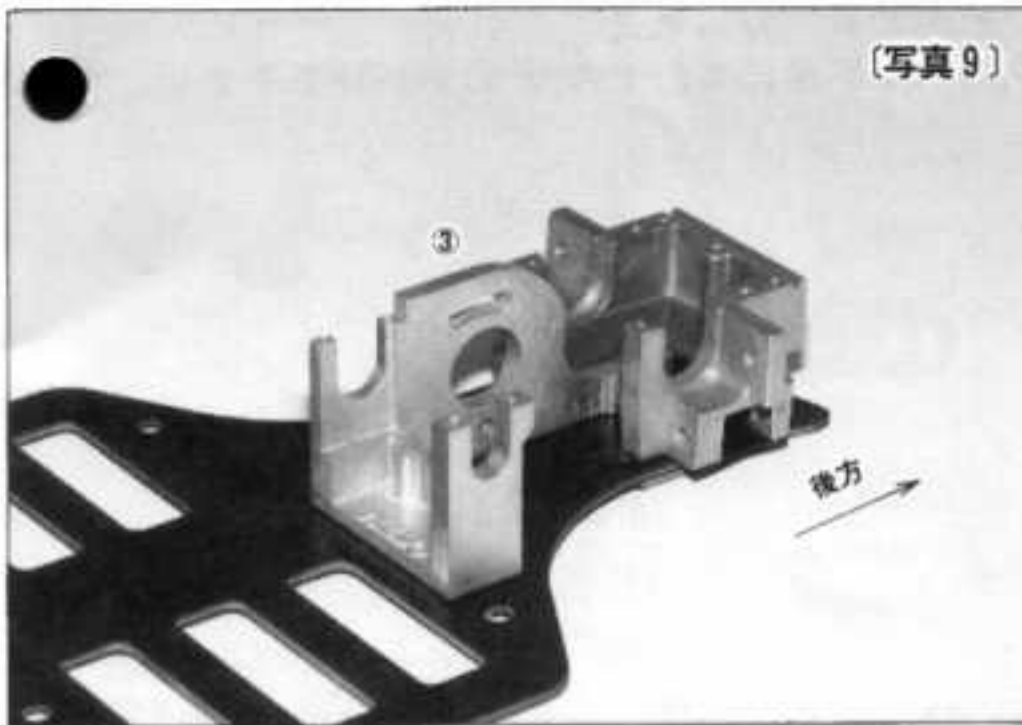
モーターマウント裏面にゴム系接着剤をぬる

[写真8]



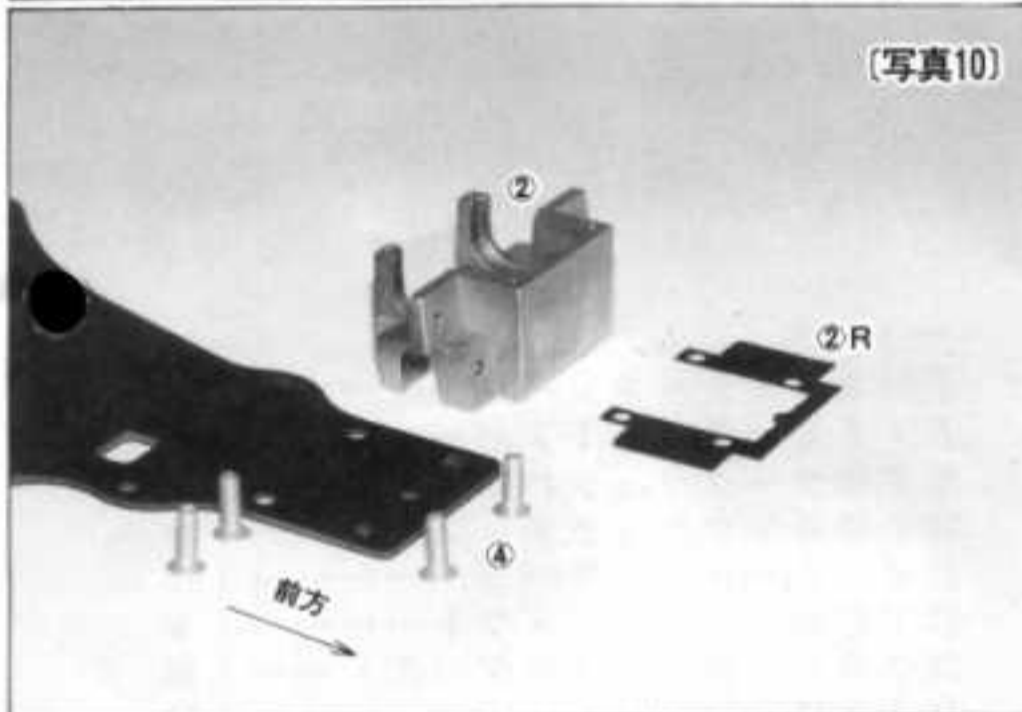
[写真8] リヤのバルクヘッドを取付けましたら、今度はモーターマウント③、モーターマウント用ラバーマウント③R、M3トラスネジ⑤を4本出して下さい。そしてフロンリヤのバルクヘッドを取付けした時と同じ順序と方法で、まずラバーマウントをセメダインコンタクトでモーターマウントに接着してからネジを締め固定して下さい。

[写真9]



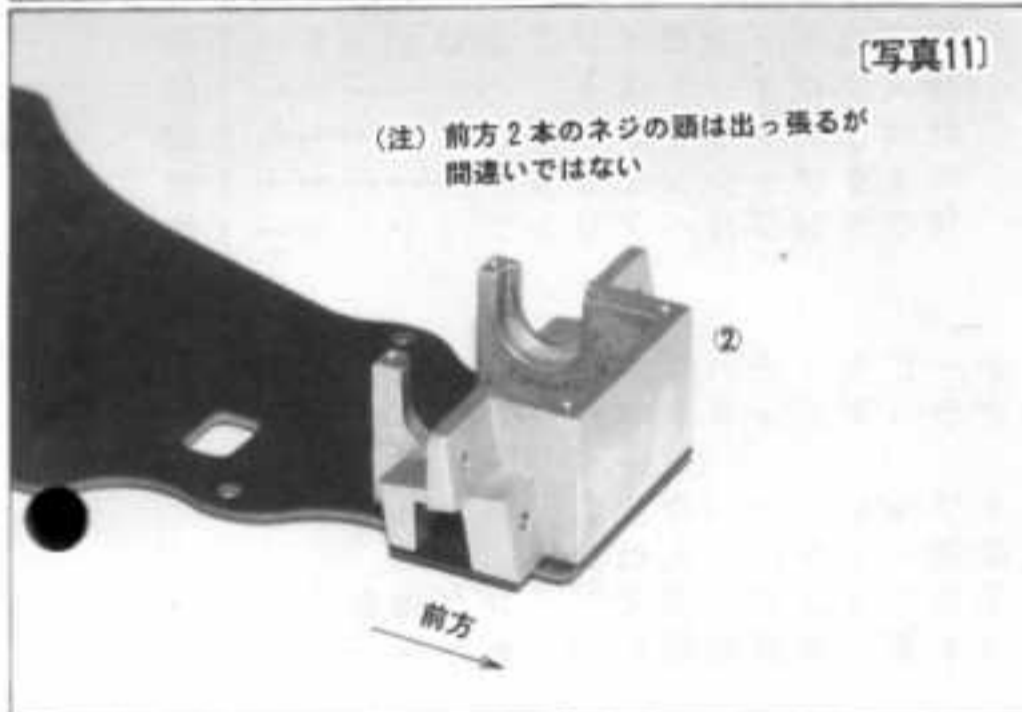
[写真9] モーターマウントも取り付けました。

[写真10]



[写真10] フロントバルクヘッド②とフロントバルクヘッド用ラバーマウント②R (ゴムのシート)、緑色のアルミ皿ネジ④を4本、それにセメダインコンタクト (ゴム系接着剤) を用意して下さい。ラバーマウントの片面にセメダインコンタクトを薄く塗って、フロントバルクヘッドに貼付けます。バルクヘッドの4つ開いたネジ穴に穴穴が合うように貼付けること。

[写真11]



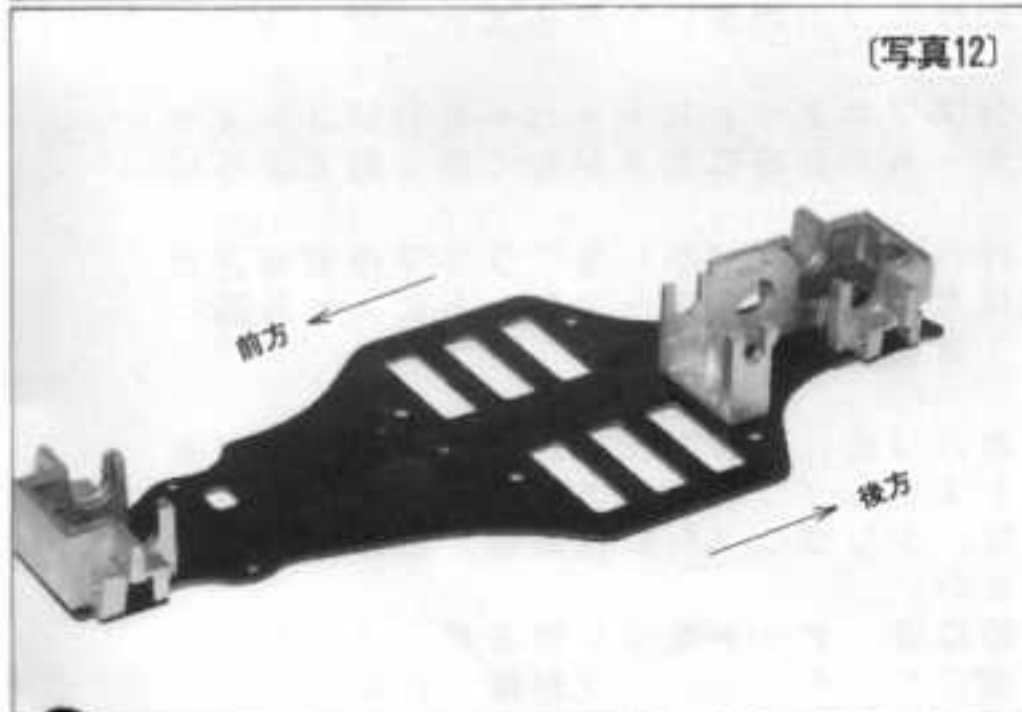
(注) 前方2本のネジの頭は出っ張るが間違いいではない

[写真11] シャーシの上にフロントバルクヘッド②をのせて、アルミ皿ネジ4本をシャーシ裏面(下)面より通して、固定して下さい。

(注) 4本のネジ穴のうち、シャーシ裏(下)面の前方の穴2つには皿穴加工がしていないので、ネジの頭がシャーシ裏面より出っ張ってしまいますが、これは不良の為ではありません。後でバンパーをここに取付けると平らになります。しかし今は、後の作業をやり易くする為にバンパーを取付けずにネジだけを仮止めとして締めておいて下さい。

(注意) アルミ皿ネジを入れる時少量のオイル又はグリースをネジ部に塗っておいて下さい。

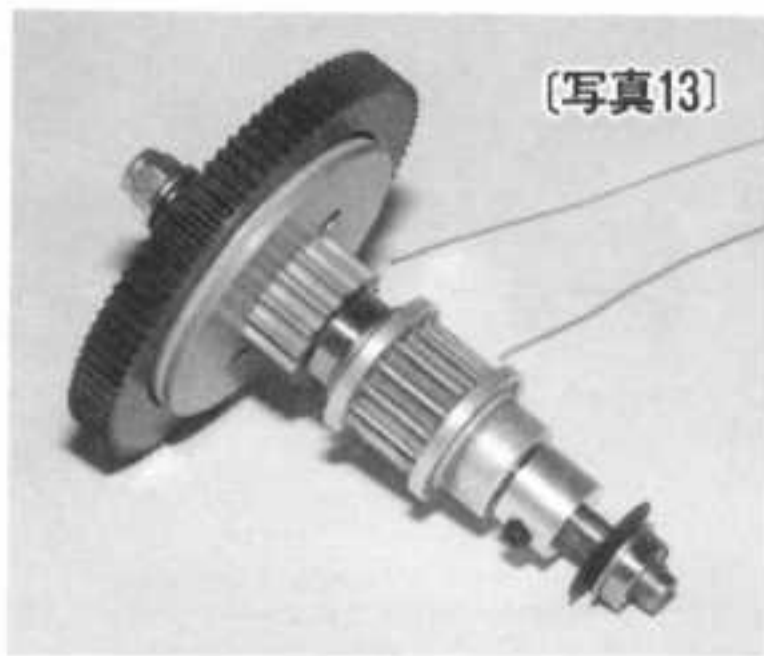
[写真12]



[写真12] 今迄の加工と作業でここまで完成しました。あなたの声と写真を良く見比べて下さい。どこか違っているようなら最初からもう一度説明書を良く読んで下さい。OKであればここでコーヒーかお茶でも飲んで少し休んでみて下さい。気分が落ち着いたら次からは駆動部分の組立にはいります。

トラクション コントロール システム の 組立

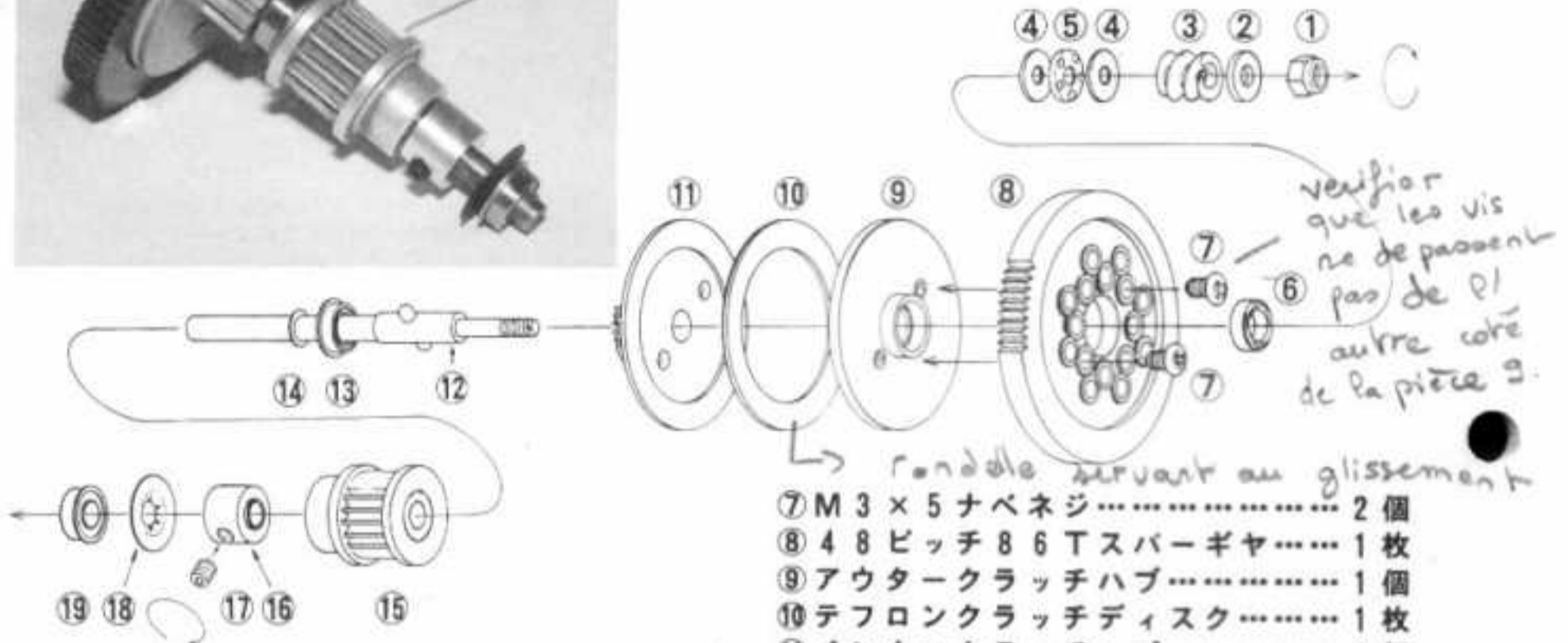
№ 2 の袋から部品をだして下さい。部品が多いので下図にあわせてチェックして下さい。



[写真13]

Slipper modifié :

- pignon interchangeable
- plus de roue libre (pignon fixe)



vérifier que les vis ne dépassent pas de l'autre côté de la pièce.

→ rondelle servant au glissement

- ① M 3 ナイロンナット..... 1 個
- ② スプリング押さえワッシャー..... 1 枚
- ③ スプリング..... 1 個
- ④ スラストワッシャー..... 2 枚
- ⑤ スラストベアリング..... 1 個
- ⑥ 5 φ × 8 φ ベアリング..... 1 個

- ⑦ M 3 × 5 ナベネジ..... 2 個
- ⑧ 4 8 ピッチ 8 6 T スパーギヤ..... 1 枚
- ⑨ アウタークラッチハブ..... 1 個
- ⑩ テフロンクラッチディスク..... 1 枚
- ⑪ インナークラッチハブ..... 1 個
- ⑫ TCS センターシャフト..... 1 本
- ⑬ フランジ付ベアリング (大)..... 1 個
- ⑭ 4 φ ワッシャー..... 1 枚
- ⑮ フロントドライブスプロケット..... 1 個
- ⑯ スプロケットストッパー..... 1 個
- ⑰ M 3 × 4 セットスクリュー..... 1 個
- ⑱ 4 φ ブッシュナット..... 1 枚
- ⑲ フランジ付ベアリング (小)..... 1 個

それでは、組立にはいります。

1. ⑫ TCS センターシャフトのピンに⑪ インナークラッチハブの溝を合わせて入れます。
2. ⑪ インナークラッチハブの上に⑩ テフロンクラッチディスク (黄色) 乗せ⑨ アウタークラッチハブを差し込みます。
3. ⑥ 5 φ × 8 φ ベアリングを入れ、④ スラストワッシャー (薄) を1枚入れます。
4. ⑤ スラストベアリングにブラックグリースを塗ってから、入れます。
5. ④ スラストワッシャー (薄) を1枚入れ、③ スプリング、② スプリング押さえワッシャー (厚) の順に入れ、① M 3 ナイロンナットを、ネジの頭がナットから一山位でるまでネジ込んで下さい。
6. ⑬ フランジ付ベアリング (大) を図のようにフランジの無い方から入れ、⑭ 4 φ ワッシャーを入れます。
7. ⑮ フロントドライブスプロケットを入れ、⑯ スプロケットストッパーを⑰ M 3 × 4 セットスクリューでフロントドライブスプロケットが左右にガタがなく軽く動くように、取付けて下さい。
8. ⑱ 4 φ ブッシュナットを入れ、⑲ フランジ付ベアリング (小) をフランジの有る方から入れます。⑱ 4 φ ブッシュナットの位置は写真42でモーターマウントに入れる時、左右にガタがなく軽く入るように調整して下さい。

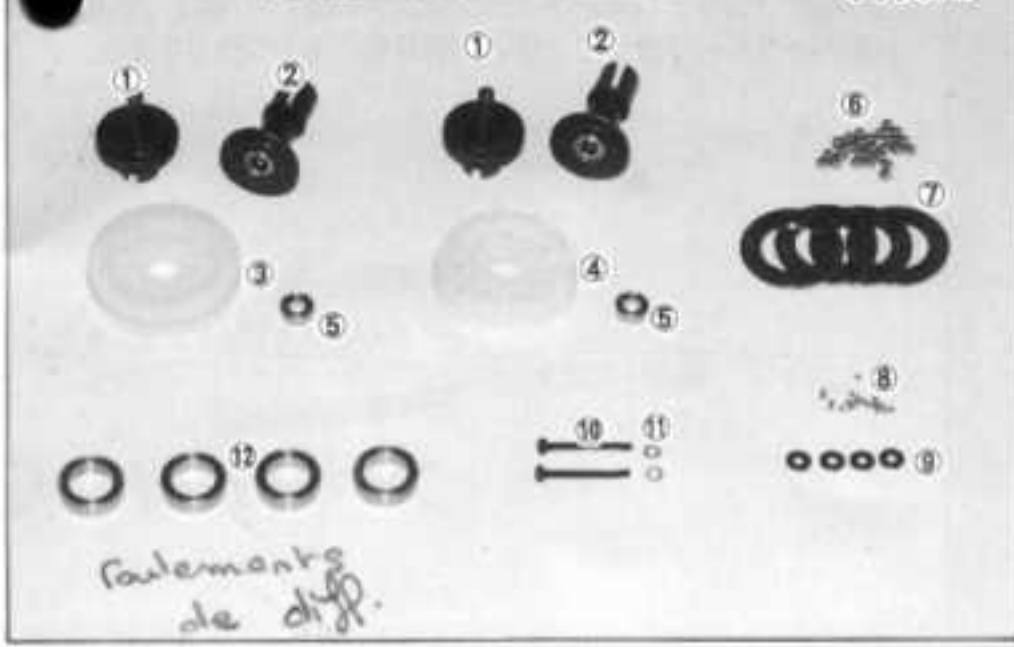
調整方法

上記の説明通りに組み上がった後、あとは走行させてみてからセッティングをして下さい。走行させてみてTCSがスリップしすぎ、アクセルに対してパワーの反応がにぶいと感じられた時には、少しづつ (1/8 回転位) 好みのフリーリングになるように、ナットを締めていって下さい。

又、路面状況等で車のコントロールがしにくい時には、ナットを少しゆるめにセットし、TCSをスリップぎみに調整する事で、操縦が楽になりタイムアップがはかれます。

デフ組立は絶対説明書を読む事

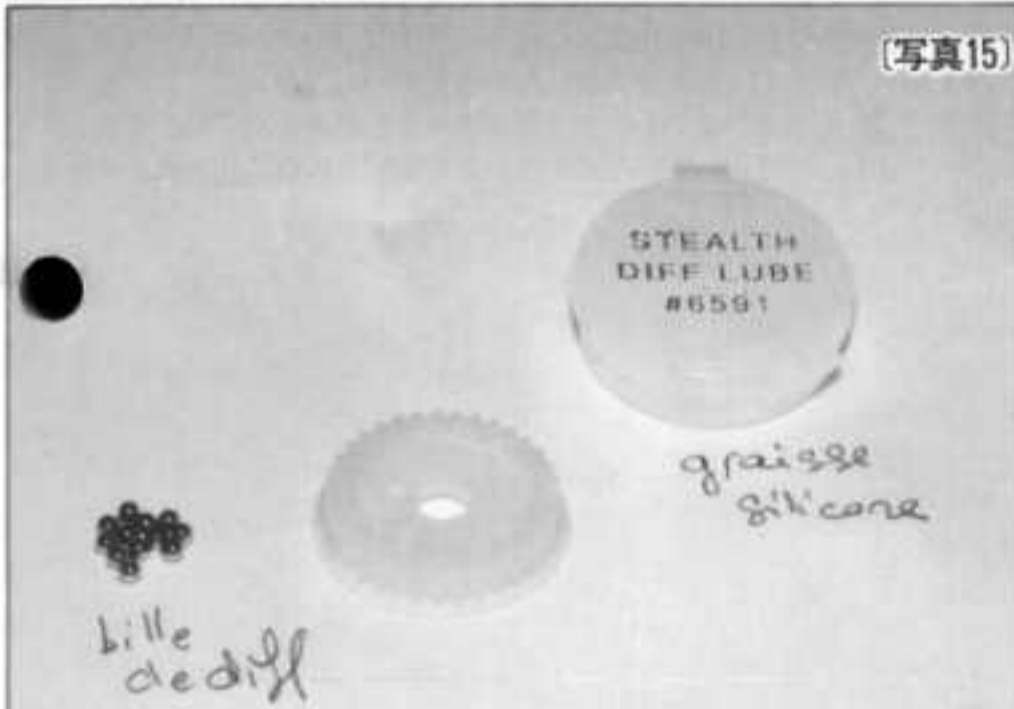
[写真14]



[写真14] №3のデフの袋を取り出して内容を確認して下さい。
 (注1) 部品の中にデフ プーリーが2コ入っていますが、③リヤ用と④フロント用です。形が違うので間違えないようにして下さい。
 (注2) ⑩デフ調整用M2キャップスクリューは2本共、ネジの先端の方に傷があり、少し曲がっていますが、これはゆるみ止めの為におこなってあるもので不良品ではありません。

内容	数量
①デフジョイント (S)	2コ
②デフジョイント (L)	2コ
③フロント デフ プーリー	1コ
④リヤ デフ プーリー	1コ
⑤デフ プーリー用 4mmφ × 8mmφ ベアリング	2コ
⑥超精密級デフボール	24コ
⑦ドライブリング	4枚
⑧超精密級スラストボール	18コ
⑨スラストワッシャー	4枚
⑩デフ調整用M2キャップスクリュー	2本
⑪デフ調整用スプリングワッシャー	2コ
⑫デフベアリング	4コ

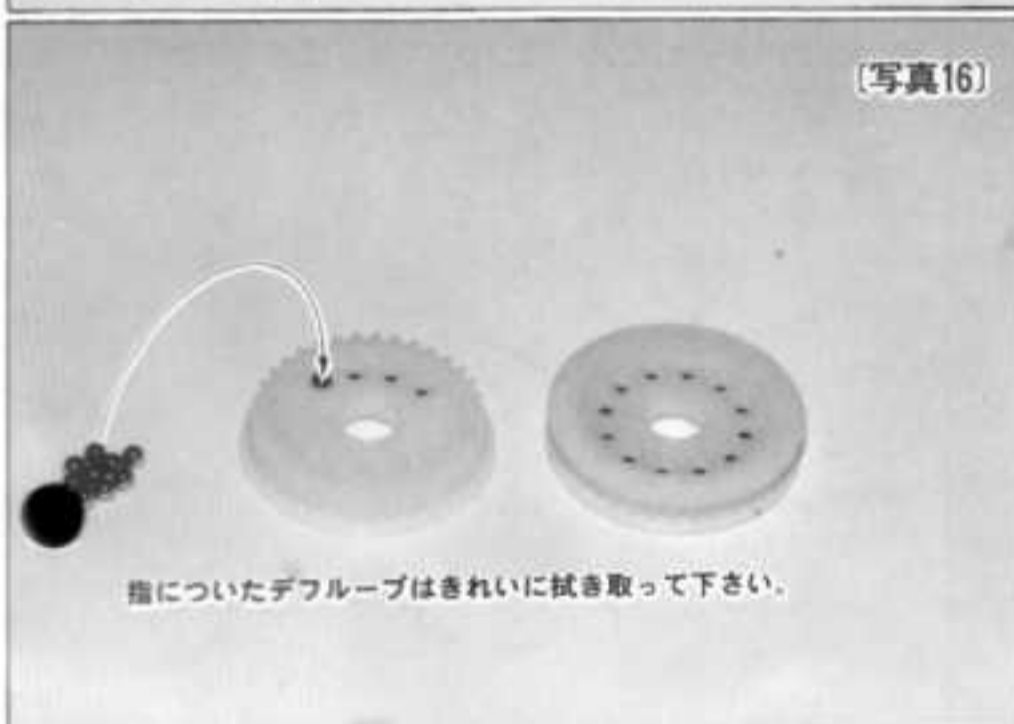
[写真15]



[写真15] デフプーリーのボールの入る12コの穴にデフループを入れます。

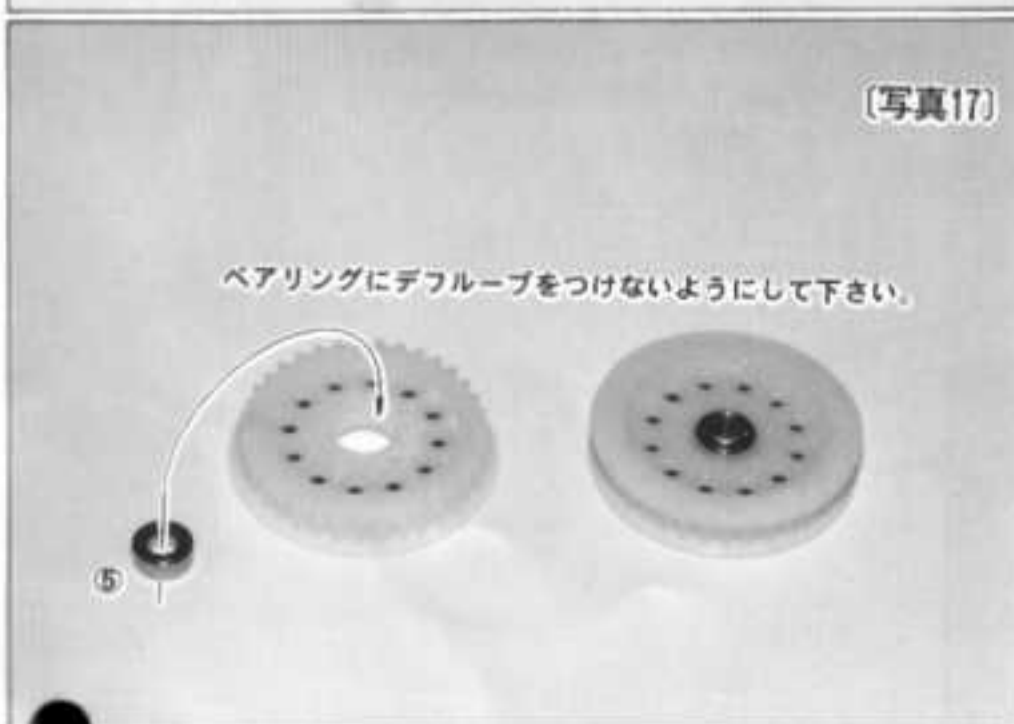
高性能グリスとしてはアメリカ・アソシエイテッド社製のステルスデフループ (写真右)、デフループ (AS-6636) があります。日本では株式会社ヨコモが輸入、¥430で販売していますので是非、お試し下さい。

[写真16]



[写真16] フロント③及びリヤ デフプーリー④にそれぞれデフボール⑥を12個ずつ入れて下さい。裏側にデフループが出てきますが、指で押し込んで下さい。指についたデフループをきれいに拭き取ってから次に進みましょう。

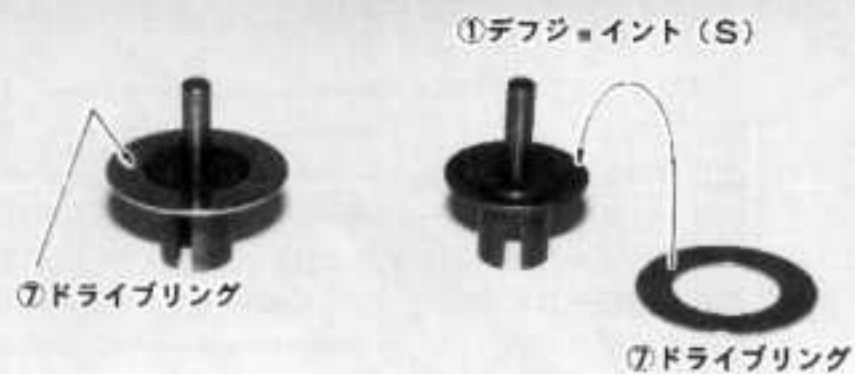
[写真17]



[写真17] ⑤デフプーリー用 4mmφ × 8mmφ ベアリングを用意して、デフプーリー中央の穴に入れます。
 (注意) ボールベアリングにデフループをつけないようにして下さい。

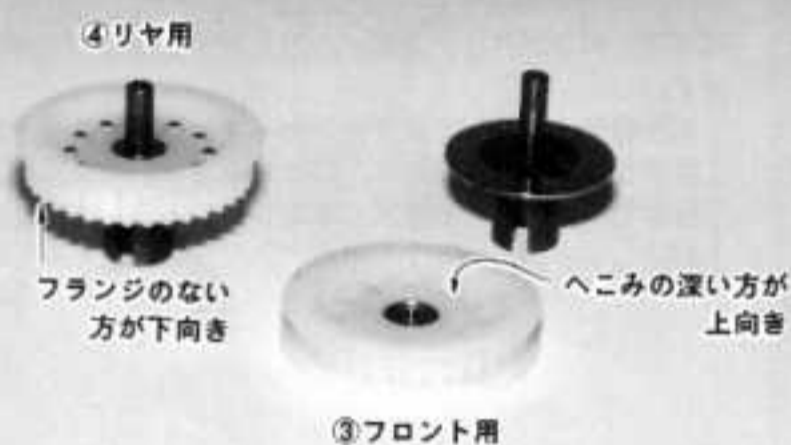
[写真18]

[写真18] ①デフジョイント (S) の⑦ドライブリングをのせます。この時デフジョイントとドライブリングの当たり面に、滑り止めとして少量のデフループ塗って下さい。同じものを2つ作ります。



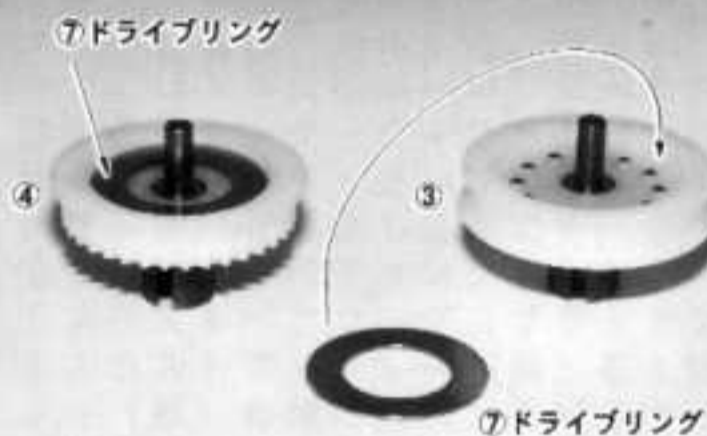
[写真19]

[写真19] 18で作った片方に④リヤ デフプーリーのフランジ (ツバ) のない方を下に向けて差込みのせます。もう一つのデフジョイント S の方には③フロント デフプーリーをのせるのですが、フランジ面よりボールの入っている面の浅い方を必ず上にして差し込んで下さい。



[写真20]

[写真20] ⑦ドライブリングをフロント及びリヤ デフプーリーの上ののせます。

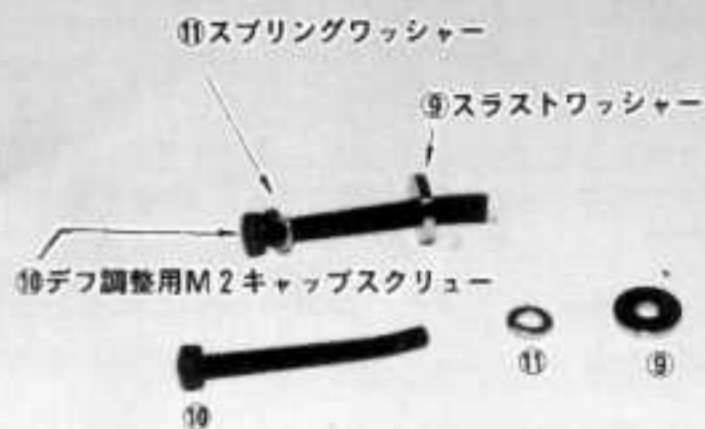


[写真21]

[写真21] ②デフジョイント (L) を先ほどのドライブリングの上にフロント用、リヤ用共に差込みのせます。



[写真22]



[写真22] M2キャップスクリューにスプリングワッシャーを入れて次にスラストワッシャーを入れたものを2コ作る。

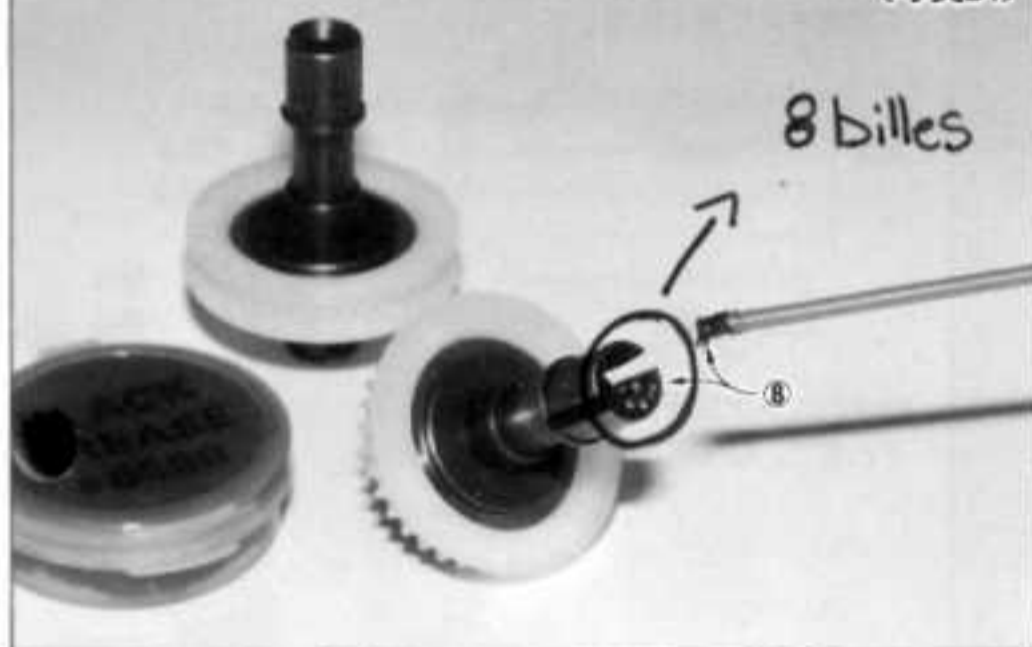
(注) 前にも説明しましたが、M2キャップスクリューのネジの先端の方が少し傷付いて曲がっていますが不良品の為ではなくゆるみ止めの為にわざわざ行っているものです。

[写真23]



[写真23] 右下図①デフジョイント(L)の中に⑨スラストワッシャーを1枚、図のように底に平らに入れて下さい。次にシリコングリスをデフジョイント(L)の入口部分に少し盛上がるようにつけて下さい。(注意) ここではデフループは絶対に使用しないで下さい。デフループには滑り止めが入っていますので、写真のブラックグリスを使用すると良いでしょう。これもアソシエイテッド社製で¥430です。

[写真24]



[写真24] ⑧スラスト用ボールを9個、入口のシリコングリスの上のにせるようにつけて下さい。ボールは多くても少なくてもだめです。必ず9個ですよ!! ボールを入れる時、写真のようにつまようじの先にシリコングリスをつけておくと、ボールがついて簡単に入れられます。

[写真25]

(注) キャップスクリューを入れる時ネジの先端でボールを押さない事

スラストワッシャーでボールを押して穴の奥へ入れて行く

アレブレンチ

[写真25] 先程の写真22で用意したキャップスクリューをアレブレンチ(ショックオイル等が入っているNo.0の袋の中のものを使用)に差込み、この写真のように持ってデフジョイント(L)の穴の中にキャップスクリューを入れて行きます。その時、矢印のスラストワッシャーで先程デフジョイント(L)の穴の入口にグリスで付けた小さなスラスト用ボールをデフジョイント(L)の奥へ押し込むように入れて行って下さい。ボールを奥の方に押しに行く時にデフジョイントの溝のところではボールが外に出てしまわないように気をつけて行って下さい。もし、ボールが出そうになったら、つまようじの先等で押し込んで下さい。

[写真26]

- (1) アレンレンチでM2キャップスクリューをガッチリと締める
- (2) 今、締めたキャップスクリューをアレンレンチで45度逆方向に回し戻す(ゆるめる)と出来上がり



doit tourner sans point dur

[写真26] キャップスクリュー先端がデフジョイントの奥にいたらアレンキーを回してネジを締めて行きます。途中固めですが、ゆるりと締めて行きしばらくすると完全に締まって止まります。止まったならば、今度はアレンレンチを先ほど締めてきた時と、逆の方向にゆるりと45度位戻すように回して下さい。これでデフは完成です。

(注) 今、完全に締まったキャップスクリューを45度戻し(ゆるめた)のはデフの調整の為で、この位置が最もデフの良く働く位置になるからです。

Réglage du différentiel : plus il est serré, plus l'axe de vision rigide.

[写真27]

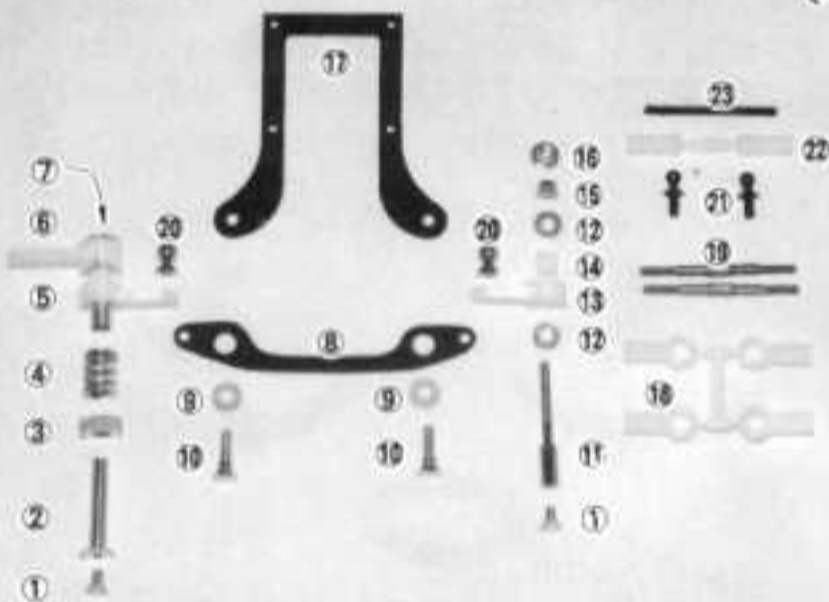
デフベアリングを完成した2つのデフの軸に入れる



[写真27] デフベアリング4コを写真のように、今出来上がったフロント及びリヤ用の2つのデフの両側に入れて下さい。

Topy : • serrer relativement le diff arrière • laisser celui à l'avant relativement souple.

[写真28]

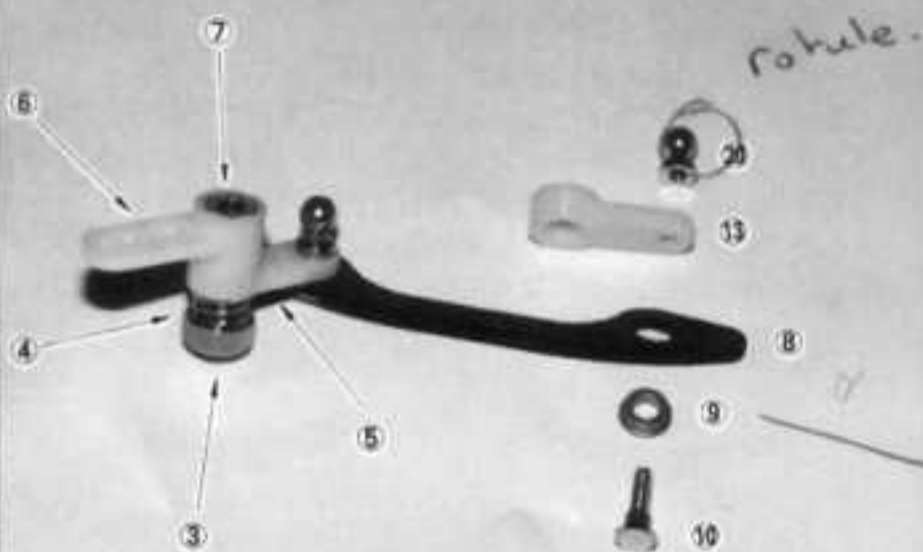


[写真28] No.4 サーボセイバーとタイロッドの入った袋を取り出し内容を写真でよく見て確認して下さい。

- 内容
- ①②③④⑤⑥⑦.....サーボセイバー部品
 - ⑧⑨⑩.....センタータイロッド部品
 - ⑪⑫⑬⑭⑮⑯.....カウンタークランク部品
 - ⑰.....サーボセイバーサポート
 - ⑱⑲⑲.....ステアリングタイロッド部品
 - ⑳㉑㉒.....ステアリングリンケージ部品

㉑㉒㉓ステアリングリンケージ部品は写真109で使用しますのでそれまで、なくさないようにして下さい。

[写真29]



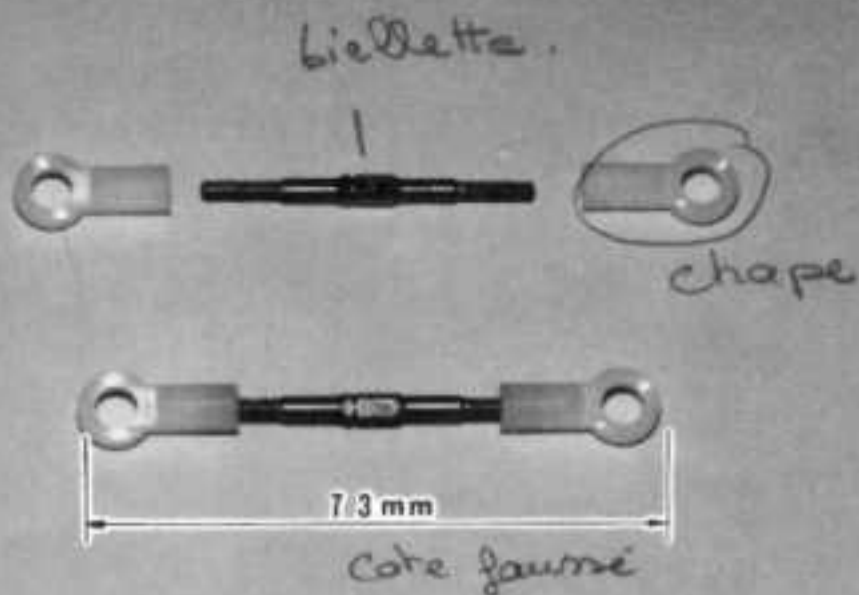
[写真29] サーボセイバーとカウンタークランクの組立

- まずサーボセイバー(写真左)から始めましょう。
- ⑦サーボセイバー支柱に⑧サーボ側クランク⑤タイロッド側クランク
 - ④サーボセイバースプリングを入れ③ローレットナットを締めてください。
 - ⑧センタータイロッドに⑨オイルレスメタルを入れ、⑩センタータイロッド取付けネジで⑤タイロッド側クランクにネジこんで下さい。
 - ⑤タイロッド側クランクの上に出たネジ部にタイロッドエンドボールをネジ込んで下さい。締める時は台の部分ラジオペンチで回して下さい。球の部分に傷をつけないように気を付けて下さい。

direction modifiée en a.u. sur roulement.

P. R. オイルレスメタルの替わりにオプションのZC-204BCのベアリングに替える事もできます。

[写真30]



[写真30] ⑱ロッドエンドプラスチックパーツに⑲ターンバックルタイロッドをネジ込んで下さい。溝のついている方が正ネジで、反対側は逆ネジです。全体の長さを73mmにしておいて下さい。細かい調整は完成した時にします。

ajuster à l'œil

[写真31]

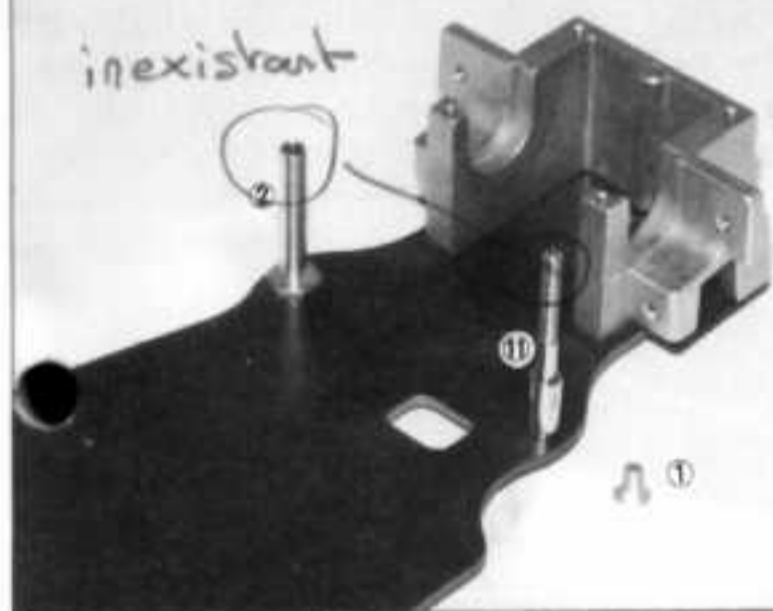
[写真31] 今、作ったタイロッドをサーボセイバーとカウンタークランクに取付けます。



[写真32]

[写真32] シャーシに②サーボセイバーマウント、①カウンタークランクマウントを①M3×6皿ネジで取付けます。

inexistent



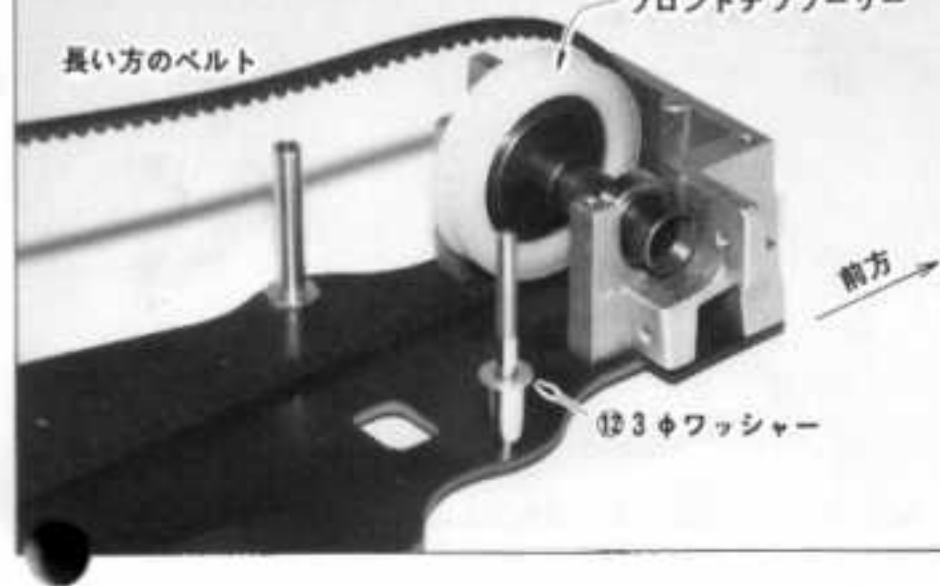
[写真33]

[写真33] ①カウンタークランクマウントに②3φワッシャーを入れます。

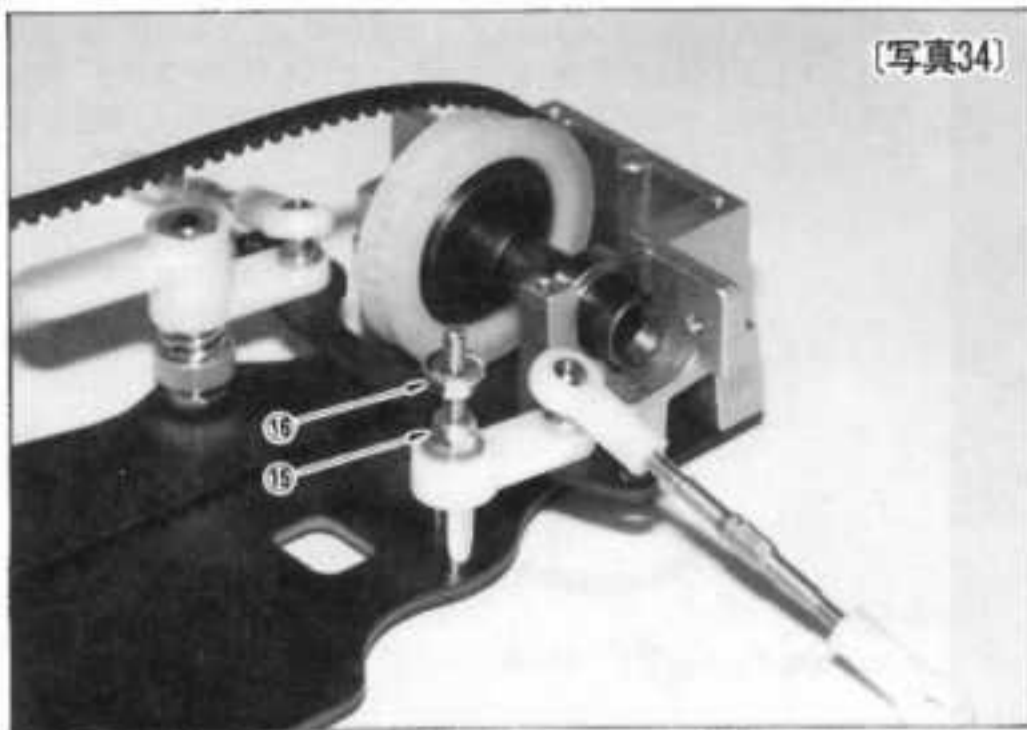
№5の袋から長い方のベルトを取り出し、先程作ったフロント用デフプーリーにかけましたら、デフを写真のようにフロントバルクヘッドに入れて下さい。

長い方のベルト

フロントデフプーリー

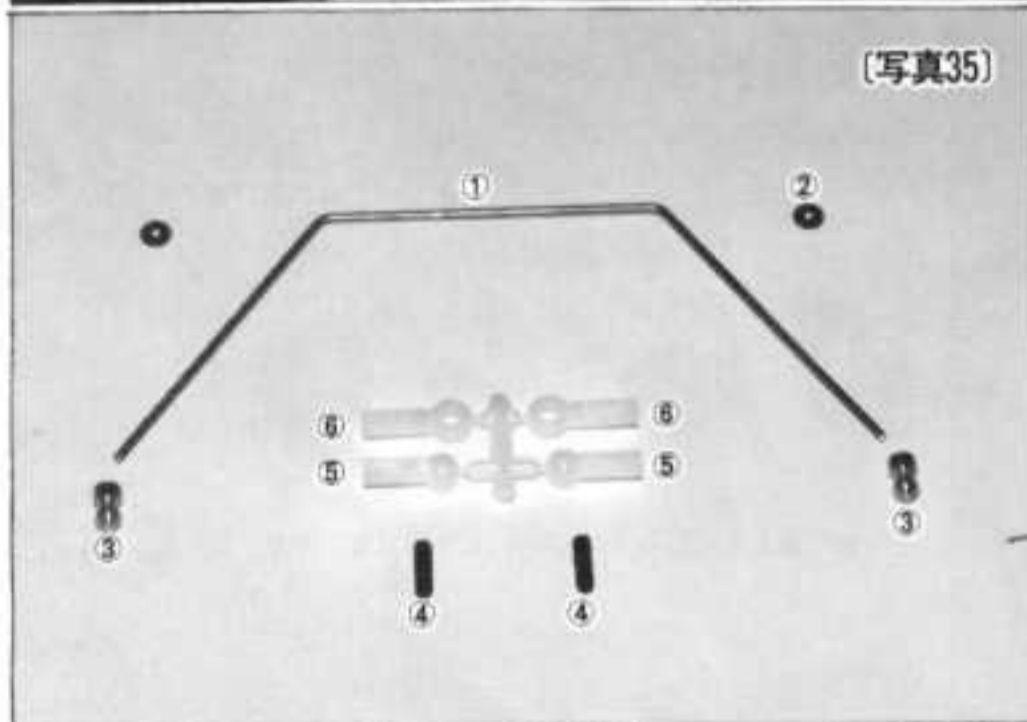


②3φワッシャー



[写真34]

[写真34] 写真31で出来上がったサーボセイバーを取り付けます。サーボセイバー側は今はただ差し込むだけです。カウンタークランク側は⑭カウンタークランクスペーサー、⑮3φワッシャーを入れ、⑯M3ナイロンナットをネジ込みます。M3ナイロンナットはカウンタークランクが軽く動き、ガタのないように締めて下さい。⑰M3フランジナットは裏返しにナイロンナットにつくまでネジ込んでおいて下さい。

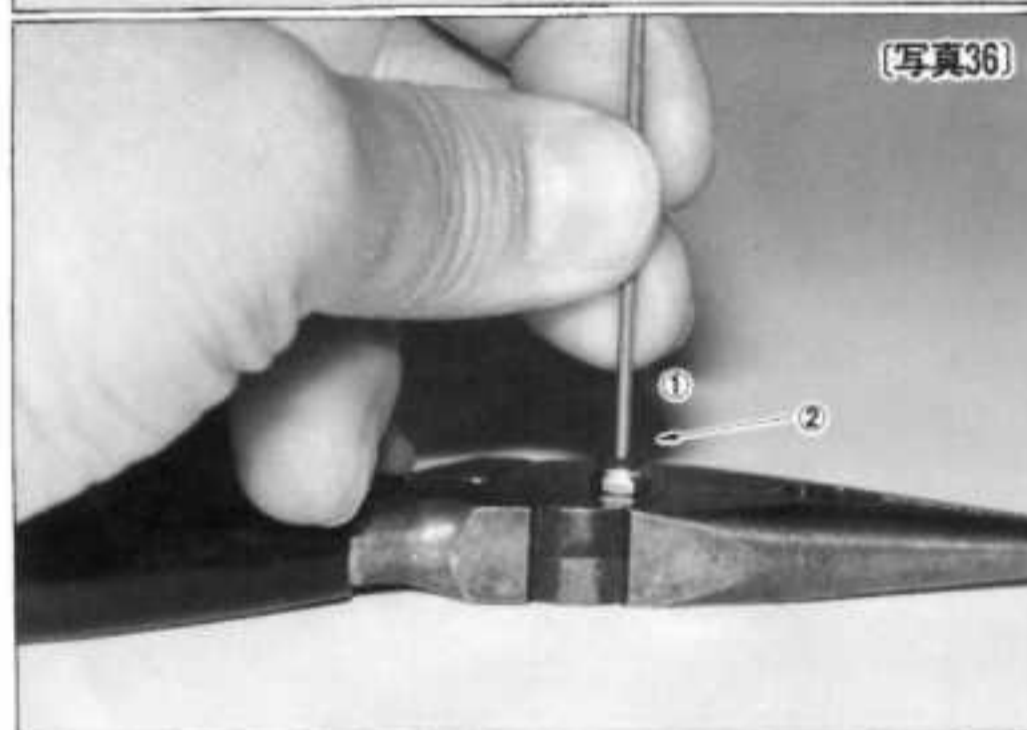


[写真35]

[写真35] №6のリヤアンチロールバーが入った袋を取り出して、内容を、写真を見ながら確認して下さい。

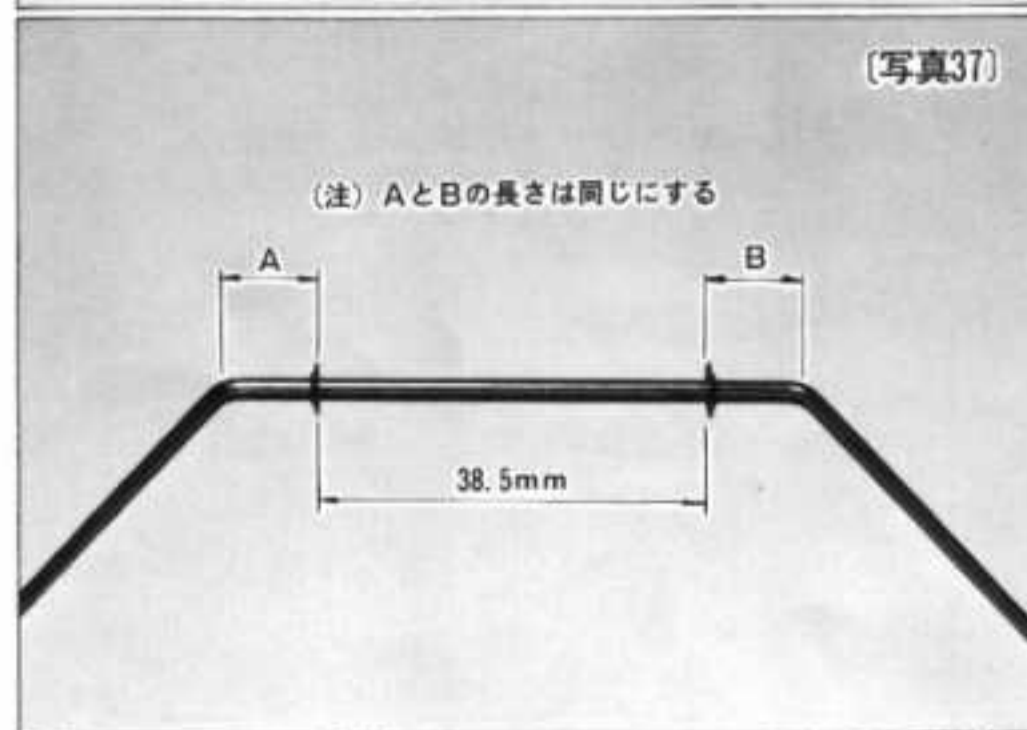
- | | | | |
|----|---------------------|-------|----|
| 内容 | ①リヤアンチロールバーワイヤー | | 1本 |
| | ②プッシュナット | | 2コ |
| | ③アンチロールバー用ボール (真鍮製) | | 2コ |
| | ④M3×10セットスクリュー | | 2本 |
| | ⑤ロッドエンドボールキャップ | | 2コ |
| | ⑥プラスチックロッドエンド | | 2コ |

barre anti rouli
(ne sert quasiment pas)
à l'intérieur



[写真36]

[写真36] リヤアンチロールバーの作り方
M3のナット (工具箱の底などをかきまわすと出てくる) 等をペンチなどの固いものの上におき、その上に②プッシュナットの凹んだ方を上にして①アンチロールバーワイヤーの先端を強く押し込みます。プッシュナットがワイヤーの片方の先端に少し入りましたら、次はワイヤーのもう一方の先端に同じようにしてプッシュナットを押し込んで下さい。ワイヤーの両端にプッシュナットが入りましたら次の写真37を見て、今、入れたプッシュナットを手で指定の位置迄押し込んで下さい。



[写真37]

[写真37] プッシュナットは構造上、一方方向にしか動きませんが、もしも入れ過ぎてしまって38.5mm間隔以下になってしまった場合には、少し力と時間はかかりますが、戻すことも出来ますのであわてずに、ゆっくりと行って下さい。

(注) AとBの長さは同じにする

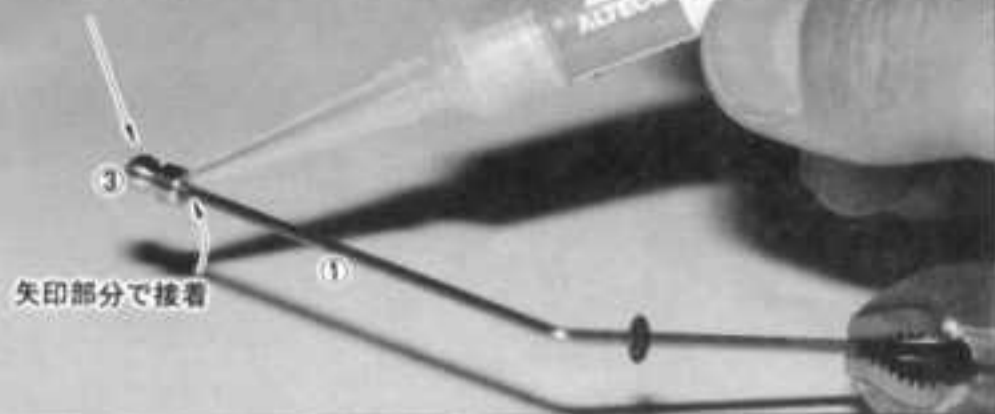
[写真38]

[写真38] アンチロールバーワイヤーの両先端部分に③のアンチロールバー用ボールを差し込んで、矢印の部分に瞬間接着剤をつけて接着して下さい。

(注1) ボールの部分には接着剤がつかないように気をつけて下さい。

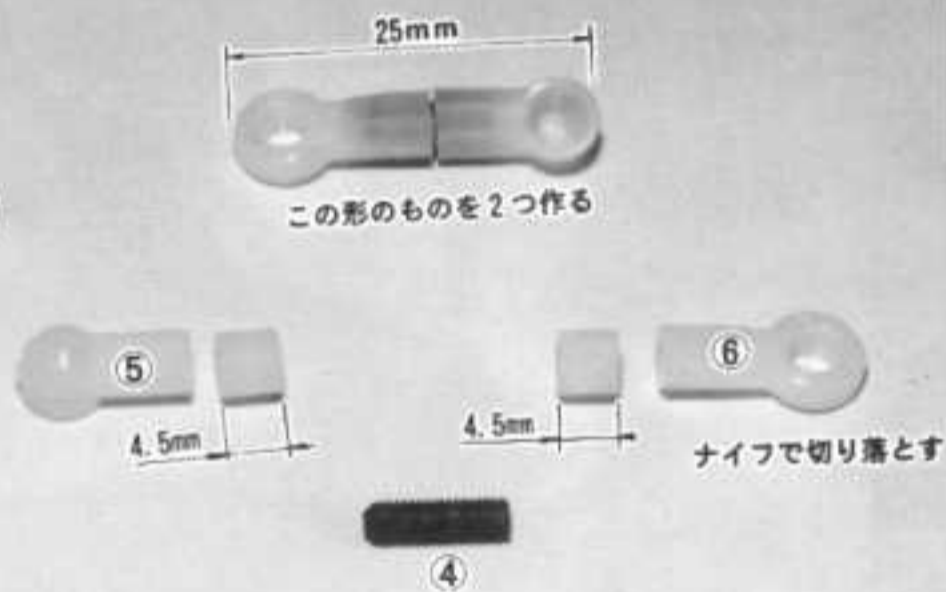
(注2) ハンダ付けに自信のある人は瞬間接着剤の代わりにハンダ付けでもOKです。

(注) ボール部分にはつけない事



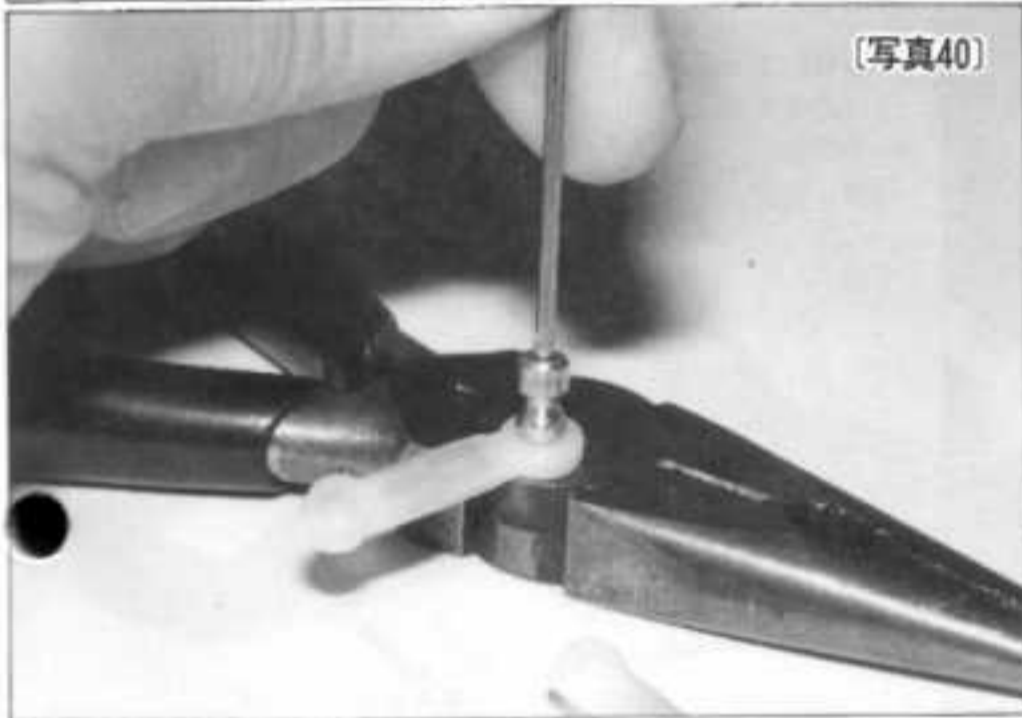
[写真39]

[写真39] アンチロールバー用コネクティングロッドの作り方
まず⑤ロッドエンドボールキャップ、⑥プラスチックロッドエンドを4.5mm 切り落として短くします。④M3×10セットスクリューをネジ込み、左写真の上の25mmサイズのを2つ作ります。



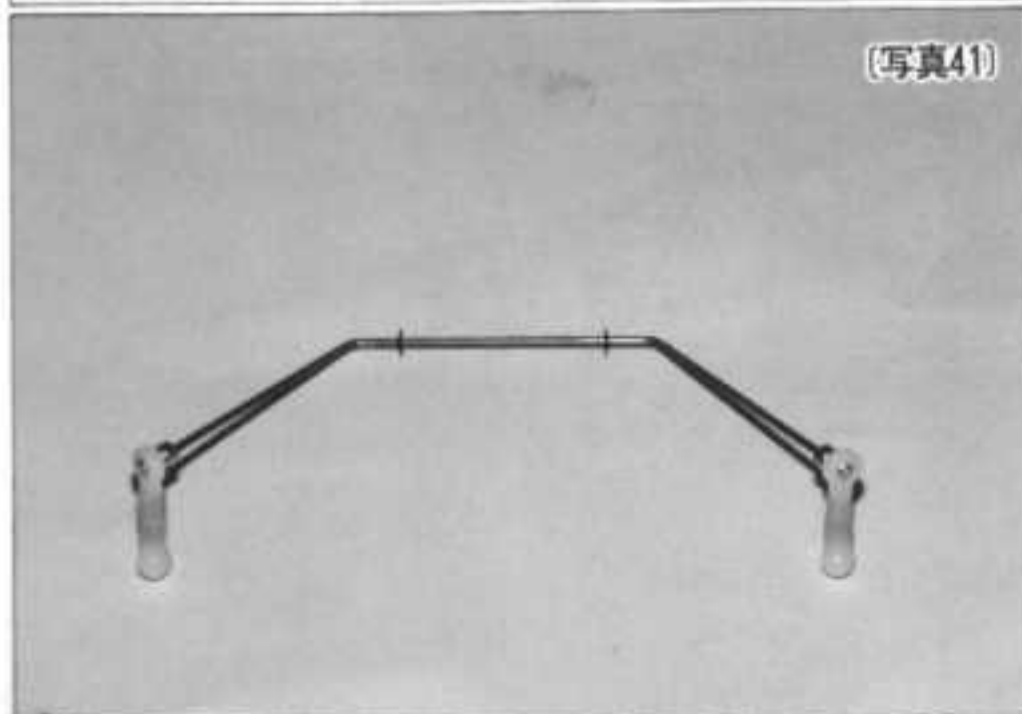
[写真40]

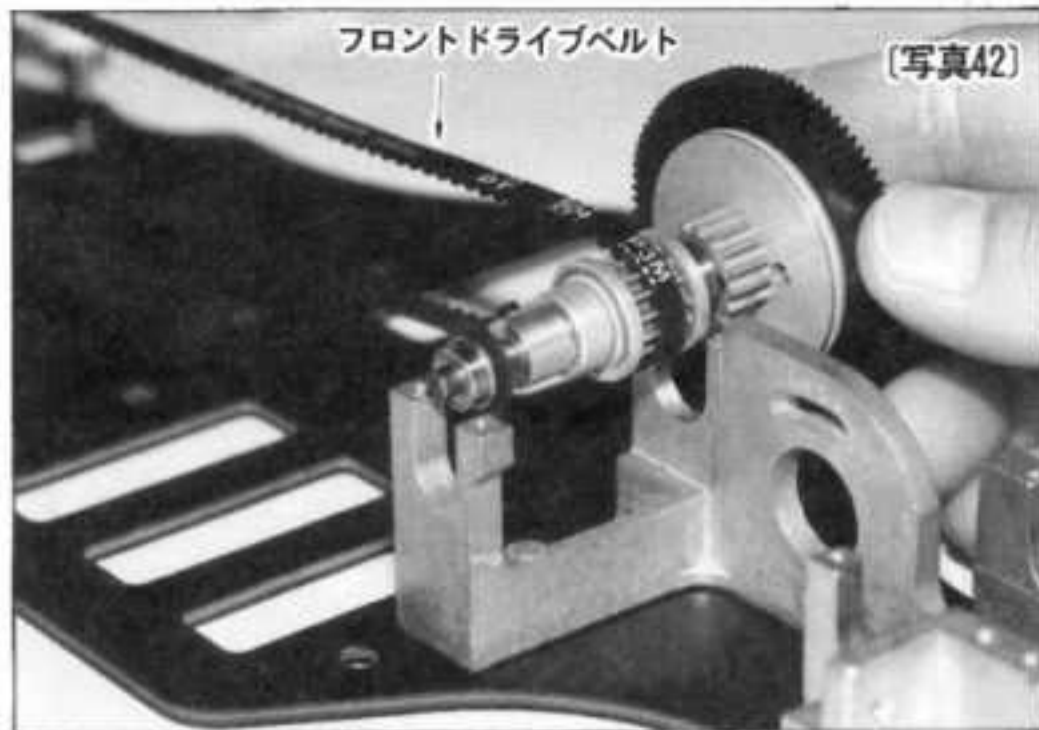
[写真40] 今、作ったアンチロールバー用コネクティングロッドのプラスチックロッドエンド部の下に、ラジオペンチ等の固いものを置いてから、写真のようにアンチロールバー先端のボール部分を押し込んで下さい。



[写真41]

[写真41] リヤアンチロールバーは、このように出来上がりましたか？
間違いがなければ次に進みます。

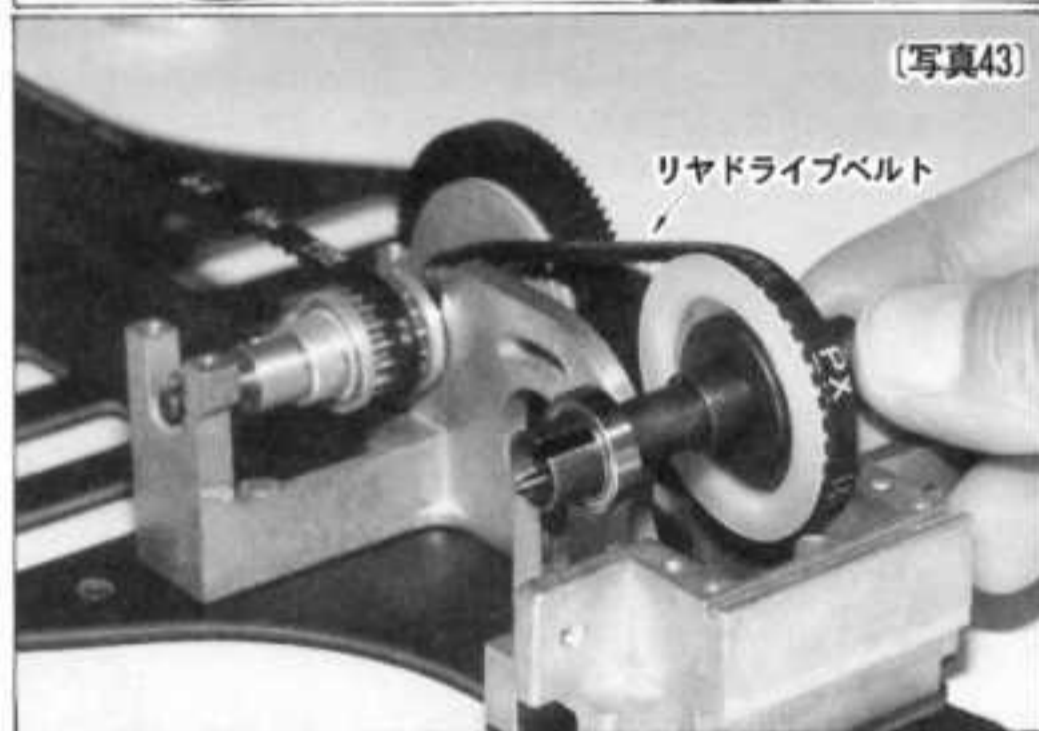




フロントドライブベルト

[写真42]

[写真42] フロントドライブベルト (長い) のもう一方の後側に、トラクションコントロールシャフトのドライブ用プーリーにかけて、センタードライブシャフトを写真42のように、モーターマウントの受部にいれます。



[写真43]

リアドライブベルト

[写真43] リアドライブベルト (短い) をメインギヤ内側のリアドライブプーリーにかけましたら、もう一方をリアデフプーリーにかけデフをそのまま下ろすようにして、リアバルクヘッドに入れて下さい。



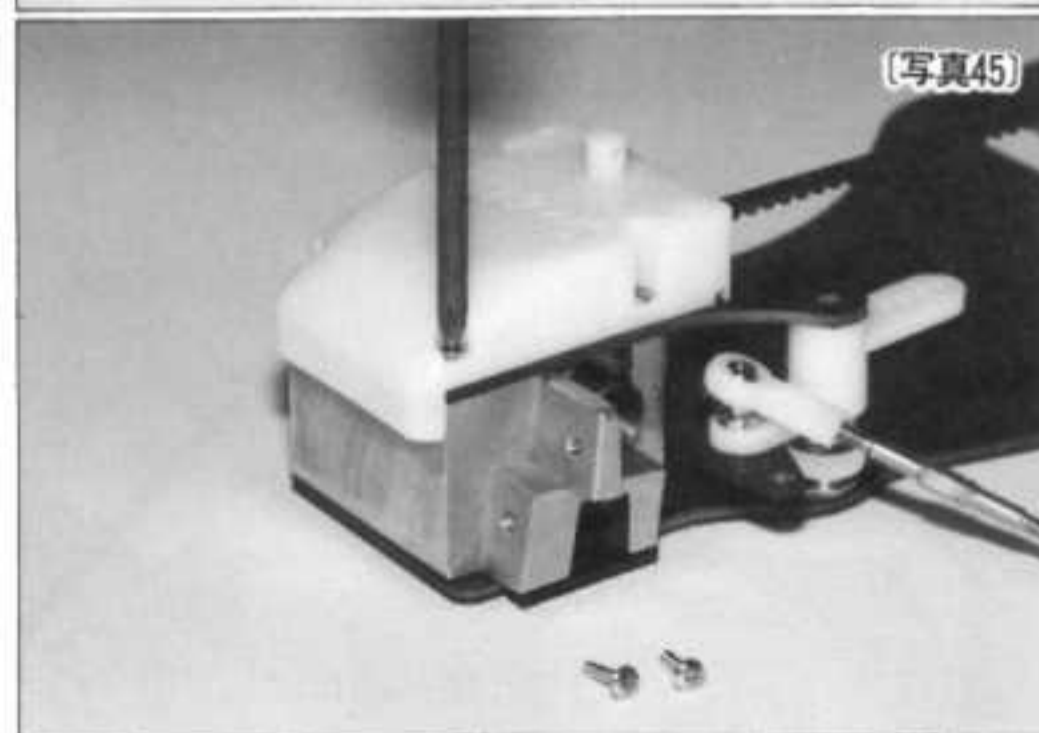
piece inexistante [写真44]

サーボセイバーサポート

フロントバルクヘッドキャップ

M2×8トラスネジ

[写真44] サーボセイバーサポートをフロントバルクヘッドに写真のようにのせます。
№7の袋からフロントバルクヘッドキャップとM2×8トラスネジを用意します。



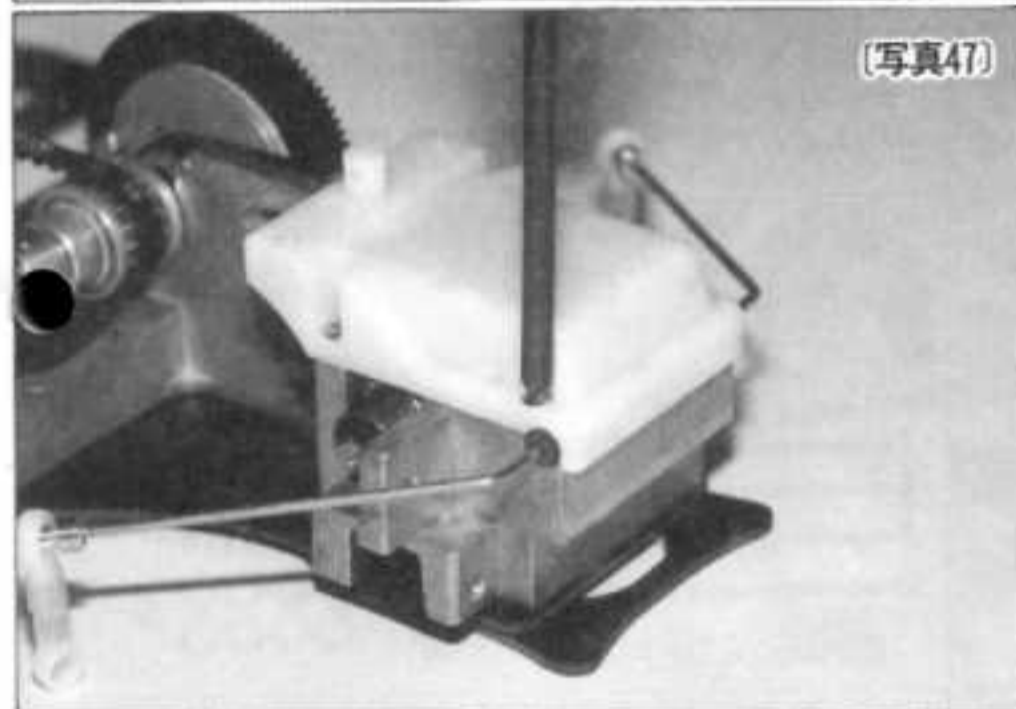
[写真45]

[写真45] フロントバルクヘッドキャップとサーボセイバーサポートの取付け穴を合わせてM2×8トラスネジで取付けます。



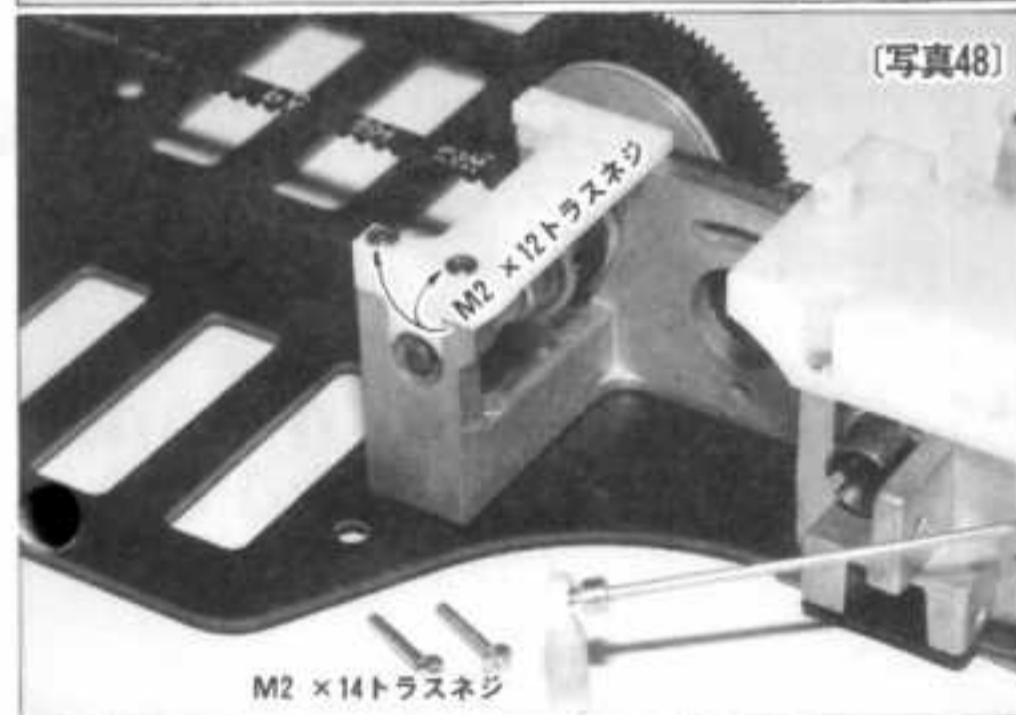
[写真46]

[写真46] リヤバルクヘッドの一番後にある溝に少しシリコングリスを塗って、アンチロールバーをのせます。



[写真47]

[写真47] リヤバルクヘッドキャップをM2×8トラスネジで取付けます。



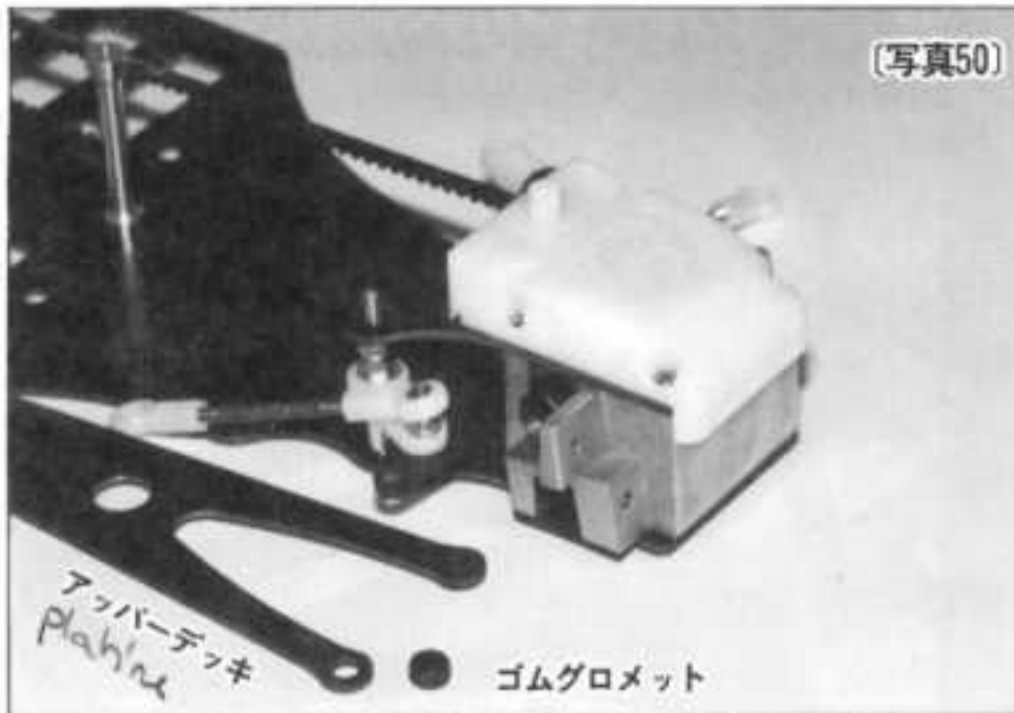
[写真48]

[写真48] モーターマウントキャップはM2×12mm、M2×14mmトラスネジを使用します。後ろから見て左側はM2×12mmトラスネジを使用します。右側はまだつけないで下さい。



[写真49]

[写真49] №5の袋からアップーデッキマウントとM3×8mm皿ネジを取り出し、矢印の穴に取り付けます。



[写真50]

[写真50] №5の袋からアッパーデッキとゴムグロメットを取り出し、アッパーデッキに入れます。

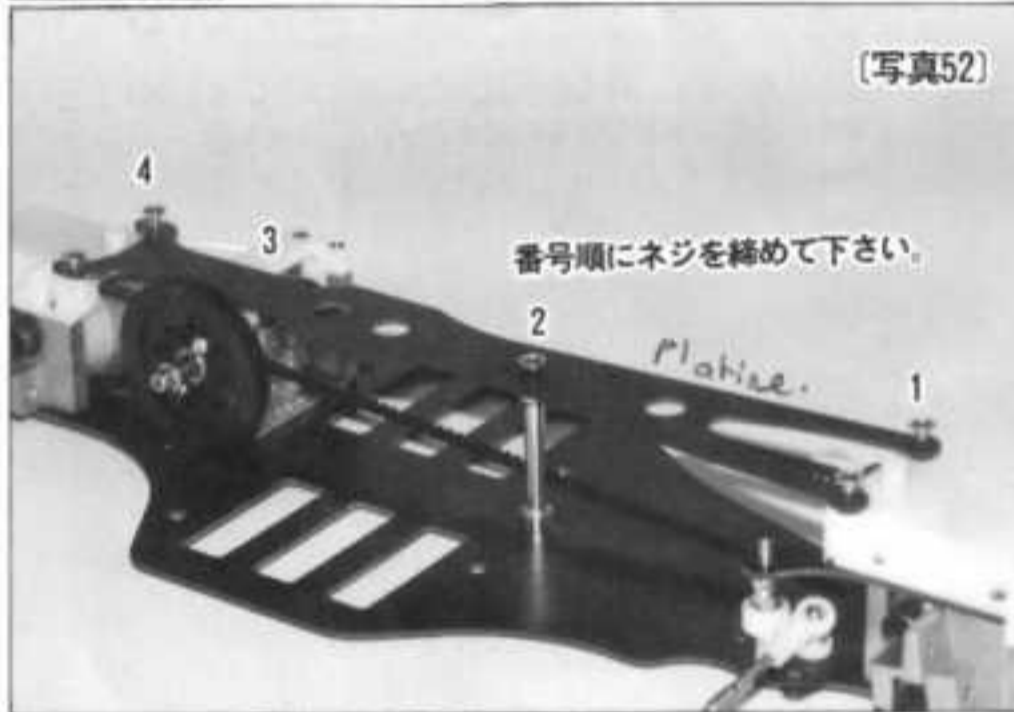


[写真51]

[写真51] モーターマウントキャップは写真のように、アッパーデッキサポートを使用し、M2×14mmトラスネジで取り付けます。

(注) ここでは、まだ軽く締めるだけです。

fixer les vis directement sur la platine



[写真52]

[写真52] アッパーデッキをフロントバルクヘッドキャップ、アッパーデッキマウント、モーターマウントキャップ、リアバルクヘッドキャップの順に取り付けます。モーターマウントキャップ以外はM3×8mmトラスネジを使用します。

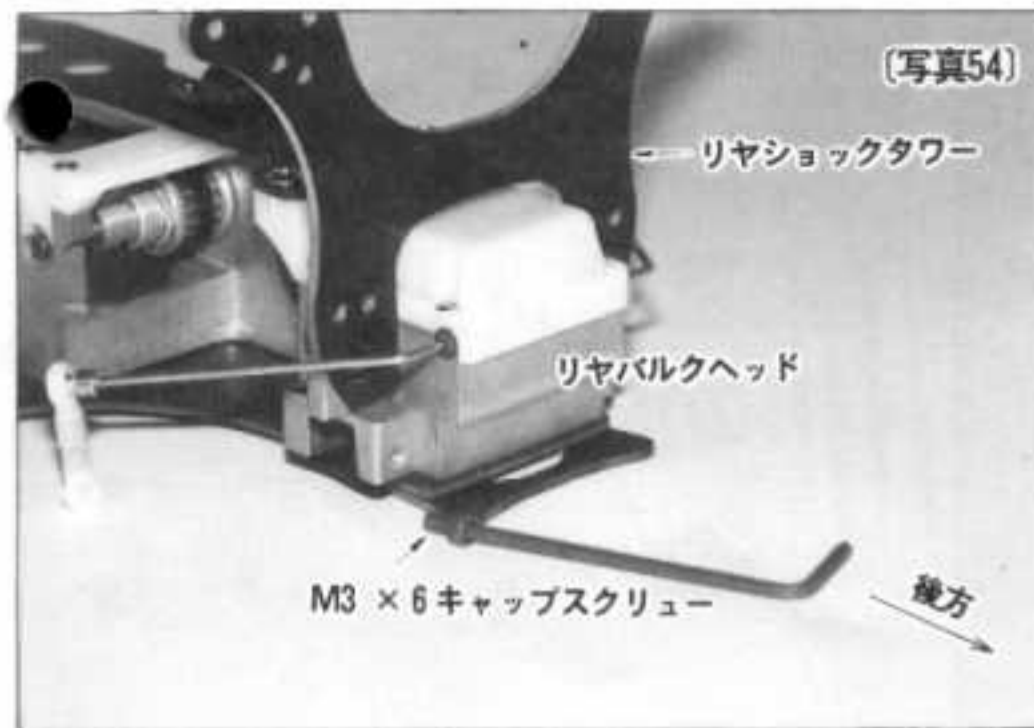
番号順にネジを締めて下さい。



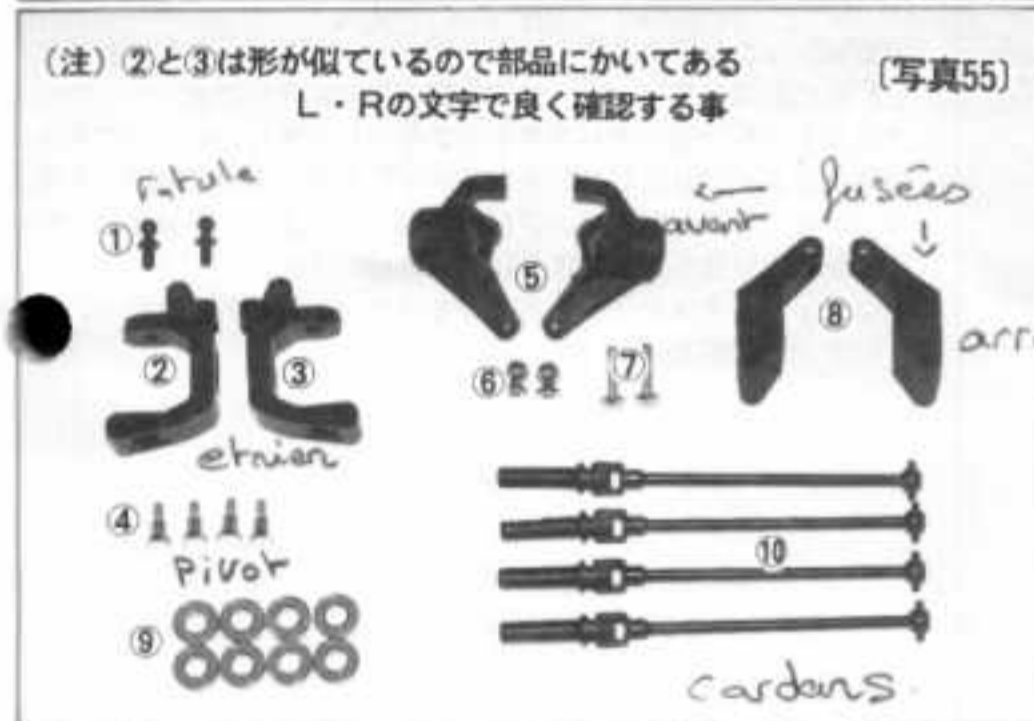
[写真53]

[写真53] フロントのショックタワーをフロントバルクヘッドの取付け部のところに前方から立て掛けてM3×6mmキャップスクリューを使用して、左右2本でしっかりと固定して下さい。

(Self made)

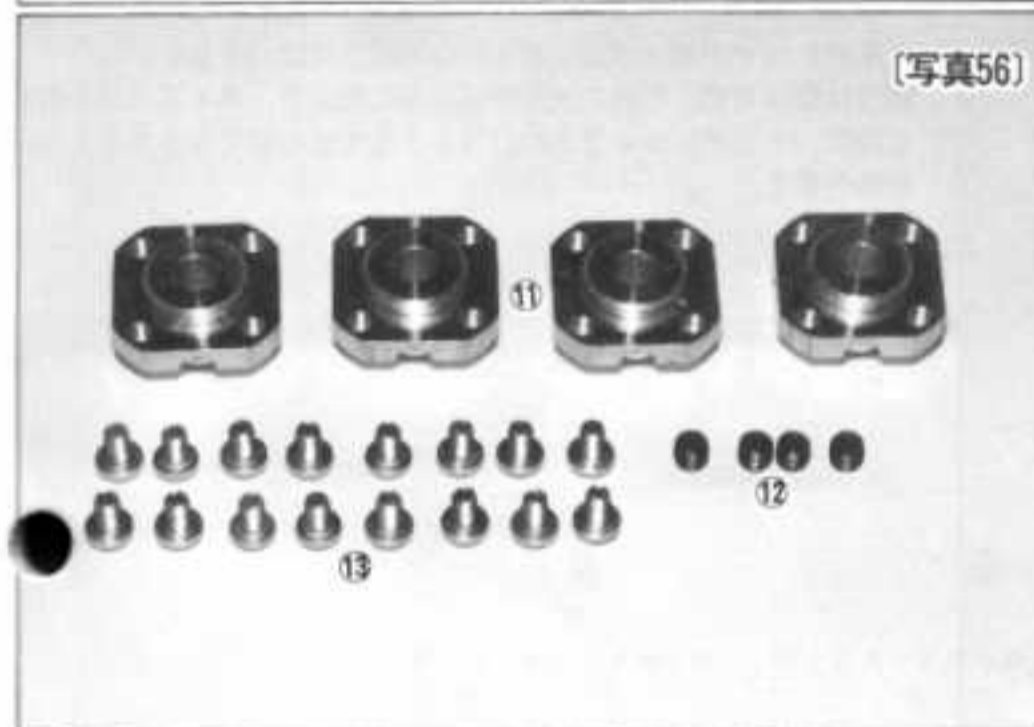


[写真54] リヤショックタワーはリヤバルクヘッドの取付け部のところに後側から立てかけて、フロント同様にM3 x 6mmキャップスクリューを2本使用してリヤバルクヘッドにしっかりと固定して下さい。



[写真55] №9のドライブシャフトなどの入った袋を取り出して内容を確認して下さい。

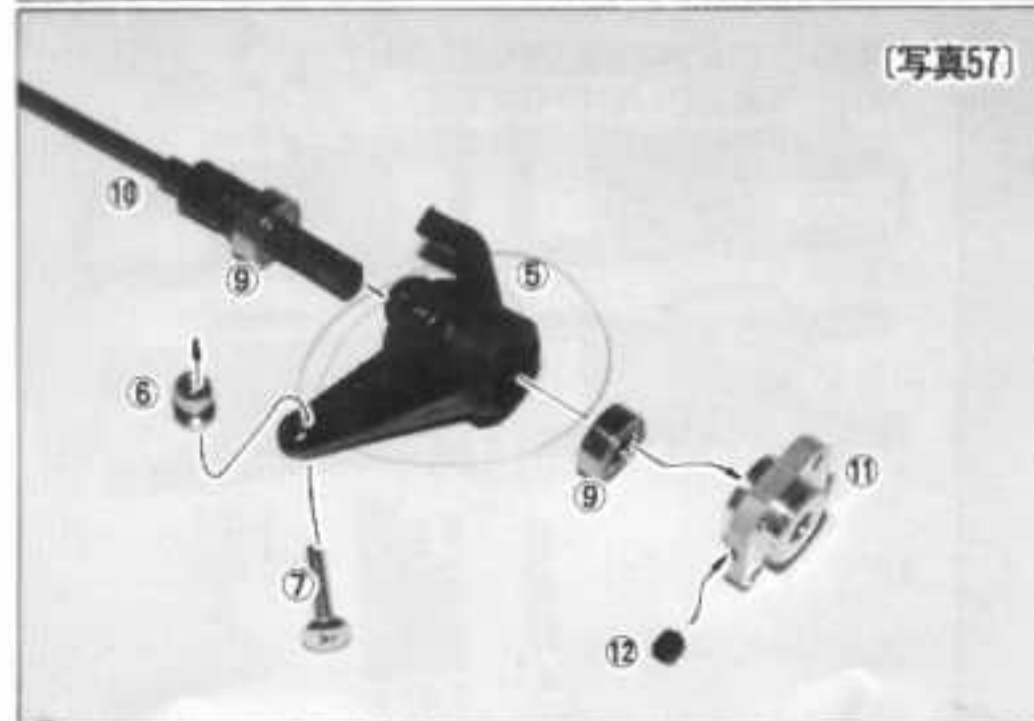
- 内容
- ①ロッドエンドスティールボール.....2コ
 - ②フロントステアリングハブキャリア (L)1コ
 - ③フロントステアリングハブキャリア (R)1コ
 - ④キングピン4本
 - ⑤ステアリングブロック.....2コ
 - ⑥タイロッドエンドボール.....2コ
 - ⑦M3 x 15 トラスネジ.....2本
 - ⑧リヤハブキャリア.....2コ
 - ⑨5 x 11 ラバーシールドベアリング.....8コ
 - ⑩ユニバーサルドライブシャフト4本



[写真56] №10のホイールハブの入った袋を取り出して内容を確認して下さい

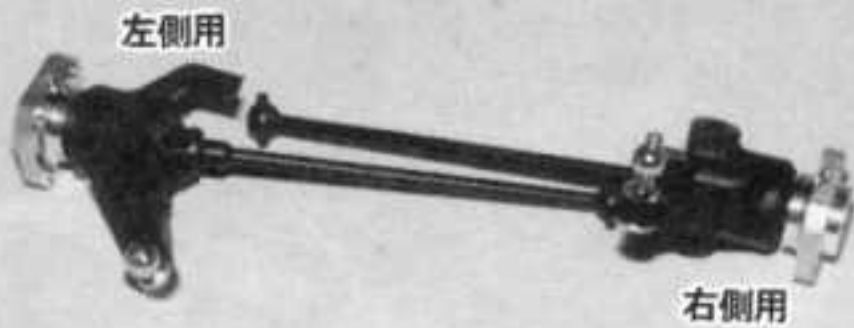
- 内容
- ⑪ホイールハブ.....4コ
 - ⑫ホイールハブ固定用セットスクリュー (M4x4mm).....4本
 - ⑬ホイール取付用ネジ (M3x5mm ナット)16本

⑬ホイール取付用ネジ (M3x5mm ナット) は写真117 で使用しますで、№10の袋に戻して、なくさないようにして下さい。



[写真57] フロントドライブシャフト部分の組立にはいります。組立は簡単です。写真の矢印の並び順に組んで、ホイールハブを取付ける時に、ドライブシャフトのDカット面を合わせてセットスクリューを締めます。ステアリングアームの先端の穴にM3 x 15 トラスネジをネジ込み、⑥タイロッドエンドボールを取り付けます。タイロッドエンドボールの取り付けは左右逆になります。写真は右側です。

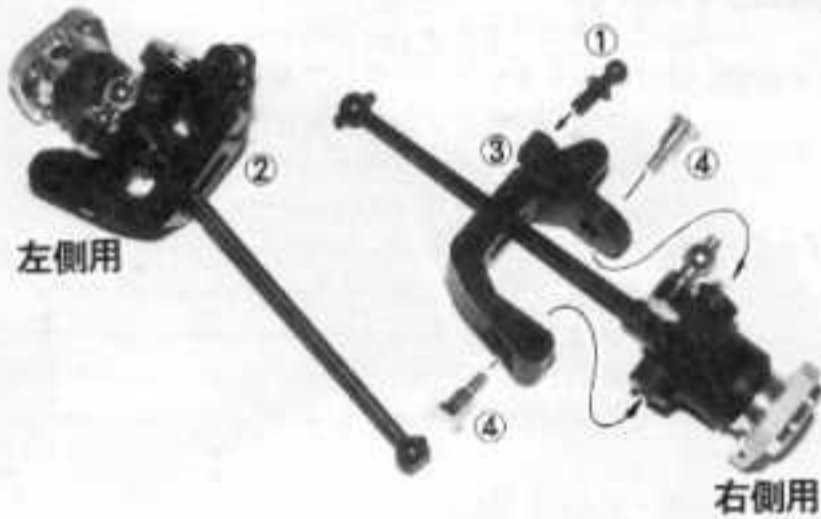
[写真58]



[写真58] 写真のように、なっていますか？
タイロッドエンドボールは左右ちゃんとしていますか？
写真左は左側、右は右側です。

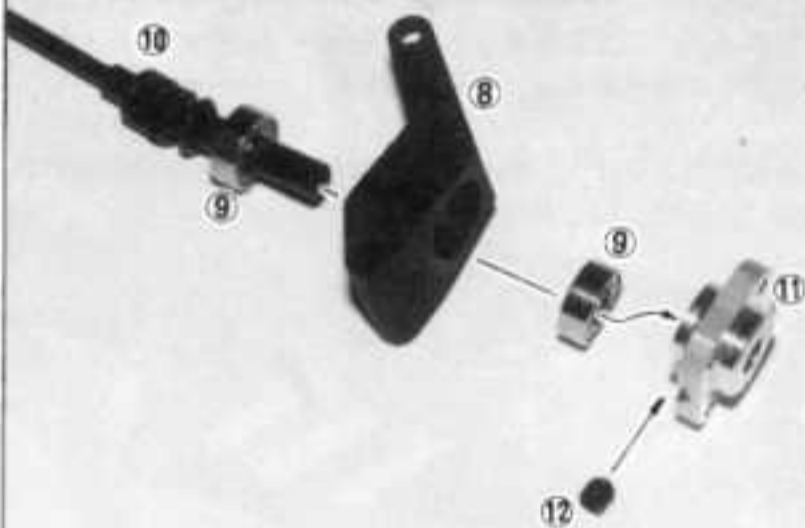
*Les cardans doivent tourner
librement.*

[写真59]



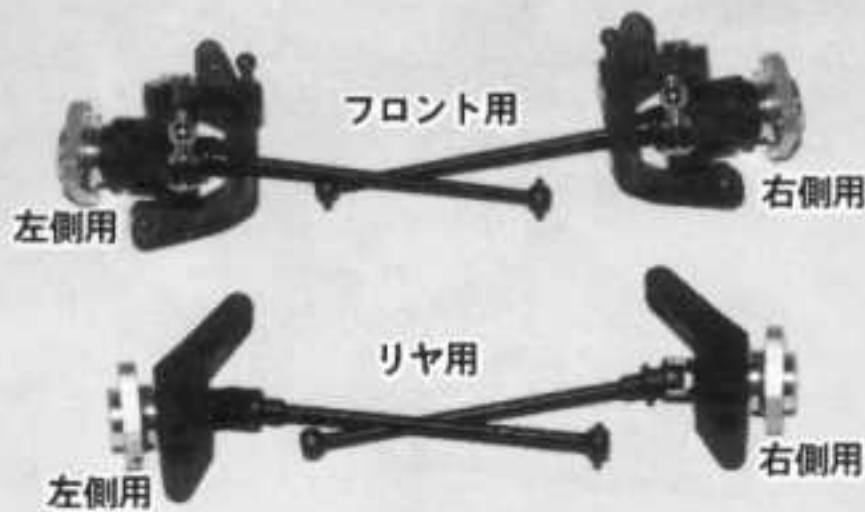
[写真59] フロントステアリングハブキャリアには、左右があります。
L、Rの刻印があります。Lは左側、Rは右側用です。
フロントステアリングハブキャリアのバリをきれいにとって下さい。
フロントステアリングハブキャリアに写真58で出来たフロント用ドラ
イブシャフトを入れ、キングピンを取り付けます。キングピンをネジ
込む時あまり強く締め過ぎないようにして下さい。
①ロッドエンドスチールボールをフロントステアリングハブ
キャリアにネジ込みます。

[写真60]



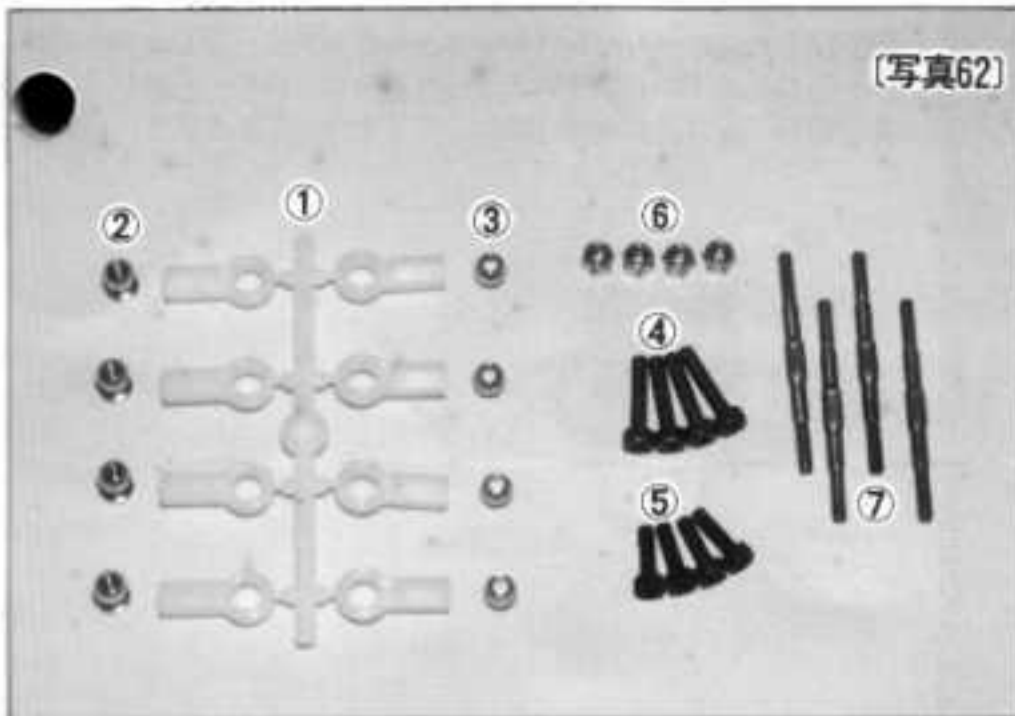
[写真60] リヤドライブシャフト部分の組立にはいります。
組立は簡単です。写真の矢印の並び順に組んで、ホイールハブを取付
ける時に、ドライブシャフトのDカット面を合わせてセットスクルー
を締めます。

[写真61]



[写真61] このように出来上がりましたか？
写真上の2組はフロント用
写真下の2組はリヤ用です。

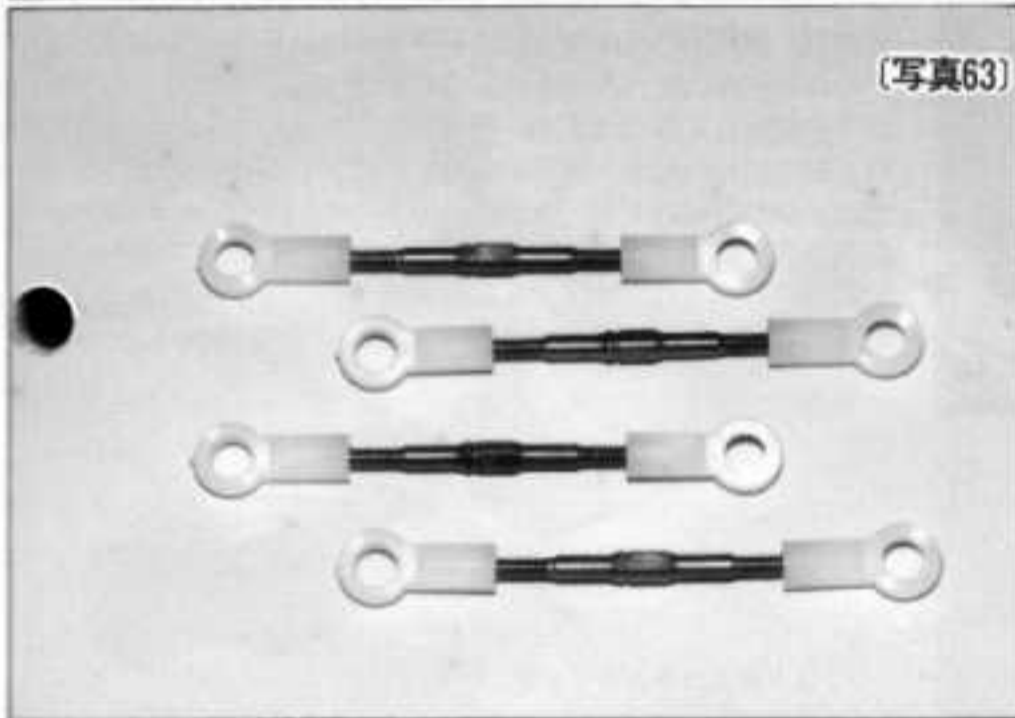
[写真62]



[写真62] №11のアップー〔1〕アームの入った袋をあけ内容を確認して下さい。

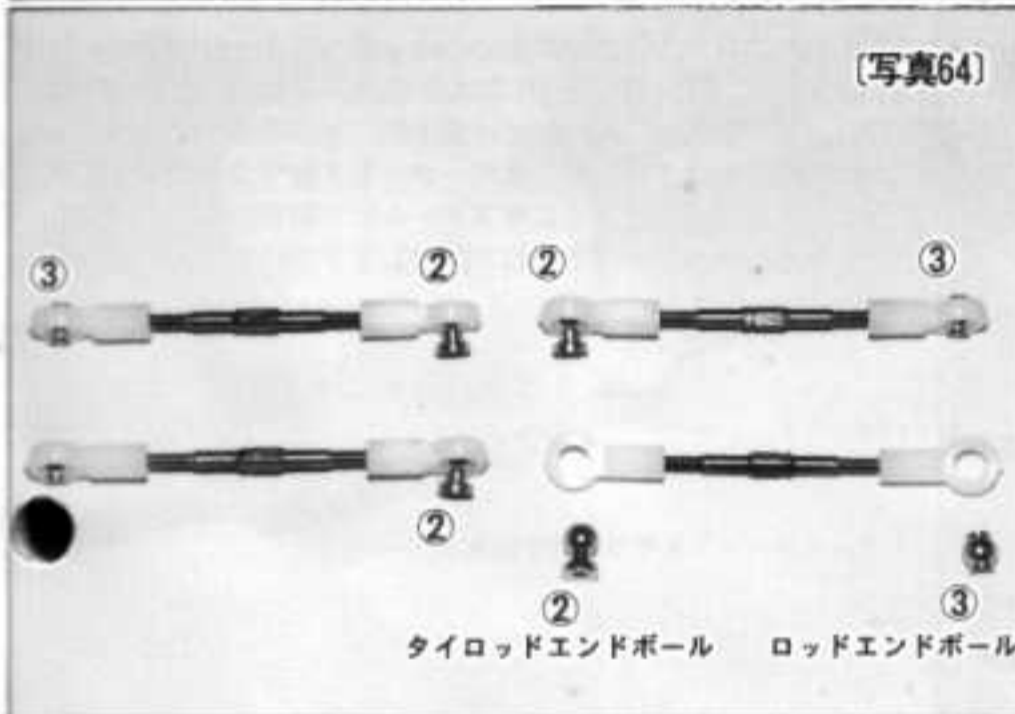
- 内容
- ①ロッドエンドプラスチックパーツ..... 8コ
 - ②タイロッドエンドボール..... 4コ
 - ③ロッドエンドボール..... 4コ
 - ④M3×15mmキャップスクリュー..... 4本
 - ⑤M3×10mmキャップスクリュー..... 4本
 - ⑥M3ナイロンナット..... 4コ
 - ⑦42mmターンバックル..... 4本

[写真63]



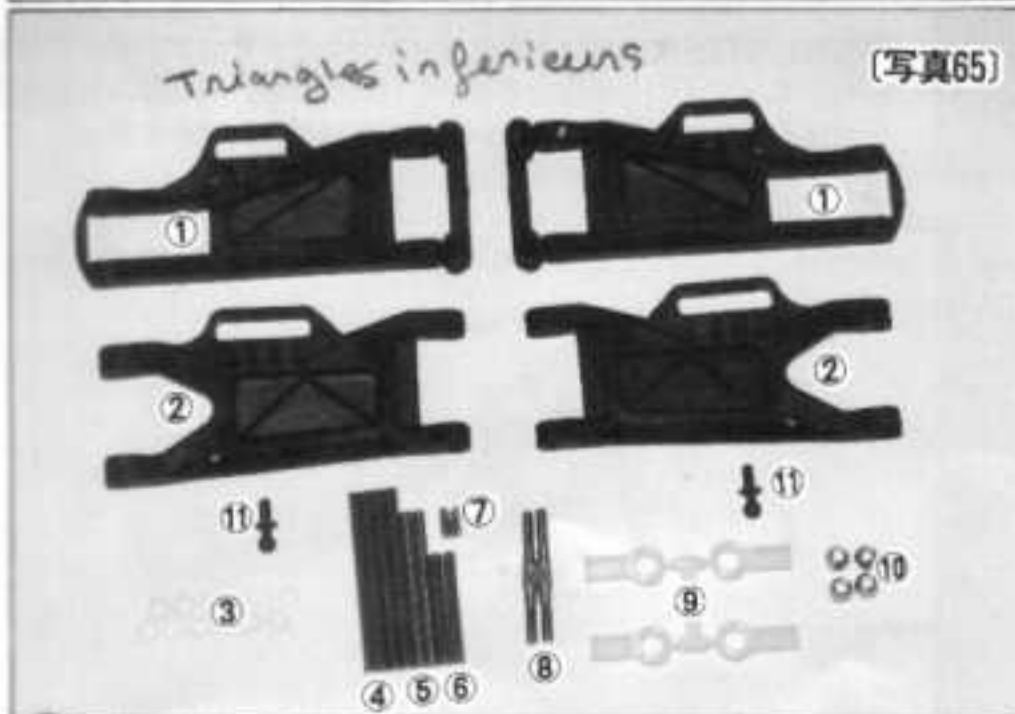
[写真63] ①ロッドエンドプラスチックパーツに、⑦42mmターンバックルを3回転ネジ込みますが、逆ネジの方はちゃんと逆にネジ込んで下さい。寸法は完成した時に調整します。

[写真64]



[写真64] 写真63で作ったアップー〔1〕アームを写真のように並べて下さい。目印を統一して並べて下さい。では内側には②タイロッドエンドボール、外側には③ロッドエンドボールを入れて下さい。

[写真65]

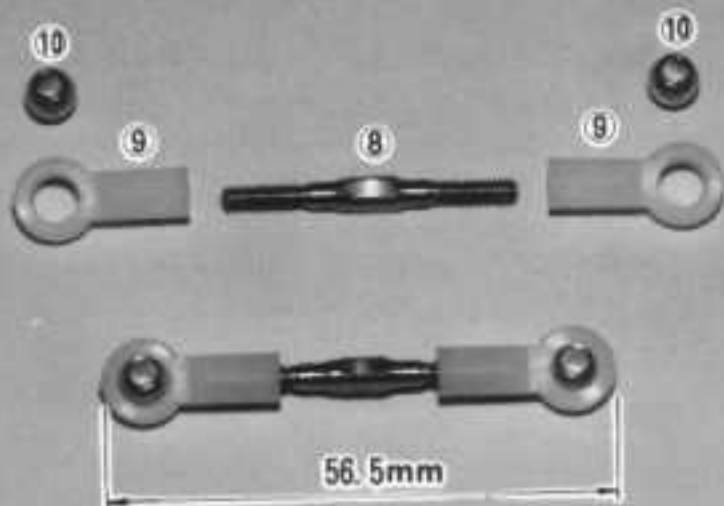


[写真65] №12のロアサスアームの袋を開けて内容を確認して下さい。

- 内容
- ①フロントロアサスアーム (短い方)..... 2枚
 - ②リヤロアサスアーム (長い方)..... 2枚
 - ③サスアームピンスペーサー..... 12枚
 - ④インナーサスアームピン..... 4本
 - ⑤アウターサスアームピンL (長い方)..... 2本
 - ⑥アウターサスアームピンS (短い方)..... 2本
 - ⑦サスアームピン固定用Eクリップ..... 20コ
 - ⑧33mmターンバックル..... 2本
 - ⑨ロッドエンドプラスチックパーツ..... 4コ
 - ⑩ロッドエンドボール..... 4コ
 - ⑪ロッドエンドスチールボール..... 2コ

⑪ロッドエンドスチールボールを②リヤロアサスアーム (長い方)の矢印の位置にネジ込んで下さい。

[写真66]



[写真66] サスアームピンストッパーを作ります。⑧33mmターンバックル、⑨ロッドエンドプラスチックパーツ、⑩ロッドエンドボールを取り出し、写真の寸法56.5mmにして2本作っておきます。

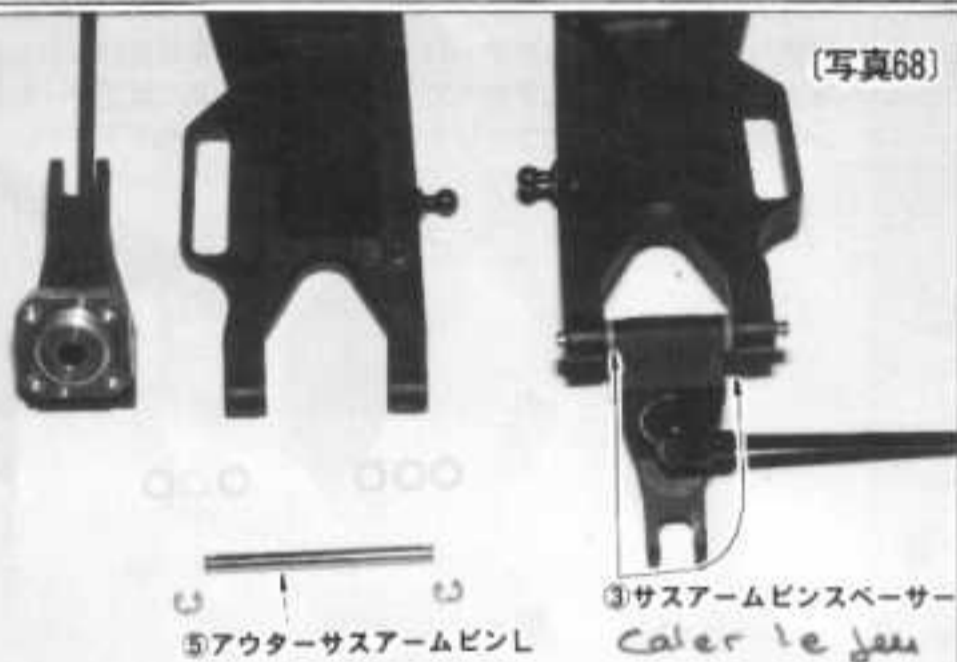
[写真67]



[写真67] 写真59で出来たフロントドライブシャフト部分をフロントロアサスアーム（右、左は裏返しにして使用）にアウターサスアームピンSを使用して取付けます。ロアサスアームにフロントドライブシャフト部分が付いたら、写真のようにサスアームピンの両端のEリング溝にEリングを当てて、ラジオペンチで押し込んでピンを抜けなくして下さい。同じように左右2つ作ります。

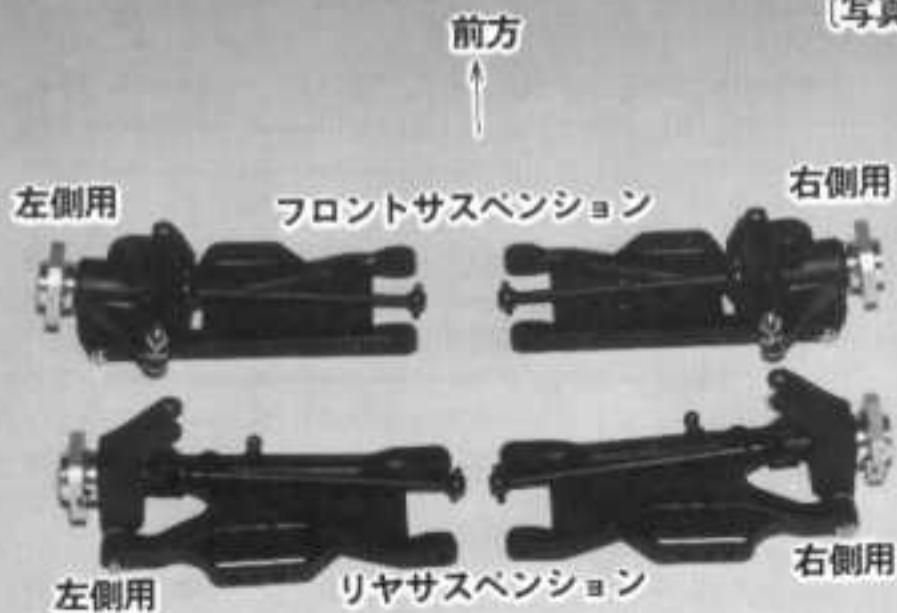
(注意) フロントロアサスアームの矢印は切り取って下さい。アウターサスアームピン側は切り取っては、いけません。

[写真68]

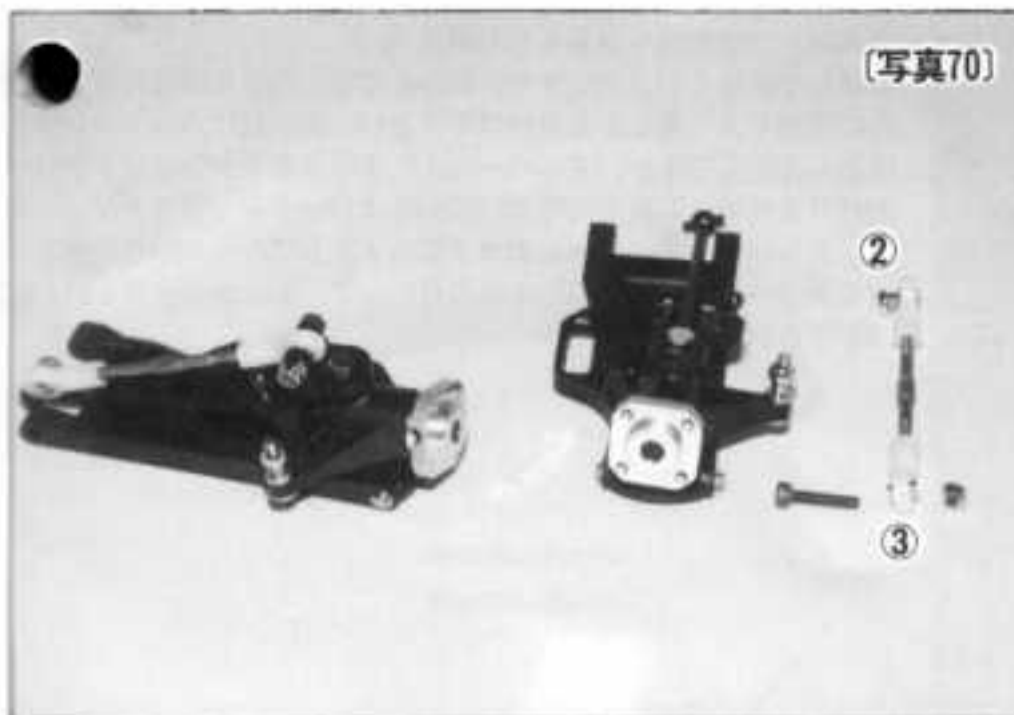


[写真68] フロント部が出来ましたらリヤハブキャリヤ部分をリヤロアサスアーム（左、右は裏返しにして使用）に立てた形でアウターサスアームピン(L)を差し込んで取付けますが、矢印のようにリヤハブキャリヤの両側にサスアームピンスペーサーを3枚ずつ入れて下さい。後はフロントの時と同じようにサスアームピン両端のEリング溝に、Eリングをラジオペンチ等で入れて固定して下さい。

[写真69]

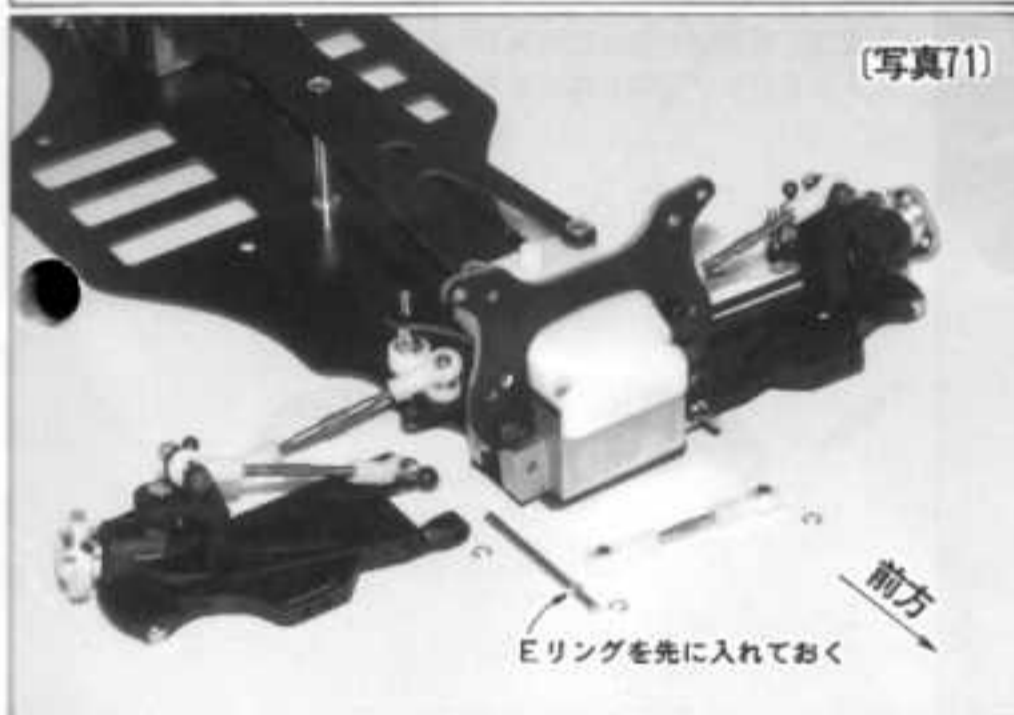


[写真69] 今作ったフロントサスペンション左右とリヤサスペンション左右です。間違えて組み立てていないかどうか、あなたのものと写真とを良く見比べてみましょう。完全であれば次に進みます。



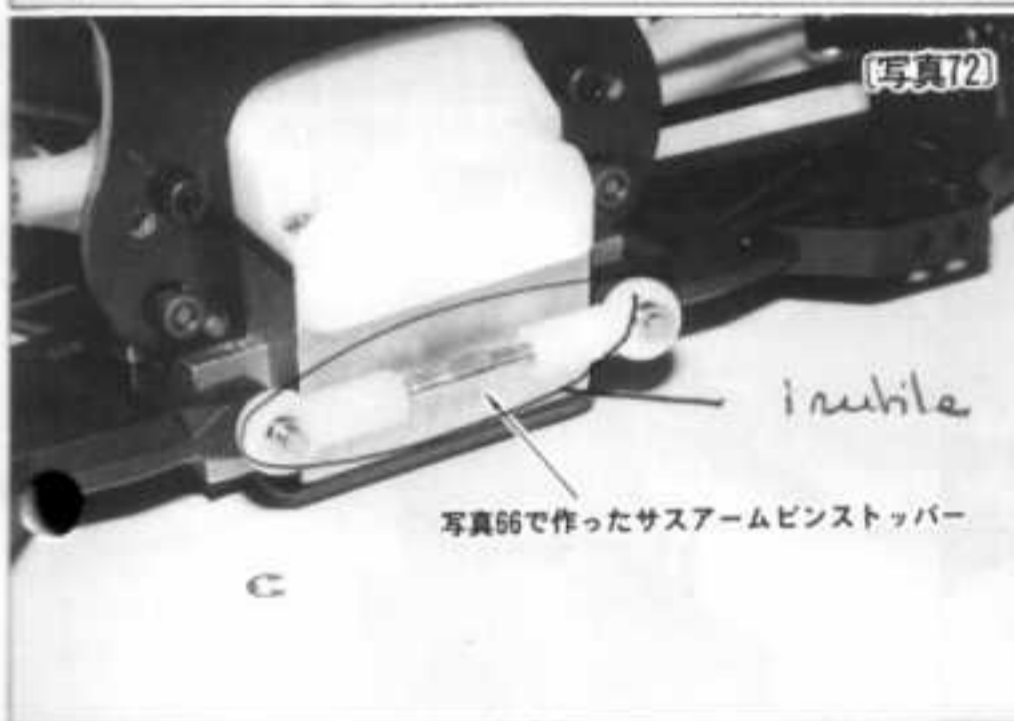
[写真70]

[写真70] 写真64で作ったアッパー〔1〕アームをフロントサス部分に取付けます。矢印の部分にロッドエンドボールを入れM3×15キャブスクリューを入れ、ナイロンナットで固定します。左右とも同じようにします。



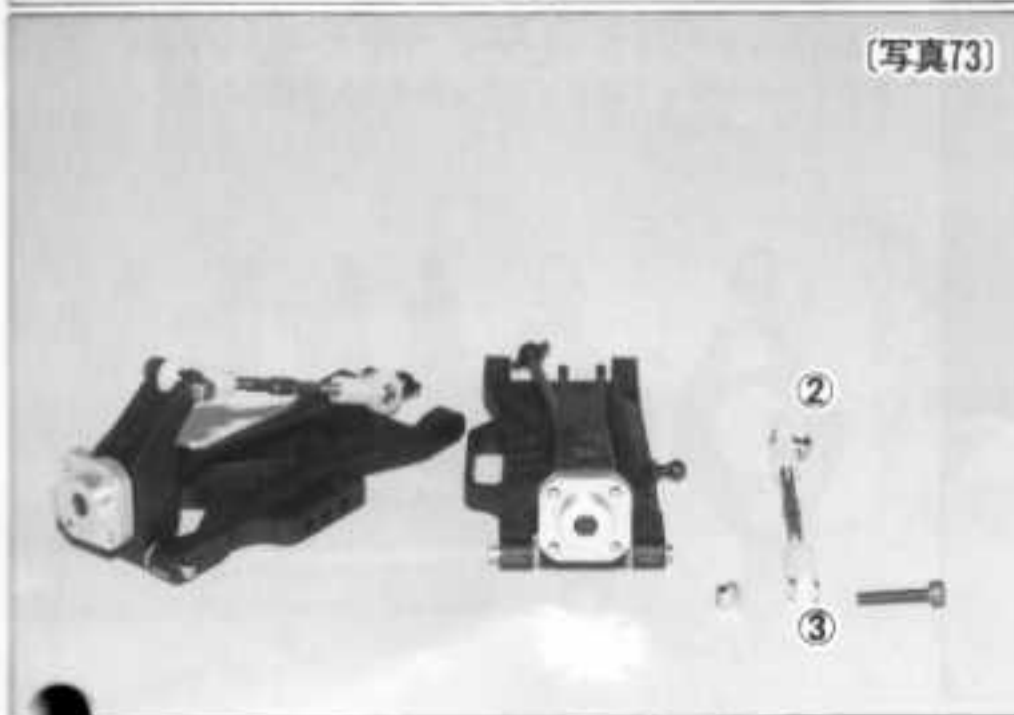
[写真71]

[写真71] フロントサスペンションの組立
④インナーサスアームピンの矢印の位置にEリングを入れておきます。写真69で出来上がったフロントサス部分の左右を間違えないように、左の写真を見ながら、フロントバルクヘッドのサスマウント部分に差込み、④インナーサスアームピンをロアサスアームの穴に差し通して下さい。サスアームピンの後端のEリング溝にEリングを入れます。ロアサスアームがバルクヘッドに取り付きましたら、フロントショックタワーの矢印部分の穴にM3×10キャブスクリューを入れて、アッパー〔1〕アームのタイロッドエンドボールの台部分をショックタワーの裏面に当たるようににして、アレンレンチでガッチリと締めつけ固定します。



[写真72]

[写真72] 写真66で作ったサスアームピンストッパーをサスアームピンに入れEリングで取り付けます。



[写真73]

[写真73] 写真64で作ったアッパー〔1〕アームをリヤサス部分に取付けます。矢印の部分にロッドエンドボールを入れM3×15キャブスクリューを入れ、ナイロンナットで固定します。左右とも同じようにします。

(写真74)



Eリングを先に入れておく

(写真74) リヤサスペンションの組立

写真73で出来上がったリヤサス部分を左右、向きを間違えないように左の写真をよく見ながら取付けて下さい。組み付け方はフロントとほとんど同じですが、アッパー〔1〕アームをリヤショックタワーに取付ける時は、写真の矢印の穴にM3×10mmキャップスクリューを入れ、アッパー〔1〕アームのタイロッドエンドボールの台部分をショックタワーの前方の面に接するようにして、しっかりとネジ締め固定して下さい。

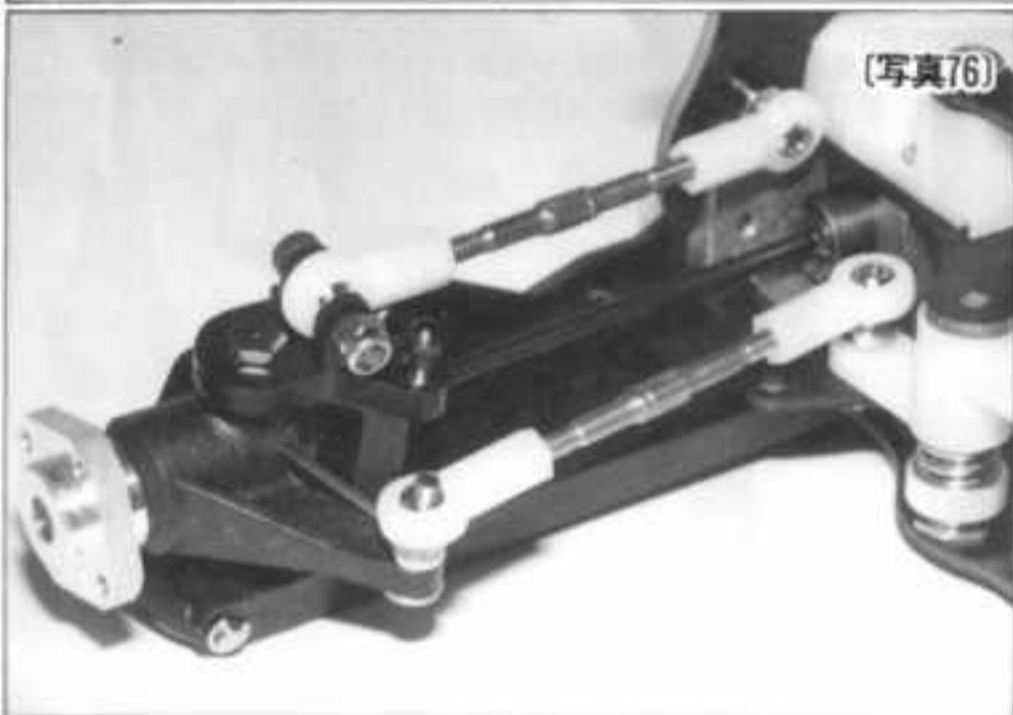
(写真75)



写真66で作ったサスアームピンストッパー

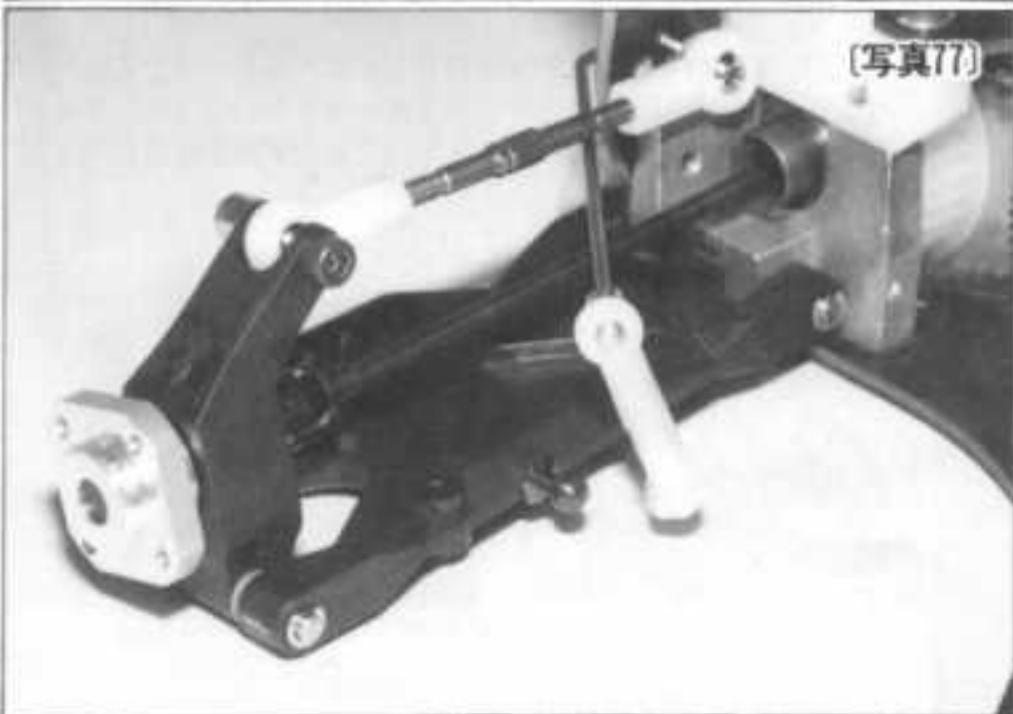
(写真75) 写真66で作ったサスアームピンストッパーをサスアームピンに入れEリングで取り付けます。

(写真76)

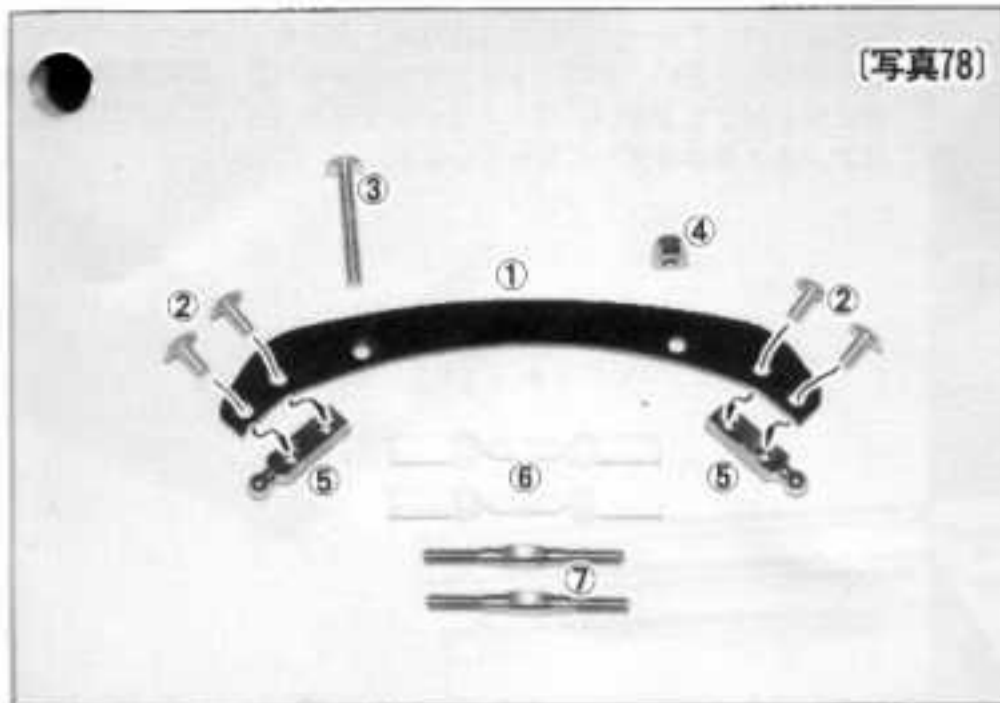


(写真76) タイロッド先端のロッドエンドプラスチックボールパーツをはめ込んで下さい。出来たら、サーボセイバーのアームを左右に動かしてみて軽く動くようであれば完成ですが、動きが重いようであれば各部を点検して、軽く動くように調整して下さい。

(写真77)



(写真77) リヤアンチロールバーにつけたボールエンドキャップをリヤサスアームのロッドエンドスティールボールに入れます。

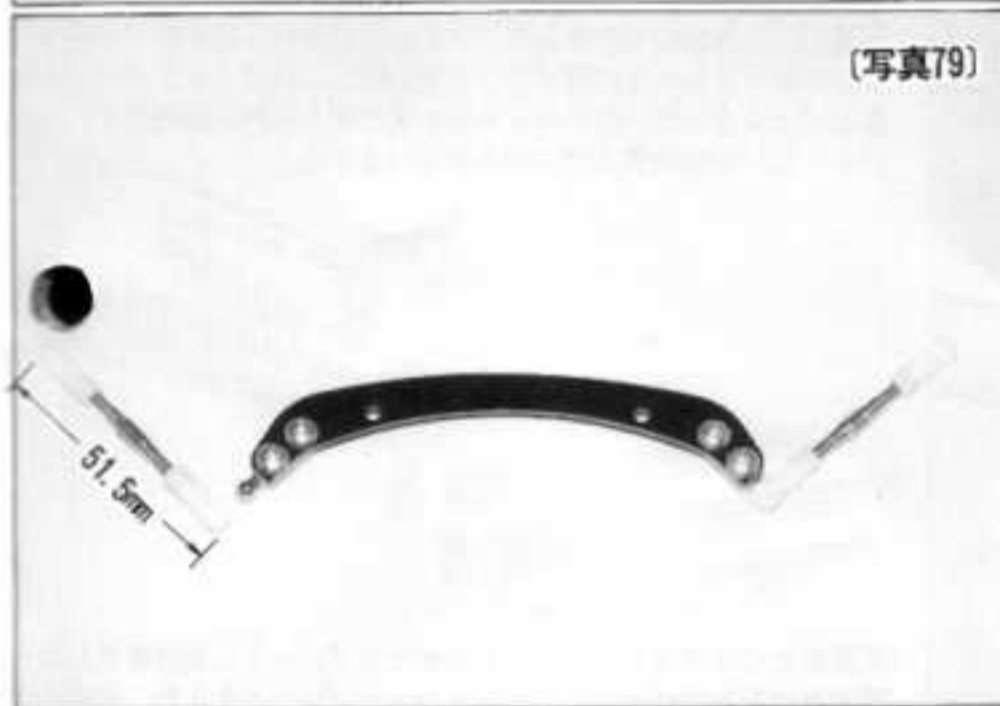


〔写真78〕

〔写真78〕 №13トルクロッド部品の袋を取り出して内容を確認します。

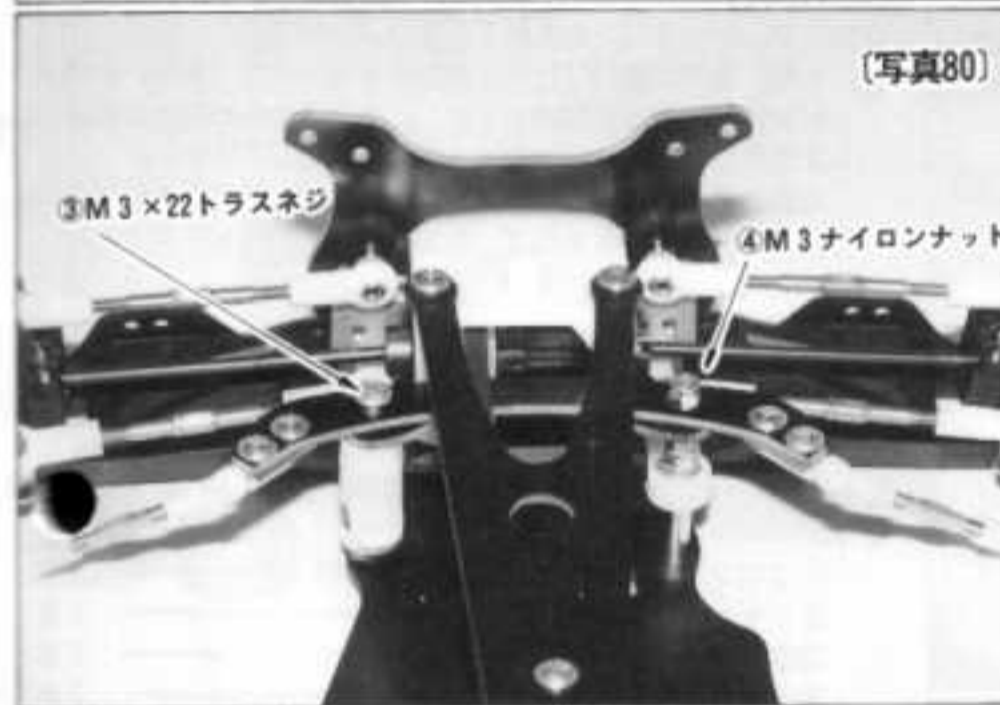
- | | | |
|----|------------------------|----|
| 内容 | ①トルクロッドサポート..... | 1枚 |
| | ②M3×6トラスネジ..... | 4本 |
| | ③M3×22トラスネジ..... | 1本 |
| | ④M3ナイロンナット..... | 1コ |
| | ⑤トルクロッド用ボール..... | 2コ |
| | ⑥ロッドエンドプラスチックキャップ..... | 4コ |
| | ⑦33mmターンバックル..... | 2本 |

⑤トルクロッド用ボールは、②M3×6トラスネジで①トルクロッドサポートに取り付けます。



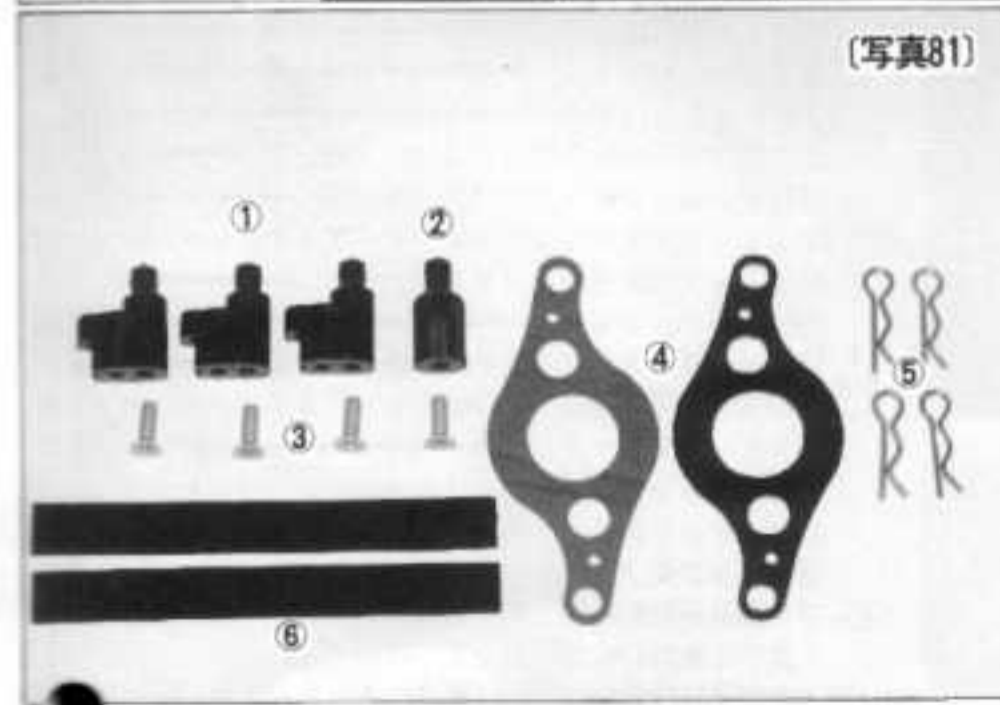
〔写真79〕

〔写真79〕 トルクロッドは51.5mm長さに作って下さい。
矢印の⑥ロッドエンドプラスチックキャップは下を向いています。



〔写真80〕

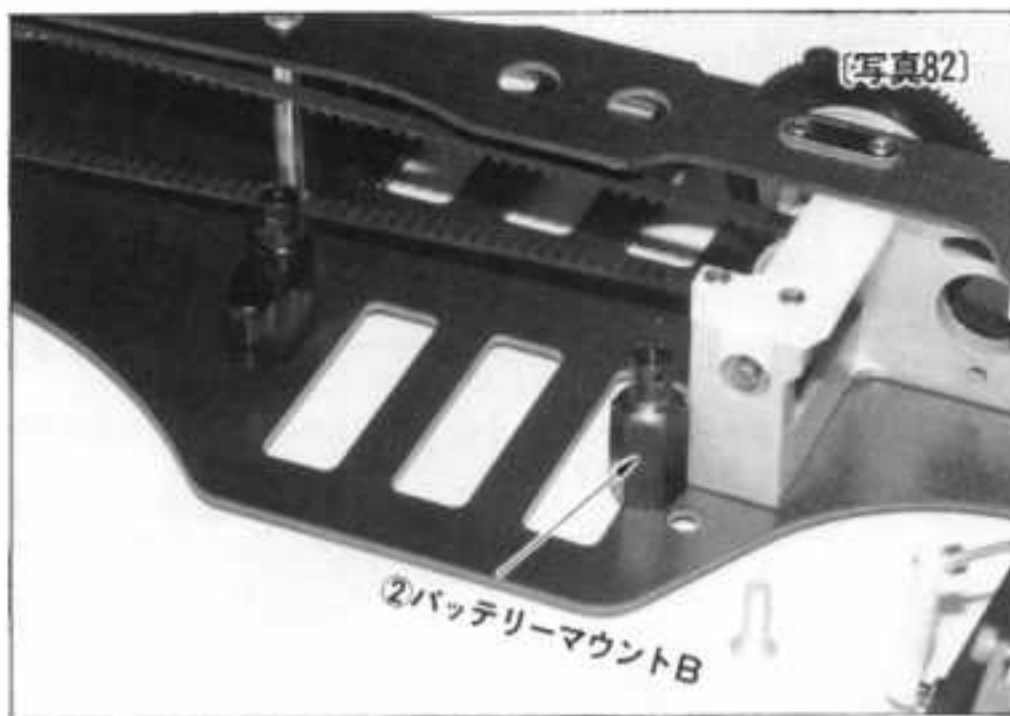
〔写真80〕 トルクロッドサポートを取り付けます。サーボセイバー側は③M3×22トラスネジ、カウンタークランク側は④M3ナイロンナットで取り付けますがカウンタークランクのフランジナットを回して、サーボセイバーサポートにピッタリつけてからナイロンナットを締めして下さい。
トルクロッドのロッドエンドプラスチックキャップをフロントステアリングハブキャリアのロッドエンドスチールボールに入れます



〔写真81〕

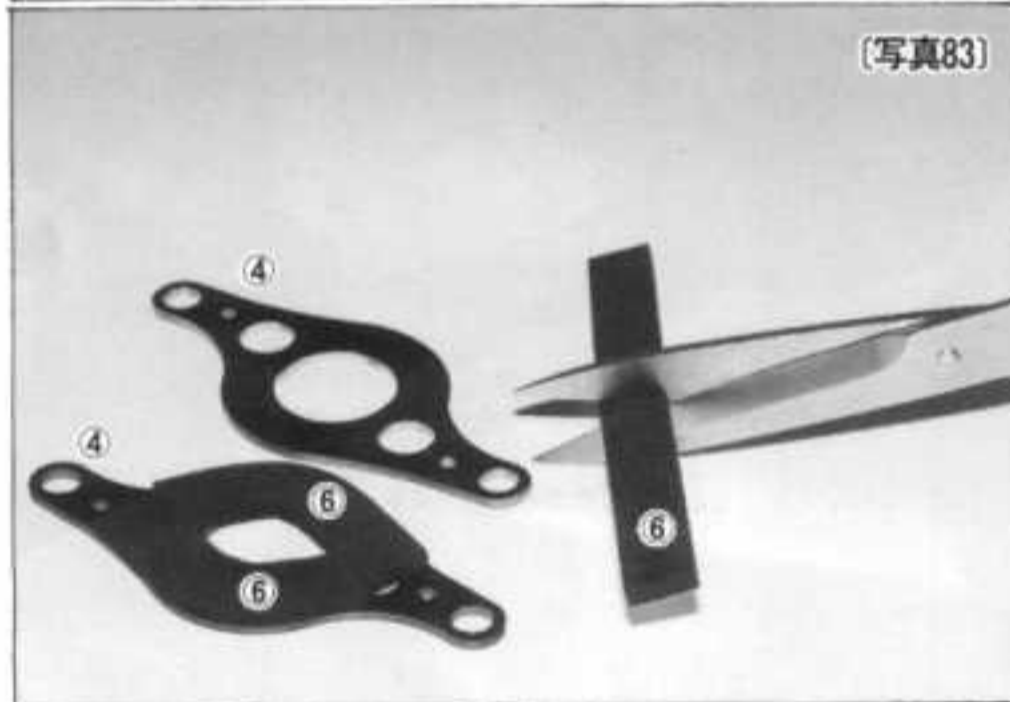
〔写真81〕 №14バッテリーマウント部品の袋を取り出して内容を確認します。

- | | | |
|----|------------------------------|----|
| 内容 | ①バッテリーマウント (A) | 3コ |
| | ②バッテリーマウント (B) | 1コ |
| | ③バッテリーマウント取付用8-32アルミ皿ネジ..... | 4本 |
| | ④バッテリーブレッシャープレート..... | 2枚 |
| | ⑤フードピン | 4本 |
| | ⑥片面のリ付きスポンジテープ..... | 2本 |



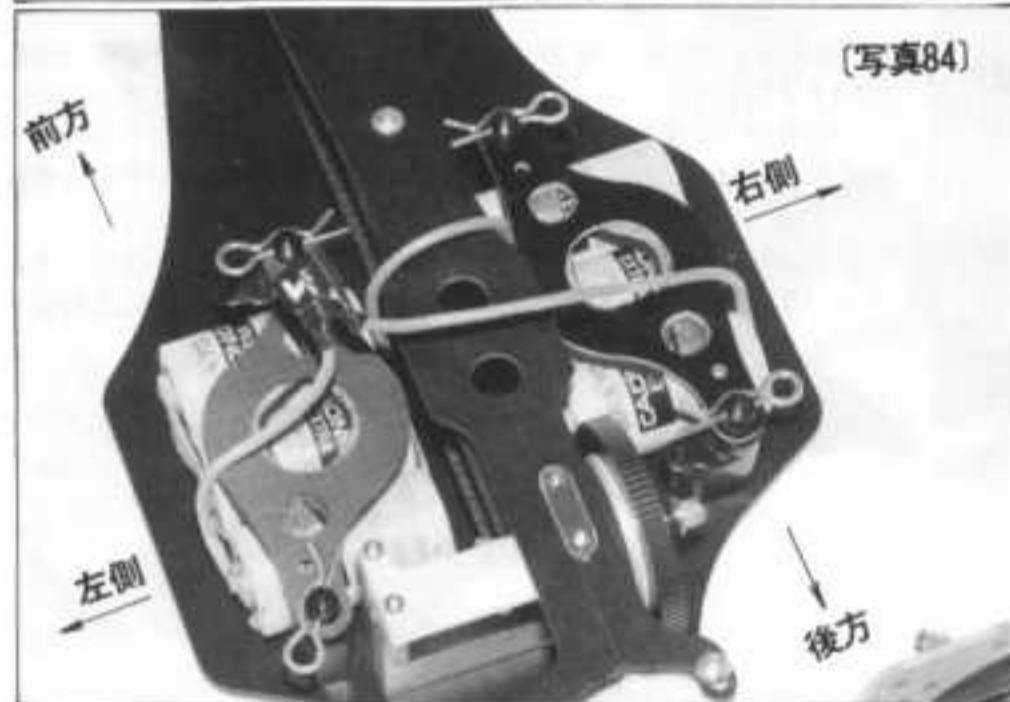
[写真82]

[写真82] バッテリーマウント (A)(B) 4本を、シャーシプレートに取り付けて下さい。②のバッテリーマウント (B) は写真の●の位置に取り付けて下さい。バッテリーマウント (A) に付いた●の部分にはアンテナ用ホルダーになっています。



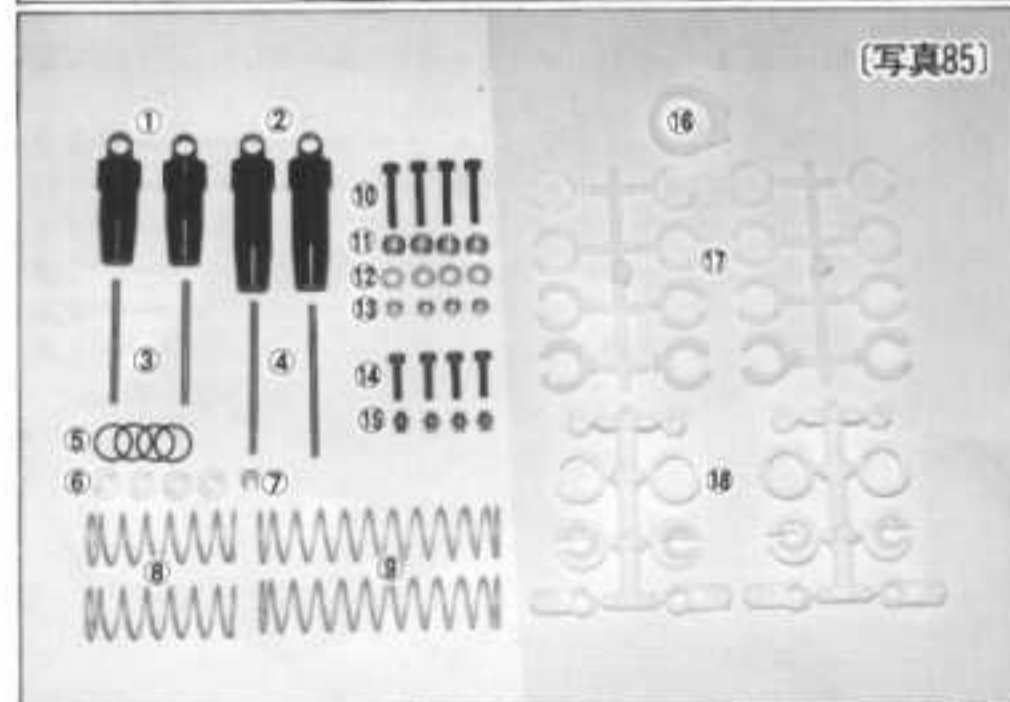
[写真83]

[写真83] ⑥片面のり付きスポンジテープを半分に切り④バッテリーブレッシャープレートに貼りつけます。但しこれはマッチドバッテリーなどバックされていないバッテリーを使用する時に必要です。バックバッテリーを使用する時には必要ありません。



[写真84]

[写真84] バッテリーマウントがシャーシプレートに取付きましたら確認の為に左右のバッテリーブレッシャープレートを入れ、写真のような向きで、フードピンを入れて下さい。
 (注) 左側、後方に取付けたバッテリーマウントB (矢印) のフードピン穴の向きは変則的ですが、このような斜め向きの位置になるように、バッテリーマウントを取付け直して下さい。写真のように出来上がりましたらここで一息入れましょう。お茶とお菓子でもあれば、なお結構ですが・・・

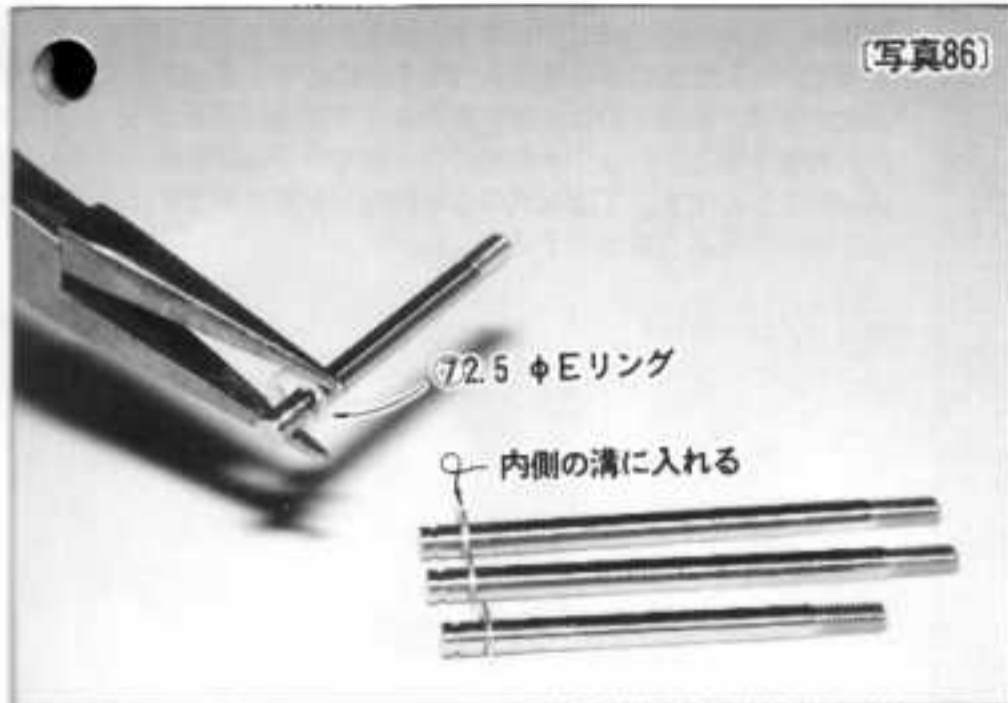


[写真85]

[写真85] №15ショックアブソーバ部品の袋を取出し内容を確認して下さい。この袋には前後のショックアブソーバ各2本計4本が入っています。非常に数が多いので、小袋ごとに良く点検する事。

- ①フロントショック用ボディ (短い方) 2本
- ②リヤショック用ボディ (長い方) 2本
- ③フロントショック用シャフト (短い方) 2本
- ④リヤショック用シャフト (長い方) 2本
- ⑤オイル漏れ防止Oリング..... 4コ
- ⑥テフロンピストン 4コ
- ⑦2.5 φ Eリング..... 8コ
- ⑧フロントショック用スプリング (短い方) 2本
- ⑨リヤショック用スプリング (長い方) 2本
- ⑩ショック固定用M3×18mmキャップスクリュー ... 4本
- ⑪ショック固定用M3フランジナット 4コ
- ⑫M3平ワッシャー 4枚
- ⑬ショック固定用M3ナイロンロックナット 4コ
- ⑭ショック固定用M3×12mmキャップスクリュー ... 4本
- ⑮ショックエンドボール..... 4コ
- ⑯セッティングスペーサーリムーバー..... 1コ
- ⑰セッティングスペーサー..... 2枝
- ⑱ショック用プラスチックパーツ..... 2枝

(注) プラ部品を枝から切り離す時にはナイフでバリを残さないようにきれいに切り取って下さい
 以上の部品に欠品がなければ組立に入ります。



[写真86]

[写真86] 組立に入る前に説明させていただきますと、ショックアブソーバーはフロント用とリア用の2種類があります。しかし、長さが違うだけで基本的には同じですから、写真説明に従って、フロント用(短い方)とリア用(長い方)各2本ずつ計4本を同時進行で組立えていって下さい。

では、シャフトの内側の溝にEリングを入れます。



[写真87]

[写真87] ピストンをシャフトに入れ、ピストンの上側にあるEリング溝にEリングを入れます。



[写真88]

[写真88] シリンダーのキャップをはずし、本体ネジ部の根元にオイル漏れ防止用Oリングを入れます。



[写真89]

[写真89] ショックシリンダーのシャフトが通る穴部分に、入っている小径Oリングに、潤滑用としてオイルをさします。ショック本体のネジ部を上にしてシャフトの通る穴を指でふさいで、10滴ほど入れます。

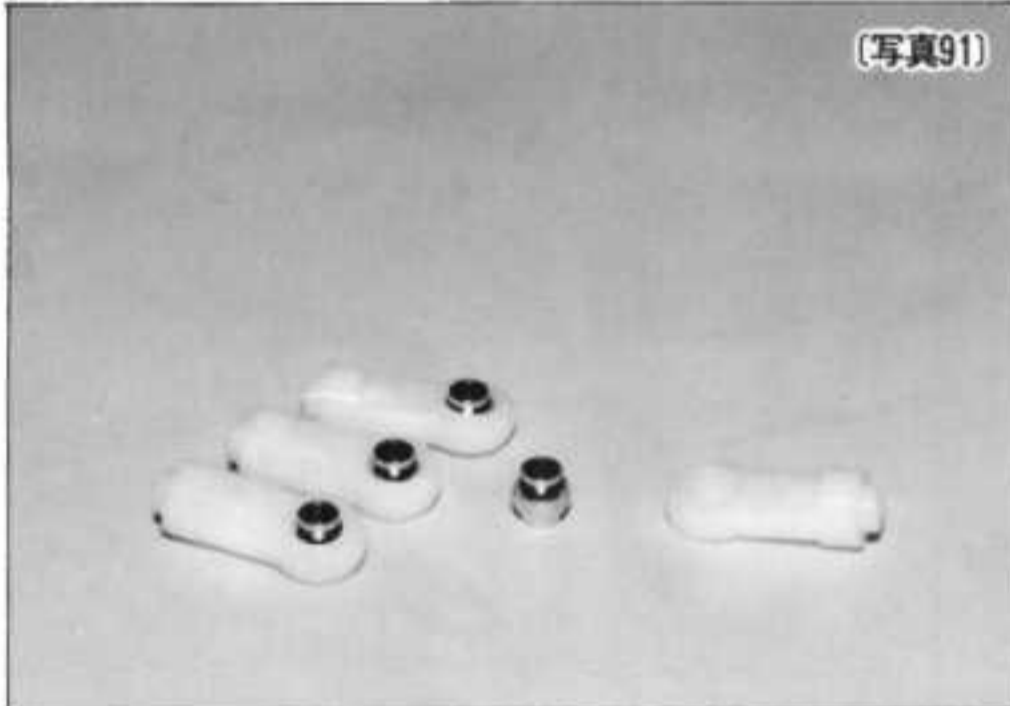
潤滑用としてオイルを
10滴ほど入れる

[写真90]



[写真90] 写真85で完成したピストン付きシャフトを丁寧にピストンが1番下がった状態になるまで入れます。ここで1番注意しなければならない事は、本体下のOリングをシャフトが通過するときに、乱暴な入れ方をすると、シャフト先端のネジ部でOリングを傷つけてしまう事があるからです。丁度写真のこのあたりが要注意です。必ずゆっくり丁寧にを行うようにして下さい。

[写真91]



[写真91] ボールエンドにショックエンドボールを入れます。ボールエンドの穴は大きさが違いますので、大きい方の穴から入れれば簡単に入ります。

[写真92]

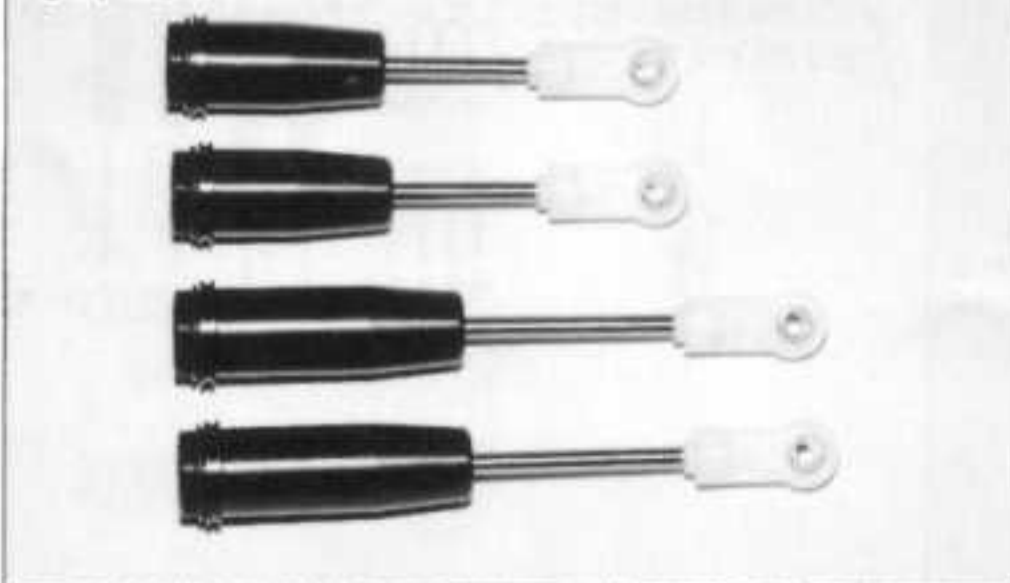


[写真92] ショックシャフト先端のネジ部に完成したボールエンドをネジ込みます。写真のようにピストンの上側のシャフトをプライヤーなどで、しっかりつかんでシャフトのネジ部が見えなくなるまでネジ込みます。こうする事で大切なシャフトの小径Oリングが通る部分を傷つけなくて済みます。

シャフトを全部引き出した状態です。

[写真93]

もし、こうなっていなかったらシャフトの入れ間違いです。



[写真93] さあ、ショックは半分出来たようなものです。もうちょっと頑張って下さい。

[写真94]



オイルは静かに入れる事

[写真94] シャフトをいっぱい下にさげた状態でオイルをゆっくり、ゆっくり静かに入れます。口のところまで入れて下さい。

[写真95]



1. 口のところにピストンがくるまでゆっくりシャフトを押し上げる
2. ゆっくりシャフトを引き出す

[写真95] ピストンをゆっくり本体の口のところまで押し上げて下さい。次にシャフトを更にゆっくり引いて一番下までさげます。これはピストの下に残っていた空気を追い出す重要な作業です。

[写真96]



1. オイルを山盛りになるくらい入れる
2. キャップを止まるまで軽く締める
3. キャップを2回転緩める

[写真96] ショックシリンダーにオイルを加え山盛りにします。オイルをこぼさないようにキャップを一度軽く締めます。止まったところから2回転戻します。

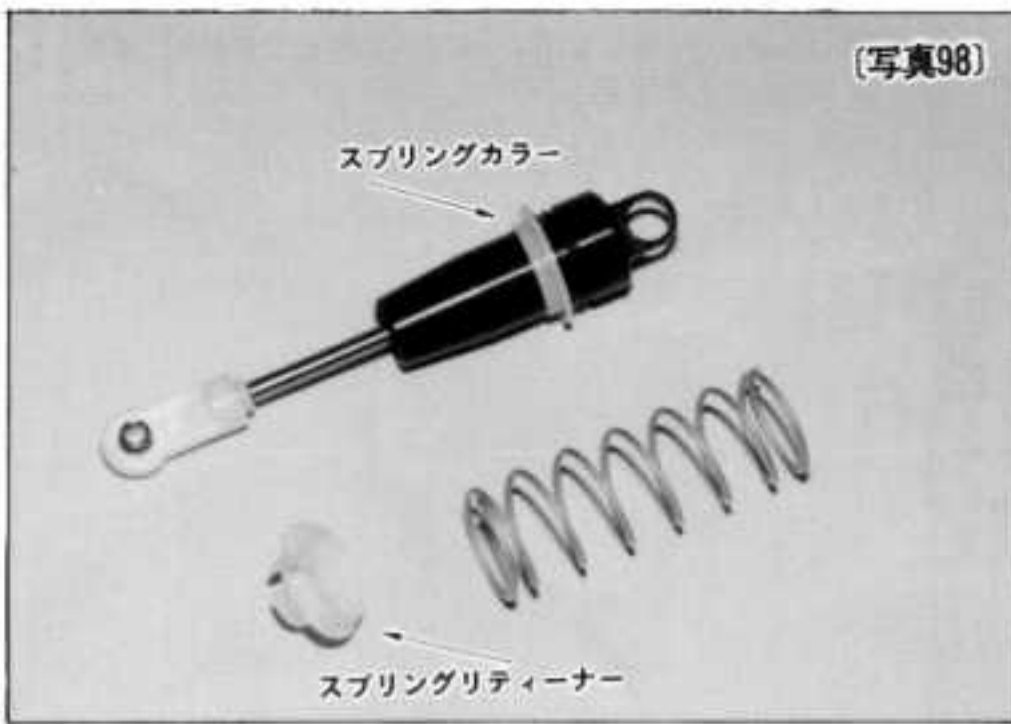
[写真97]



ゆっくりシャフトを押し上げる

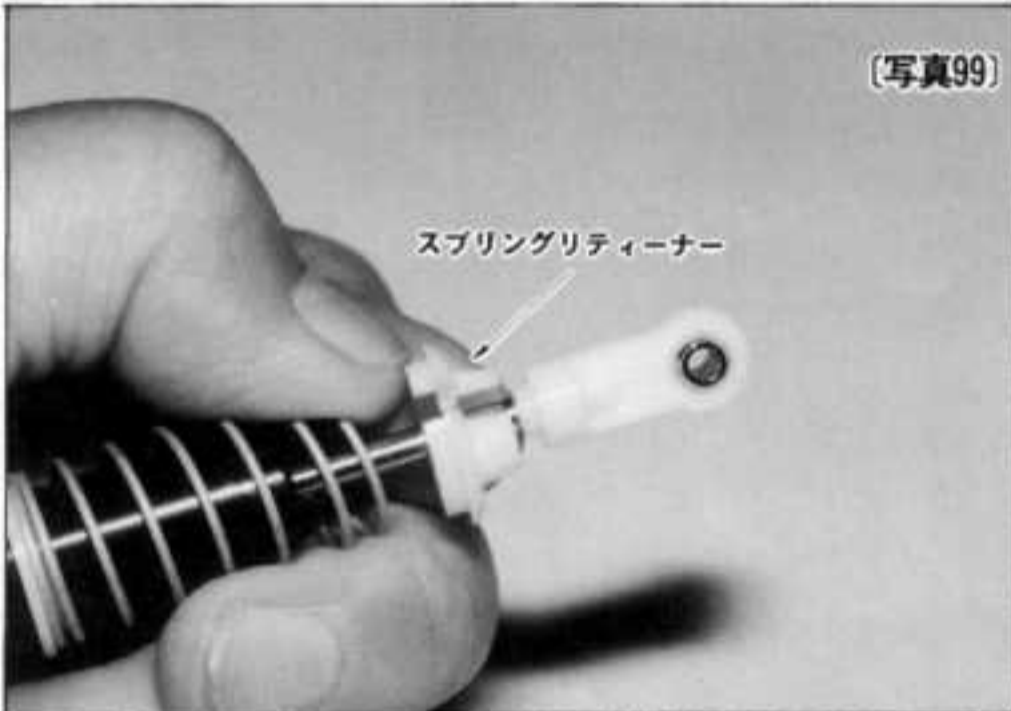
[写真97] 写真のようにショックシリンダーを約45度の角度で持ち、シャフトをゆっくりいっぱいまで押し上げます。するとキャップの間からオイルが出てきます。次にキャップをゆっくり締め込んでいくと、更にシリンダー内のオイルが外に出てきます。キャップを指でしっかり締めればOKです。ペンチやプライヤーを使用する必要はありません。

[写真98]



[写真98] ショックシリンダーの下部からスプリングカラー（缶印）のフランジ部分を上にして入れます。

[写真99]



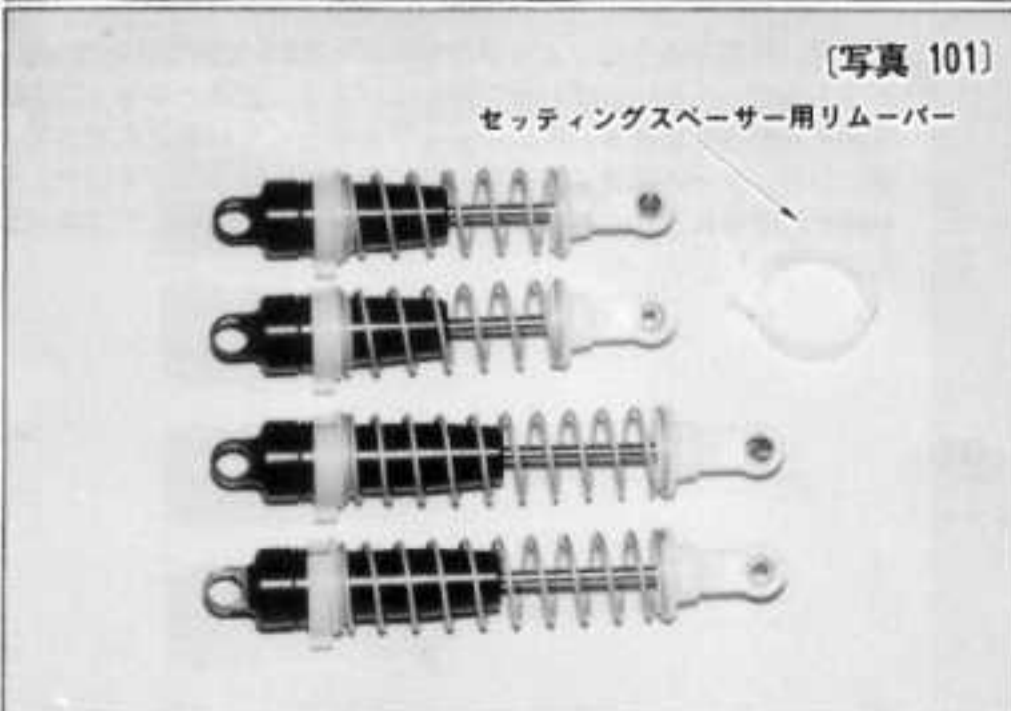
[写真99] スプリングを入れ、上の方に押しきみにして、スプリングリテーナーの切れ込み部分をシャフトに入れ、ボールエンドに差し込み完成です。

[写真 100]

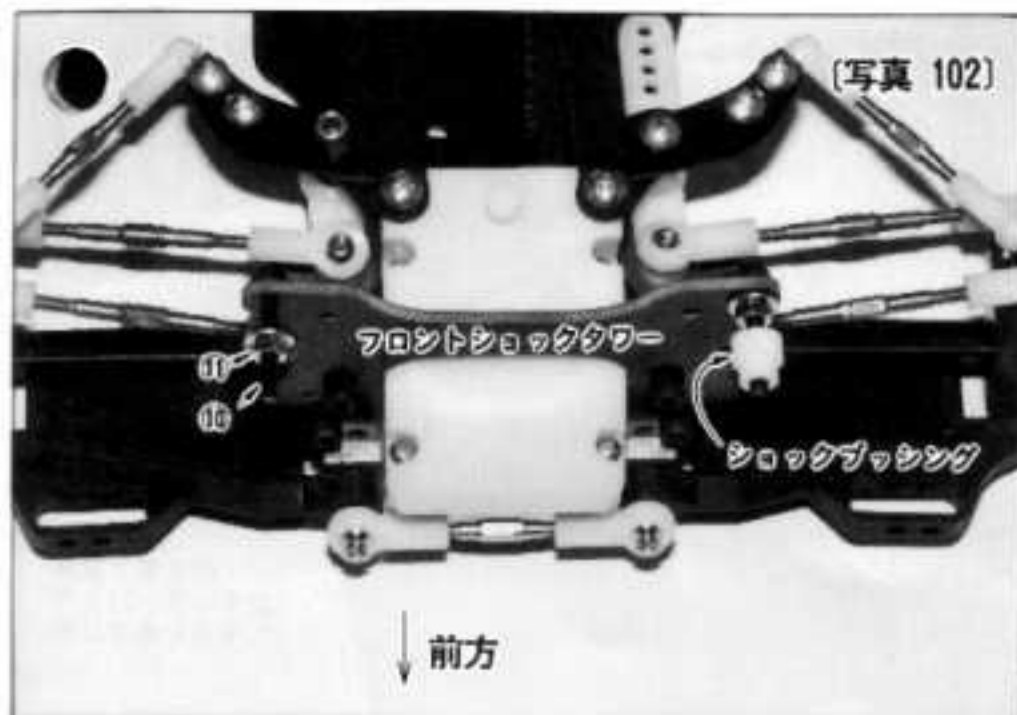


[写真 100] セッティングスペーサーは文字通り走行に際してのセッティング用で、スプリングの強さの微調整が必要な時に使用します。使用方法はスプリングカラーの上に必要と思われる厚さと枚数を入れます。4種類の厚さの組み合わせで1mmから15mmまで1mm単位で微調整出来ます。

[写真 101]

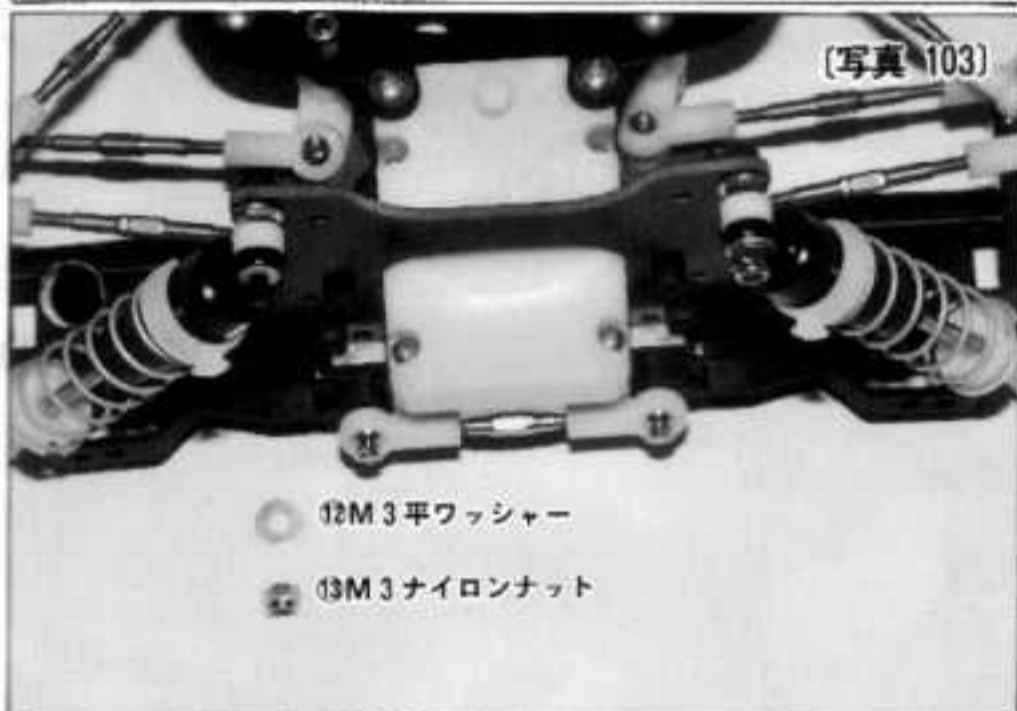


[写真 101] 4本とも完成しました。右上の指輪はセッティングスペーサーをはずす時に使用するリムーバーです。



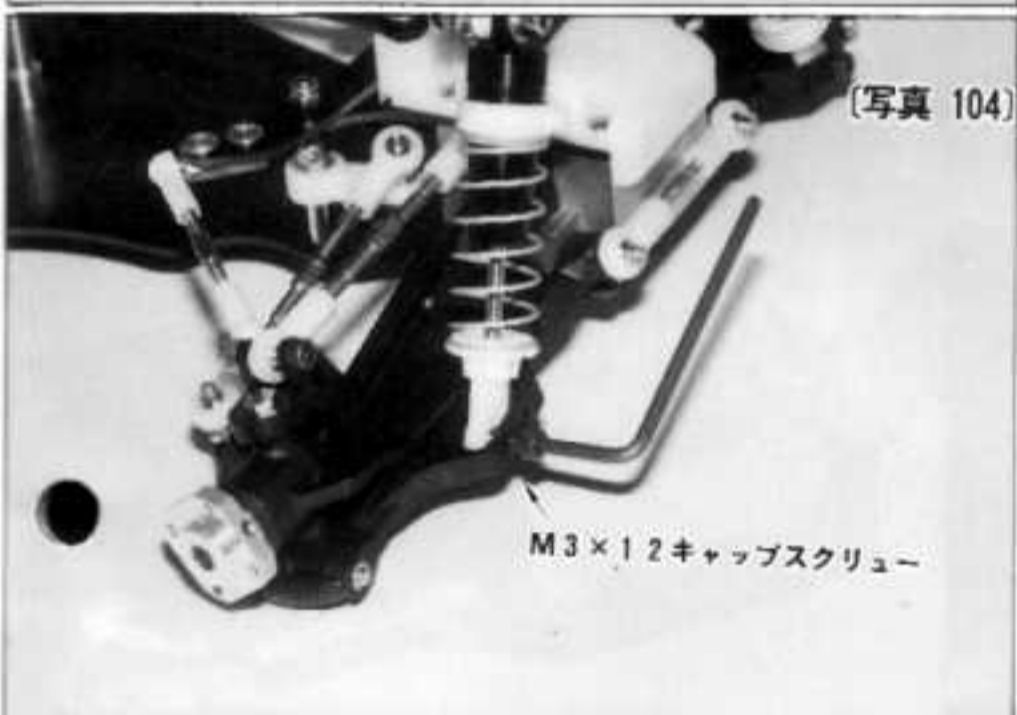
[写真 102]

[写真 102] さあ、それではフロントショックの取付けにかかります。M3×18mmキャップスクリューをフロントショックタワー後方より差込み、M3 フランジナットでガッチリ固定して下さい。写真の右のようにショックブッシングを入れます。



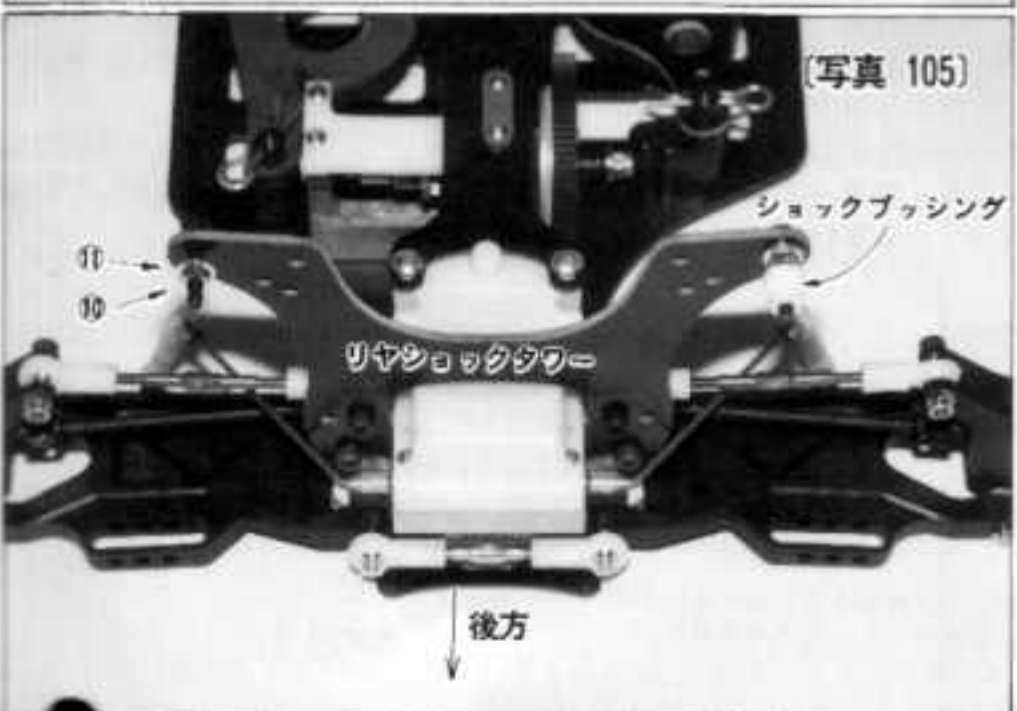
[写真 103]

[写真 103] ショックを写真のようにショックブッシングに入れ、M3 ワッシャーを入れM3 ナイロンナットで固定します。



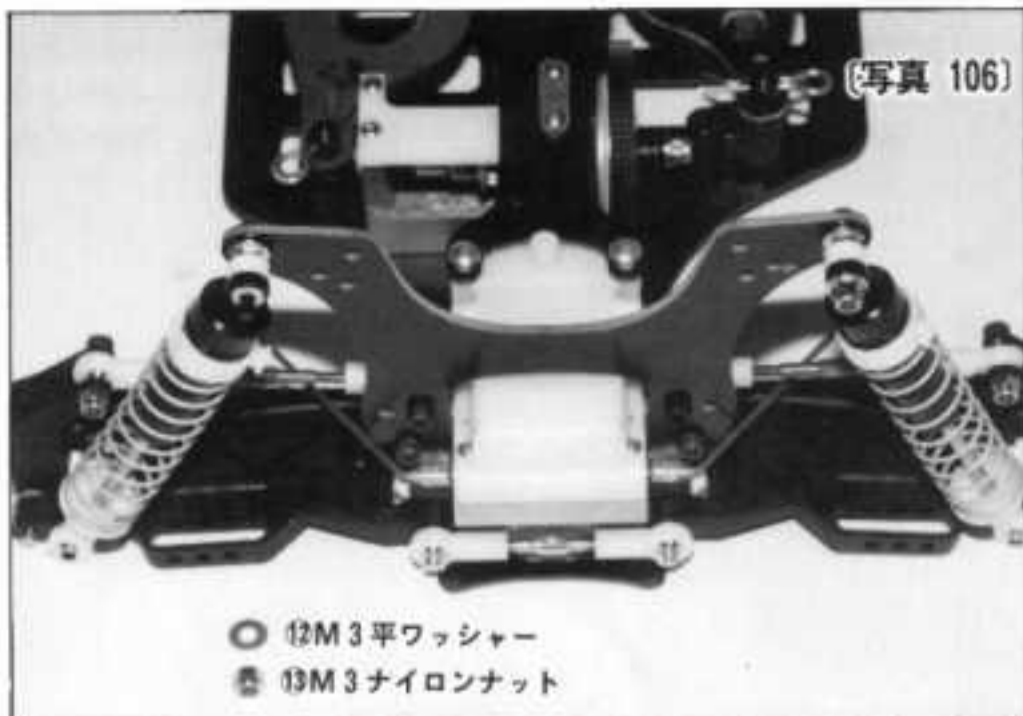
[写真 104]

[写真 104] ボールエンドをサスアームに差し込みM3×12mmキャップスクリューで取り付けます。穴位置は外側を使用して下さい。反対側も同様にして取り付けして下さい。



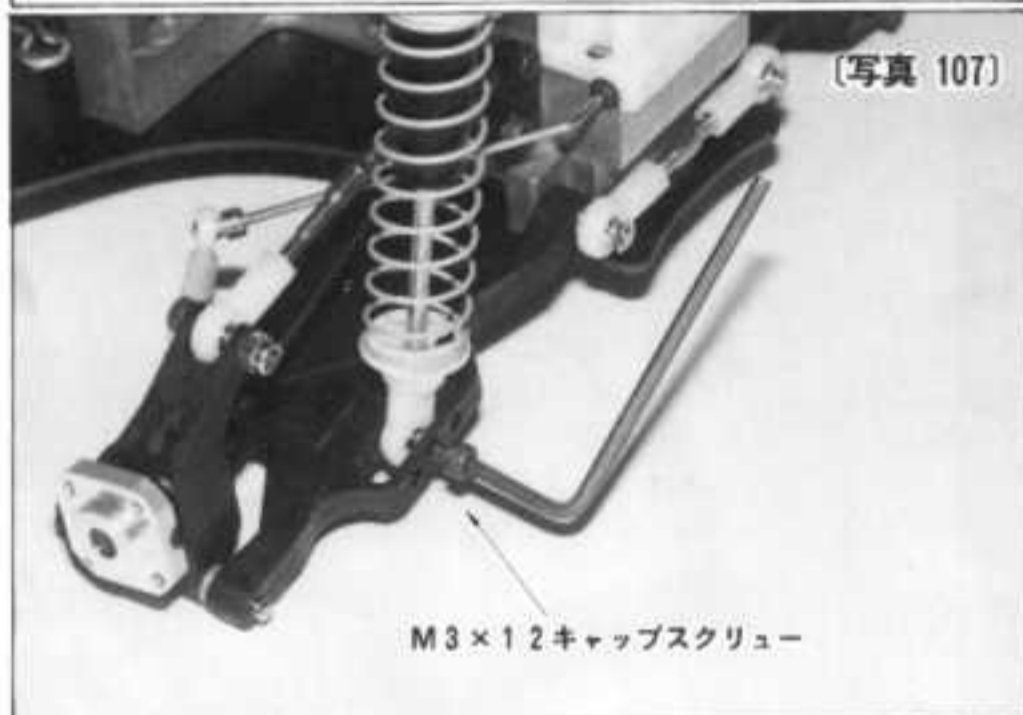
[写真 105]

[写真 105] それではリアショックの取付けにかかります。M3×18mmキャップスクリューをリアショックタワー前方より差込みM3 フランジナットでガッチリ固定して下さい。写真の右のようにショックブッシングを入れます。



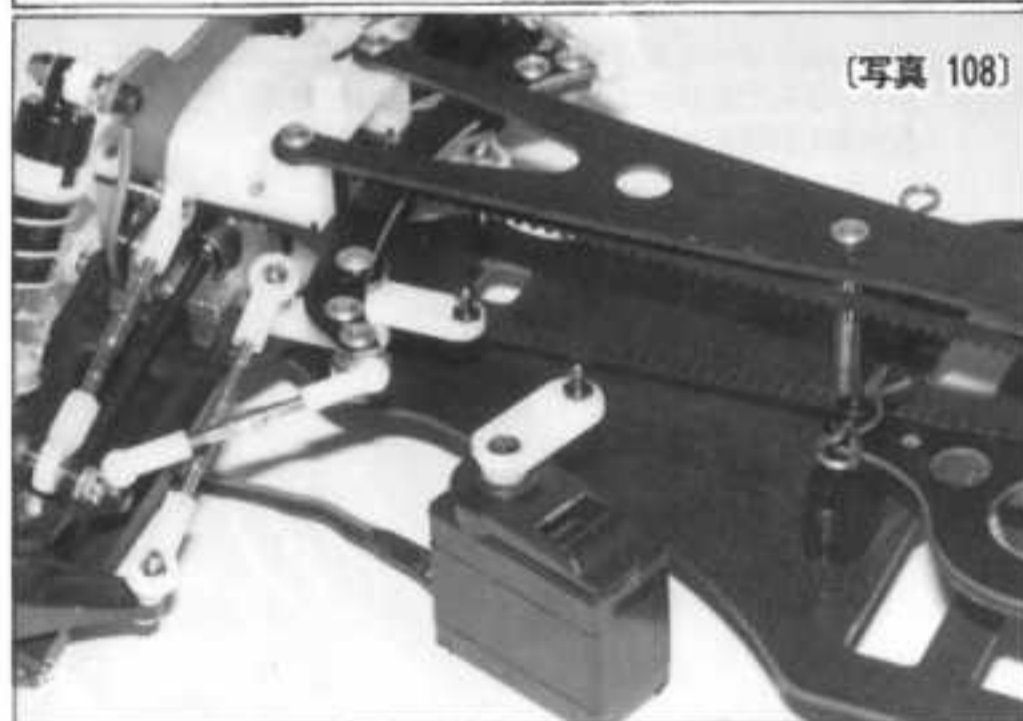
[写真 106]

[写真 106] ショックを写真のようにショックブッシングに入れ、M3ワッシャーを入れM3ナイロンナットで固定します。



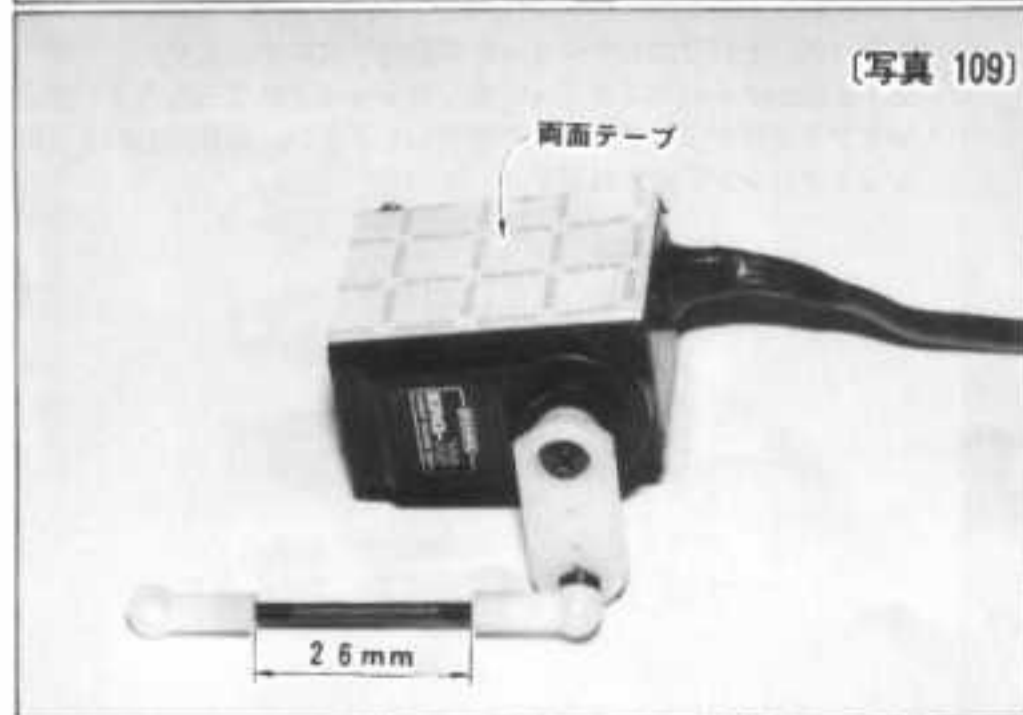
[写真 107]

[写真 107] ボールエンドをサスアームに差し込みM3×12mmキャップスクリューで取り付けます。穴位置は外側を使用して下さい。反対側も同様にして取り付けして下さい。



[写真 108]

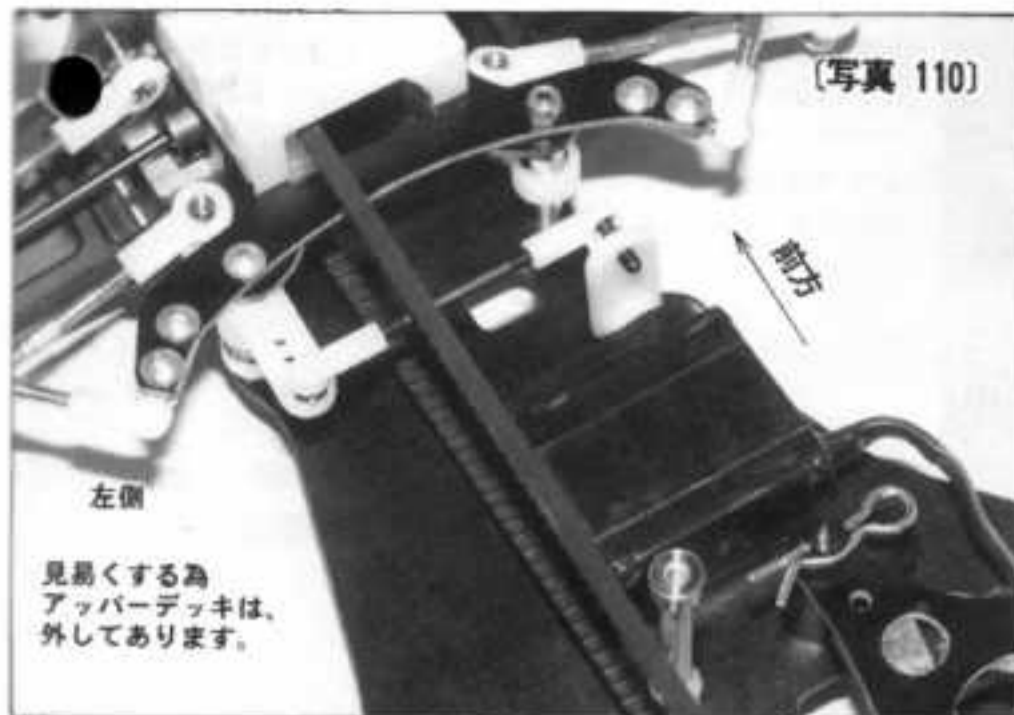
[写真 108] サーボ (あなたのプロポに付いていたものを使います) の取付け。サーボホーンとサーボセイバーに、タイロッド用スチールボールをねじ込みます。この位置は各社プロポメーカーで舵角が違いますので、各自、穴位置を調整して下さい。写真のサーボホーンは普通一般のプロポ用サーボについている丸形や十字形のものでOKです。



[写真 109]

[写真 109] サーボ用ロッドを写真の寸法に作ります。但し、サーボによって差がありますので、長さを適当に調整して下さい。ボールキャップをスチールボールにパチンと入れて下さい。

№0の袋にショック用オイルといっしょに入っていたサーボ固定用両面テープをサーボのサイズに切って、テープの台紙をはがして貼って下さい。



[写真 110] 今、サーボ固定用両面テープを貼ったサーボを、写真のような位置でシャーシプレートに貼り付けて下さい。サーボがしっかりと固定できたならば、サーボ用ロッドを、ベルトの内側に通してロッド先端のボールキャップ部分をサーボセイバーアームに取付けてある、スチールボールに押し込んで接続するのですが、その前にサーボがニュートラル位置にある時に、サーボセイバーのアーム位置が写真のようになるような、長さに調整してからはめ込んで下さい。



[写真 111] あなたの使用するプロボのスピードコントローラーアンプ又は受信機のどちらかを乗せて下さい。(アンプ、受信機等は各社いろいろなサイズのものを出していますので、あなたの手持ちの物のサイズによって合う方を取付ければ良いのです) 写真では受信機を乗せましたので、この場合には、バッテリーマウントAに付いているアンテナマウントの穴にまず、下から写真のようにアンテナコードを通します。次に箱から透明のアンテナチューブを出し、このチューブにアンテナコードを通したら、バッテリーマウントと一体になっている、アンテナマウント部の穴に押し込んで下さい。

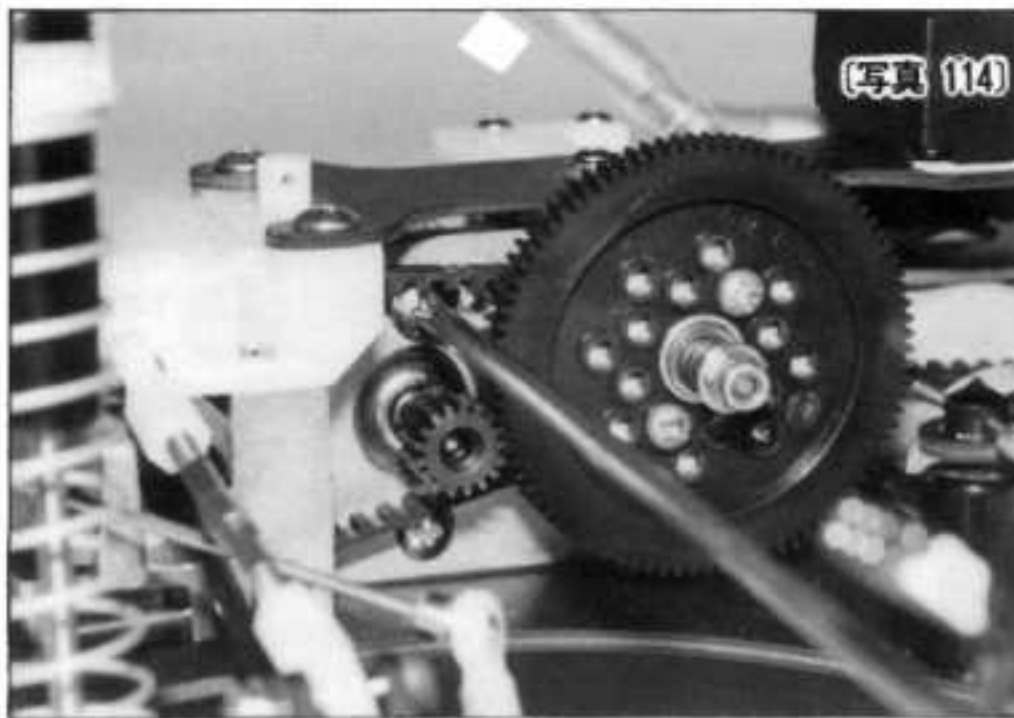


[写真 112] サーボ用コード、アンプのコード等はベルトにふれないように、きれいに整理してまとめましょう。



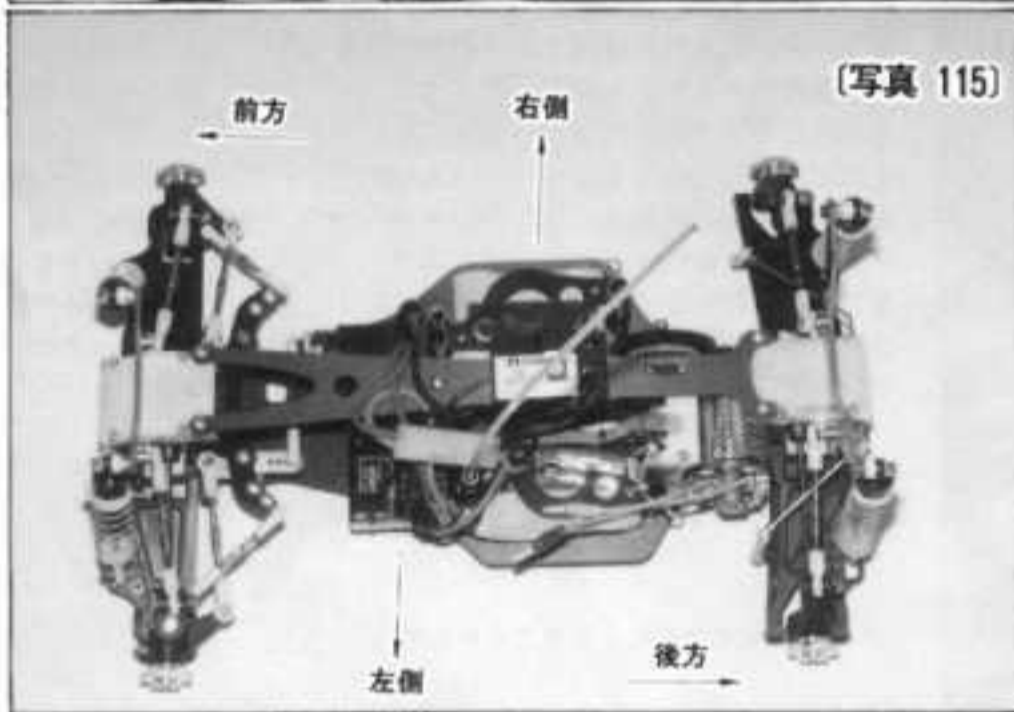
[写真 113] 受信機、アンプ、バッテリー、モーター等の配線(プロボ及びスピードコントローラーアンプの説明書を参照下さい)を済ましたならば、モーター(別購入品)に№16の袋のピニオンギヤ(17歯)を同じ袋に入っているセットスクリューとアレンレンチを使って取付けて下さい。

注) このワークス'93には合計4種類のサイズのアレンレンチを使用していますが、ピニオンギヤのみ、インチサイズを使用しています。他の3種類はミリサイズですから間違いないように注意して下さい。



[写真 114]

[写真 114] モーターにピニオンギヤを取付けましたら、つぎに、今のNo.16の袋に入っているM3×8mmトラスネジ2本を使用して、モーターマウントを取付けて下さい。その際、固定位置については、ピニオンギヤとメインギヤの歯の噛み合わせに十分気をつけて（深すぎず浅すぎず）決定して下さい。



[写真 115]

[写真 115] 以上でシャーシ部分の組立が写真のように完成しました。



[写真 116]

[写真 116] タイヤをホイルにはめ込む。ホイルにタイヤをはめ込んだだけでも走行はできます。しかし、レースはもちろん、性能を最大限楽しみたいという方には、必ず接着することをお勧めします。外側だけでなく内側も接着します。また、タイヤの外周面には、空気抜き用の2.5mmφ位の穴（写真117参照）を2～3コあけるようにしてやると更に好結果が得られます。



[写真 117]

[写真 117] タイヤ付きホイルを、M3×5mmナベ頭ネジ8本（No.9袋ホイルハブと一緒に入っていた）を使ってしっかりと取付けて下さい。

空気抜き用穴を開ける
4本共、2.5mmくらいの穴を2～3個開ける

[写真 118]

3枚ともハサミで半分の幅に切る



[写真 118] キットの箱にバラで入っていたスポンジテープ（防塵用フォームラバー）とマジックテープ2本の計3本を取り出して、写真のようにハサミで半分の幅に3本共切ってください。今、半分の幅に切ったテープ3本のうち、マジックテープの水色の台紙が付いたものは2本共、ボディの塗装が済んでからボディ下の裏面両側に貼るので、とりあえずそれまでとっておいて下さい。後の黄色の台紙が付いたマジックテープ2本とスポンジテープは写真117で使います。

上側はスポンジ、下側は黄色い台紙のマジックテープをアンダーカバーの外側に貼る

[写真 119]



(注) 後方の3φ穴は今とは開けず後でシャーシにアンダーカバーを取り付ける時に穴位置現物合わせで開ける

[写真 119] アンダーカバーを箱より取り出して下さい。

ハサミ、カッターナイフ等でアンダーカバーに入っているカットラインに沿って切り取って行きますと、左写真のようになります。また、写真にも記したように、前、後端の4mm位を切り落として下さい。それが出来たところで、前方の4.5mmφ穴を2つ○印の位置に開けて下さい。

(注) 後方の3mmφの穴はまだ開けないようにしておいて下さい。以上、出来ましたら写真118で切ったスポンジテープを両、側面上側黄色台紙のマジックテープを両、側面下側に写真のように貼ってください。

[写真 120]

この写真は車を裏返しにおいたところ

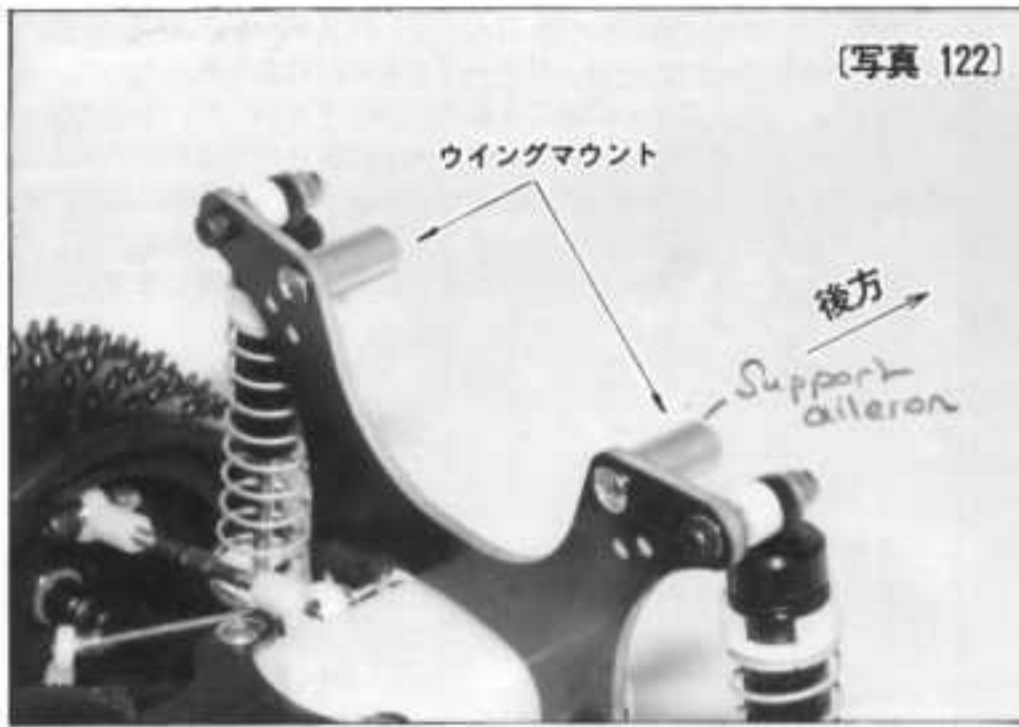
[写真 120] 写真119で出来上がったアンダーカバーをシャーシプレート下側よりかぶせるようにして取付けます。まずフロント（前）バルクヘッドの前方の仮締めしておいた緑色の8-32皿ネジ2本と次頁写真119でドライバーを当てているモーターマウントを止めている一番後ろのM3トラスネジ1本の計3本を一度ゆるめて外して下さい。3本のネジを外したら、先程作っておいたアンダーカバーを左写真のようにかぶせて、ミニバンパーの穴に先に外した緑色の皿ネジを2本入れ、アンダーカバーをはさみ込むようにして、しっかりと締めてください。

[写真 121]

後方

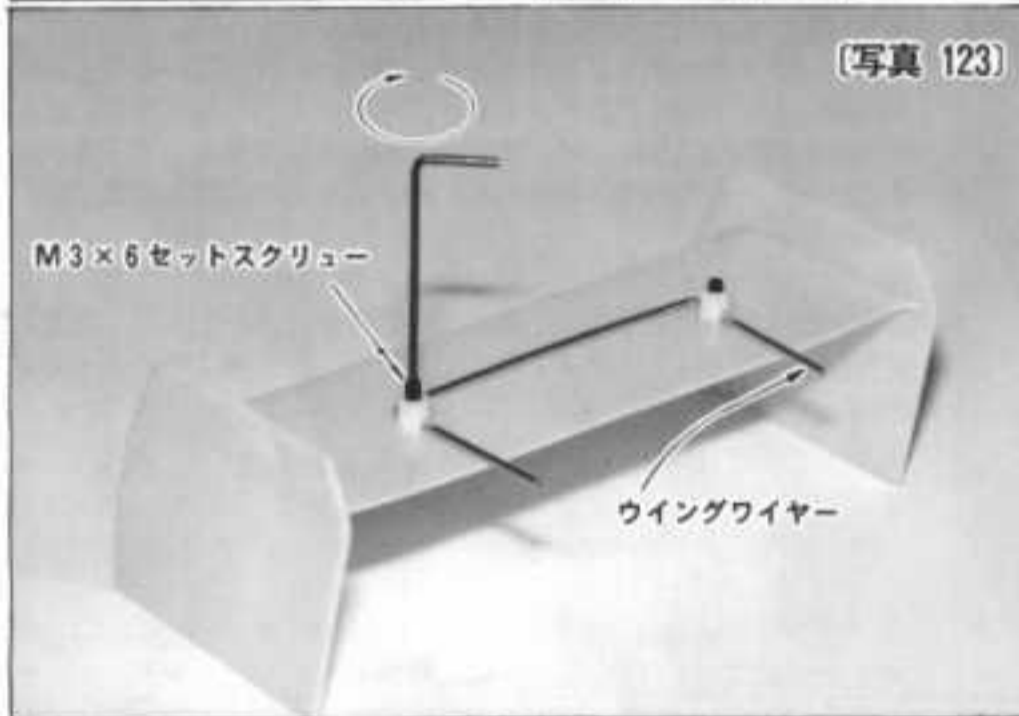
[写真 121] アンダーカバーの前方が止まりましたら次は後方の取付けですが、先程外したモーターマウント後方のM3ネジ穴部分に当たるアンダーカバーの位置に、現物合わせで3mmφの穴をナイフの先などでゆっくりとていねいに回しながら開けて下さい。穴が開いたら、先ほど外したM3ネジをこの穴に入れ、モーターマウント最後部にねじ込んで下さい。これでシャーシプレート下側にアンダーカバーが取付きました。

[写真 122]



[写真 122] リヤショックタワーに№17袋に入っているアルミ製ウイングマウントをM3×8mmトラスネジ(長い方)で写真のようになりと左右に取付けて下さい。取付穴位置は、左写真をよくご覧下さい

[写真 123]



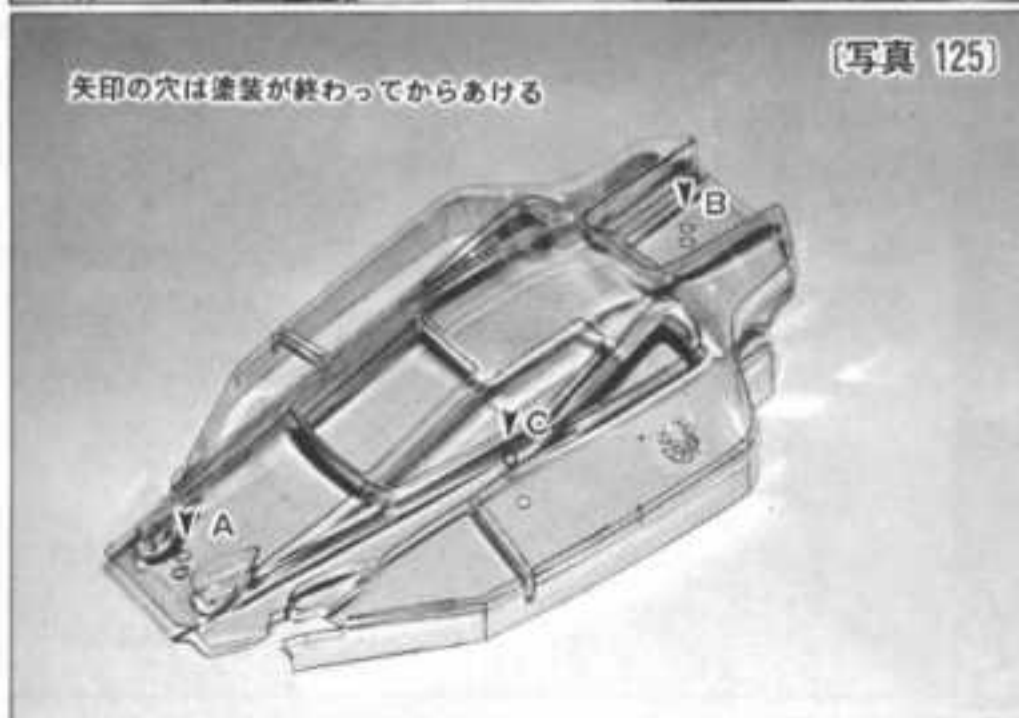
[写真 123] ウイングホルダー用取付け穴にウイングホルダーをウイング上面から入れ、コの字型したウイングワイヤーを写真のように差し込みM3×6セットスクリューで固定します。

[写真 124]



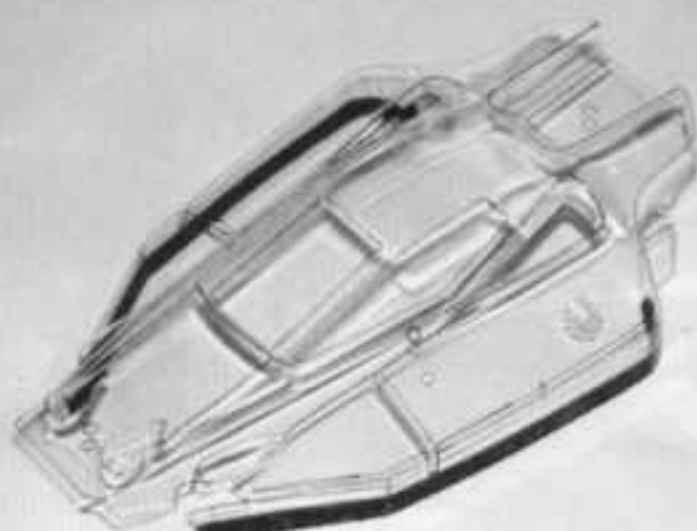
[写真 124] ウイングの取付け方
出来上がったウイングのワイヤー部分を、車のリヤショックタワーに取付けたアルミウイングマウントの前方穴に差し込む。次に№17袋に入っているM3×5の小さなナベネジを写真のようにねじ込んで締め固定すれば出来上がりです。

[写真 125]



[写真 125] ボディを箱から出して、ボディに入ったカットラインに沿ってゆっくりと丁寧に切り取って下さい。切り終わりましたら、裏面をきれいに拭き取ってから、ポリカーボネイトボディ用塗料で裏面より好みの塗装をして下さい。塗料が完全に乾きましたら矢印位置ABCに6mmφ位の穴を3つ開けて下さい。

〔写真 126〕



青い台紙のマジックテープを内側に貼る

〔写真 126〕 写真125 で塗装と取付用の穴開けを済ませたボディの内側、側面下の部分に写真118 で半分の幅に切ってとっておいた、青色の台紙が付いたマジックテープの台紙をはがして、写真のように貼り付けて下さい。これでボディも出来上がりです。

〔注〕 写真では説明が分かり易いように塗装をしていないボディを使用していますが、あなたは塗装済みのものに行います。

〔写真 127〕



〔写真 127〕 出来上がったボディを車体に取り付けて下さい。ボディは後方を先にかぶせるようにして取付けると楽に行えます。ボディがついた時に気がついたかとは思いますが、アンダーカバーとボディ下側に付いたマジックテープが、しっかりと付いてしまいますから、これで十分外れることなく走行は出来るのですが、レース出場の際には、万一の事も考えてバルクヘッドのボディマウントにフードピンも差し込んで万全の体制で走行させて下さい。

ホイールにホイールステッカーを貼ります。キットに付属しているのは、蛍光ピンクですが他に蛍光レッド、蛍光イエロー、蛍光グリーン、蛍光オレンジが販売されております。

ご自分で完成させたヨコモ スーパーダッグファイター ワークス '93をご覧になってどうですか？いかにも速く走りそうに見えませんか？ そう、速そうに見えるでしょ。それでよいのです。一生懸命作ってくれた人には必ずそう見えるはずですよ。

又、ヨコモワークス '93なら必ず、皆さんの期待通りに速く走る筈です。後は走行させながら、コースや自分の好みに合わせてセッティングしていけばレースでも十分に良い成果を出してくれる4WDオフロードマシンです。

いつでも最高の性能を発揮させる為には・・・

①走行前後には必ず小まめに整備、清掃をする事。

幸いヨコモワークス '93は整備の楽なマシンですから、レース中でも十分に出来る筈です。点検箇所を記しておきましょう。

- イ) 各部の部品に痛みが無いかどうか、特にベルト等は必ず見る事。
- ロ) ネジ等にゆるみが無い事を確かめる。
- ハ) 駆動系が軽く動く事を確認、特にブリー部分に土や小石等が、はさまっていないかどうか？多少でも、はさまっているようならきれいに取り除いておく事。
- ニ) デフはいつも軽く作動するように。もし動きがゴリゴリしたりして、スムーズでないような時には、デフを取り外して分解掃除をする事。
- ホ) サスペンションが軽く動く事を確認。

②コース路面や好みの操縦感覚に合わせたセッティングを行って下さい。

- イ) 最も簡単で効果が大きく現れるのは、前後のタイヤを色々と取替えてみる事です。ヨコモではワークス '93用として、形状の異なったものをフロント7種類、リヤ9種類、更に各タイプ共コンパウンドの異なった2-3種類を用意しています。又スポンジタイヤもフロント、リヤ各2種類を用意しています。是非、実際にトライして確かめて下さい。
- ロ) ショックアブソーバーの調整、オイル及びスプリングの固さの変更、場合によっては別売りでフロントショックの短いものリヤショックは長いものも用意してあります。
- ハ) サスペンションのキャンバー角の調整及びフロントのトー角調整等々まだ他にいくつかありますが、余り難しく考えなくても十分に速く走る筈です。後はじっくりとセッティングを煮詰めていって下さい。どこまでいっても最も重要な事は、マシンの整備につきます。頑張ってRCオフロードスポーツをお楽しみ下さい。

rondelle de butée à bille de dij
de tokomo

rondelles de slippers
jeux ressorts schum.

TOKOMO
WORLD WINNER R/C MODEL RACING CAR BY TOKOMO LTD. TOKYO